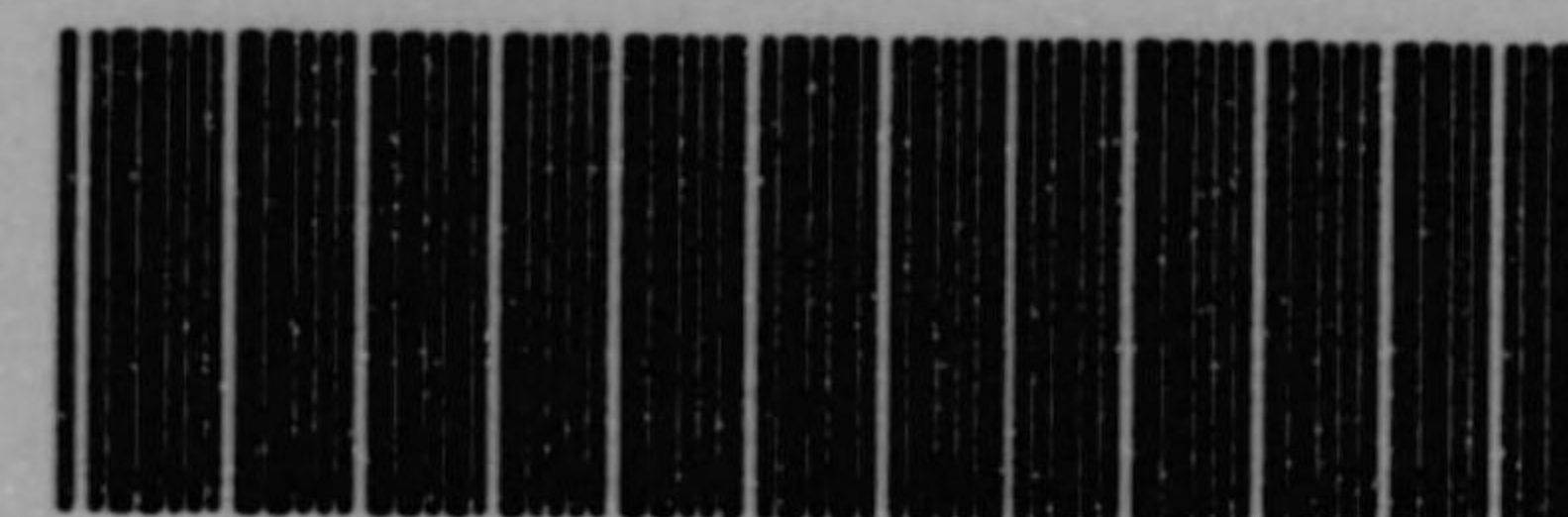


299  
65



\* 0050982000 \*

0050982-000

299-65

女学校を卒へて

小山文太郎・著

三省堂

昭和3

AHM



299

女子學校卒業

65











版堂省三





### はじめのことば

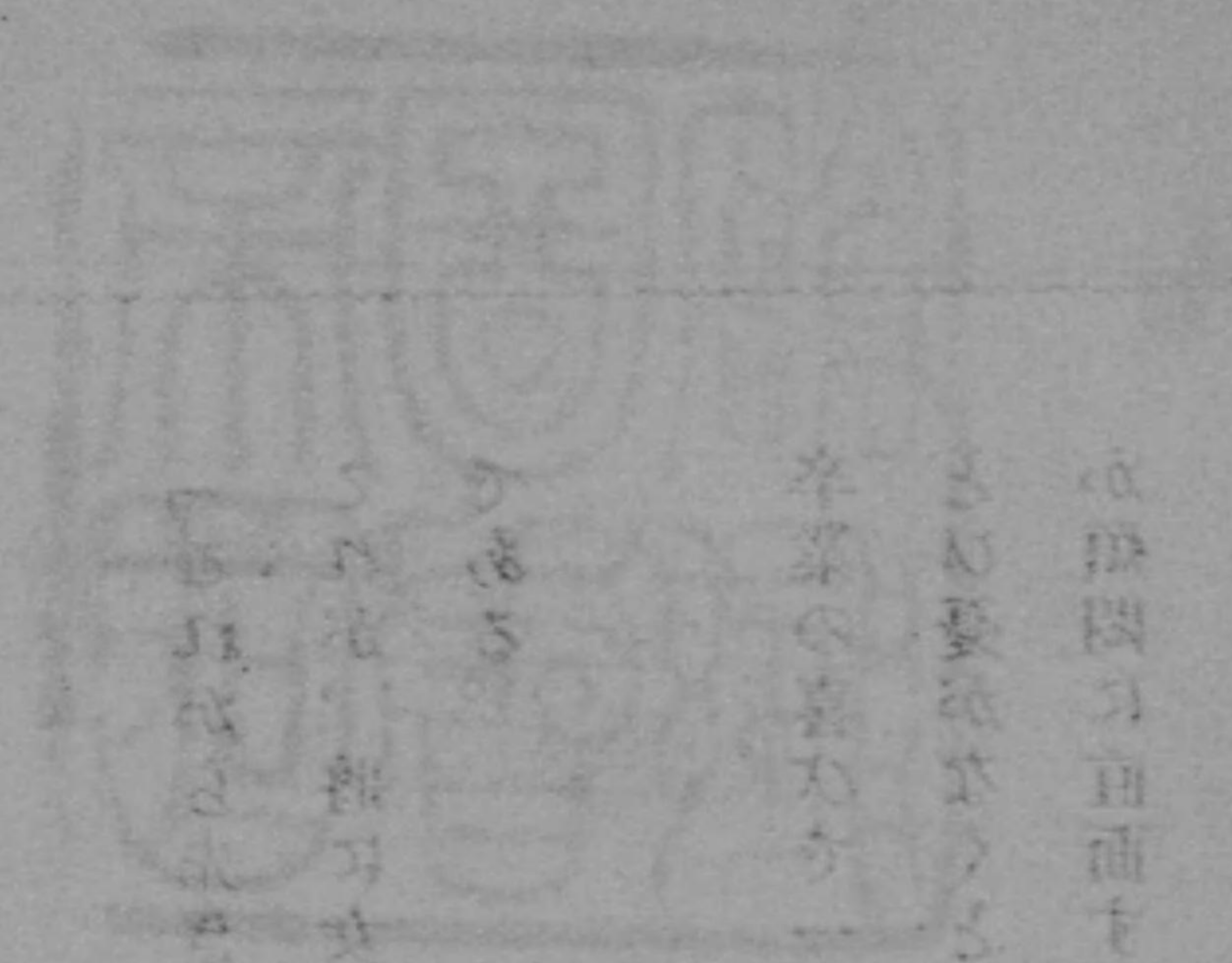


「これから先き、どうしよう。」

これが、將に女學校を卒業しようとする若き女性の、たのしい中の悩みである。



卒業の喜びで一ぱいな人もあるが、前途の憂に充ちてゐる人もある。たとひ憂がなくとも、しんみり考へる時、やはり惱が生れてくる。いつしか煩悶に直面する。



はじめのことば



昔は女學校出といへば、えらいものであつた。そして嫁ぐ資格が出来、嫁ぐ準備に之から没頭するだけでよかつた。けれど、近頃はかうした一筋道を、彼女等が歩けなくなつた。或る人は高等な學校に、或る人は職業婦人に、其中でも亦色々のかまかい道を辿つて行く。

◇  
迎れる人はいい。或る道をはつきりきめられる人は幸福である。しかし女なるが故のたくさんの障碍、之は古へからの傳統の繩により、近代思潮のしがらみによつて、かなり彼女の行くてを遮つてゐる。この繩にかり、この繩につかへてゐる中に、年は逝く——かへらぬ年は逝く。

◇  
古い頭に対する、新しい思想の争ひは、家出となり、淪落となり、初の中胸に系がいた理想とは、あまりにかけはなれた現實に直面しても、もはや人生の遅刻である。

◇  
私は此の年來、女學校を出た人の、出ようとする人の、多くの悩みを聞いたり見たりして、其の解決が、彼女自身に悩みであるばかりでなく、相談を受けた私自身の悩みでもあつた。卒業期が近づくにつれて、この悩みの訴へと、解決の悩みとが、如何に多くの波紋を各地に描いて行く事であらう。



私は、しかし、自分の承けた相談の解決のみで憚んだのではない。同じ悩みをもつ女性のすべてについて、其の解決に悩むやうになつた。新舊思想の交錯する現代に於て、独自の道を歩く事をまだく許されない所の、今日の女性の地位を思ふ時に、そして、獨りで歩かうとして尙縛られたひもとく事の出来ぬ教養ある女性の心を思ふ時に、これは深酷に考へねばならぬ大きな問題だと思つたのである。

之は、どうしても、各人が思想的に確乎たるものをうち立てねばならぬと考へて、同志のものを集めて、小さな婦人の爲の講座を作り、書物

によつて之が目的を達しようとした。しかし、今の女性の爲にかゝれたものは、現在の状態から見ても、あまりにもかかはなれた、新しすぎるものでなければ、現在の状態といふよりも、昔のそれを讚美した女大學式のものである。少くも、現代に適合すると思はれるものは一冊も得る事は出来なかつた。

暗夜に提灯をもつて客を案内する時、提灯は客からあまり遠い先にはならぬやうに、あまり遠いうしろにゐてもならない。一步さきに出て、客の足もとののはつきりするやうに、どし／＼進めるやうに、案内者は考へねばならぬ。しかし、私の見た提灯持は、足もとの暗い若き女性



を案内すべく、あまりに先の方を走りすぎてゐた。あまりにうしろの方をのた／＼してゐた。

私は、この書物を女性の案内者としてさしげるのに、不遜と自責とを感ずるものである。けれども、少くも、私自身、忠實なる案内者としての心持をはなれず、彼女の足もとの、ぬかるみ・水たまり・おとしあな・高いがけ、さうしたものの存在を知らせつゝ、パラダイスへの道しるべを傳へる事を忘れなかつたつもりである。

私はまづ、今の女性が何故に他の時代に比べて悩みが多いかを考へて

見た。そして其の悩みは、生みの苦しみであり、創造の悩みである事を知り、創造の進路へと案内の歩をすゝめて行つた。

悩み——之を具体的にいふならば、もう一步勉強しようか、職業にかうか、家にゐて修養しようか、家庭の人になるにはどうすればよいかといふ事、つまり、修學・職業・結婚の三大問題に歸着する。

口でいへば簡単だけれども、それ／＼の道に喜びもあり悲しみもある。そして又女性の地位の動搖してゐるこの際に、己の志す所に對するさまさまの支障の突破といふ事が、一番苦しみの種なので、この點について



も、案内者としての責任をつくしたつもりである。



悩みの多いのはもつともである。悶えの深いのはもつともである。しかしながら、其の悩み、其の悶えをそのまゝにつゞけず、よく理性の明光の照らす所に従つて、女性としての行くべき道に勇敢にスタートを切つてもらひたい。そして、野越え山越え、雨にあひ、風にあつても、くぢけぬ所のつよい意志をつちかひつゝ、幸福な樂園に、愛の殿堂を築いてもらひたい。私の念願はそこにある。私のとつた筆も、其道案内のにぶい光の蠟燭ではあるが、自らをやき盡くして他を照らす至誠をこめ、理性の明光をよびさますよすがとなる事が出来れば、私の至福これに及

ぶものはないのである。

昭和戊辰の春

利根河畔にて

著者識す



# 女學校を卒へて 目次

## 第一編 序説

### 一 卒業のよろこび

- 1 卒業をひかへて
- 2 さてこれからが
- 3 あたまの低下

### 二 卒業後の悩み

- 1 新しい傾向
- 2 諸家の意見
- 3 良縁あらば

### 三 處女の心理

- 1 河口の荒浪



四 危険な潮流

- 2 本館のあらはれ……………一九
- 3 心の動き……………二五

五 使命への出発

- 1 世の動き……………二六
- 2 思想の變化……………二九
- 3 地位の變動……………三三
- 4 色々の望み……………三四
- 5 親の心……………三六

第二編 婦人と職業

- 1 秋は来れり……………四〇
- 2 結婚まで……………四二
- 3 方向を定めて……………四四
- 4 使命に向つて……………四六

六 職業性と婦人

- 1 世人の偏見……………五三
- 2 職業とは……………五四
- 3 不確な問題……………五五

七 婦人職業の現状

- 1 婦人職業の由来……………五六
- 2 就職の動機と待遇……………五七

八 婦人職業の種々相

- 1 特殊相の概観……………六九
- 2 教育の仕事……………七九
- 3 天才的な仕事……………八五
- 4 病氣への奉仕……………一〇〇
- 5 社会的な仕事……………一〇八
- 6 官廳や實業方面の仕事……………一二三



7 其の他の婦人職業……………一六

九 職業生活の喜び……………一七

1 物質的に……………一七

2 精神的に……………一七

3 社會的に……………一七

一〇 職業生活の悩み……………一六

1 職業婦人の毒身生活……………一七

2 職業婦人の家庭生活……………一五

3 職業病……………一四

一一 職業生活と修養……………一五

1 職業の選び方……………一五

2 職業生活の倫理……………一五

3 喜びと悩みを……………一六

第三編 修學と修養……………一六

〇 一二 婦人問題から見て……………一六

1 婦人問題の變遷……………一六

2 高女教育の改善……………一七

〇 一三 女子の高等教育……………一七

1 傾向……………一七

2 高等教育の功過……………一七

一四 高等教育に進む人へ……………一八

1 學校を選ぶに……………一八

2 學習の態度……………一九

3 苦學……………一九

一五 家庭に於ける修養……………一六

1 家庭に止まることの得失……………一六

2 家事修養の急務……………二〇



3 積極的な修養法……………二〇四

第四編 婦人と結婚……………二〇八

一六 結婚に直面して……………二〇八

1 すべてはこれから……………二〇八

2 結婚は自由か……………二一四

3 眞剣な問題……………二一九

一七 結婚の準備……………二二二

1 自分が土臺……………二二二

2 土臺の建設……………二二四

3 スタートに立つ……………二二四

一八 好配偶……………二二七

1 魅せられる者……………二二七

2 望ましきもの……………二四〇

一九 媒酌是非……………二五一

1 結婚と愛……………二五一

2 媒酌まかせ……………二六三

3 媒酌約婚……………二六四

二〇 結婚生活の幸福……………二六六

1 眞實の生活へ……………二六七

2 順應から創造へ……………二七〇

3 愛の培養……………二七三

女學校を卒へて 目次終



# 女學校を卒業へて

小山文太郎著



## 序 説

卒業のよろこび

卒業をひかへて

嬉しいといへば嬉しい。併しさう思ふ瞬間に、何とはなしに、もうこれきりなのだといったやうなうら寂しさが、ひしくと胸の中に襲うて来る。何といふあわたどしい、落付きのない氣持であらう。今迄は、まじめに勉強もし、すきな本もよみ、ピアノに興じ、歌に心を馳せたものが、卒業を目前に控へた此の頃は、勉強にも、娯樂にも、どうしたものかしんみりと打込めない。同級の人達もさうい



つてゐた。姉さんも先輩も、皆同じやうに「喜びと不安とに充ちた生活を一度は経験するものだ」といつてゐる。そして口々に「貴女方はこれからが危い時代よ」といふ。先生も時々「世の荒波」といふ話題に觸れて、社會に出た後は只氣を付けろ氣をつけろといはれるけれど、どんな所に荒波が遊まいてゐるのであらう。どんな所に氣をつけなければいゝのであらう。

両親始め、家ものが皆自分の卒業を心から喜んでくれてゐる。「まだ子供で……」と訪ふ人毎に母は自分を子供として紹介するけれども、次第に背丈ものび、日々に女らしさを増して行く自分に、愛着の眸をなげて、母もやはり伸び行く娘の行末に喜びと不安とを感じてゐるらしいのである。

それは、十八や十九位では、子供扱ひもやむを得まいけれども、とにかく、これで女子の高等普通教育を卒へ、教養ある婦人の仲間入が出来るのだと思ふと、其の事自身が、一つの欣びのさゝやきを禁ぜしめぬものがあり、自分がこれ迄能力の試煉にあつて、そこをきりぬけ、そこを突破した自信といふものが、しみんと感ぜられるのである。

先生はよく曰はれる、今日はまだ何といつても資格の尊重される世の中である。將來は實力本位となるではあらうけれども、人間のよしあしや實力を厳密に見別けることが簡単に出来ない今の時代で

は、卒業といふ一資格が、其者の能力なり實力なり家格なりを表徴するものと見るのは無理のない話である。そして世間の所謂「人なみ」なる水準が、矢張り此の資格といふものを能明に測定手段として定められてゐるのだといふ事は、私にも尤もとうなづかれる。そして、私達は近く其の所謂「資格」の一つを與へられようとしてゐるのである。しかし私はこれで安心が出来るであらうか。自分は果して高女卒業生として恥かしからぬ實力があるであらうか。果して此の五年間の生活の中に、どれだけ頭が出来た事であらうか。

之は、將に高等女學校を卒業せんとする一女學生の手記の断片である。考は各人各様であらうが、少くも卒業を歡ぶ女性の心持としては、可也共通點をもつたものが、此の中に出てゐると思ふ。なるほど、高女卒業といふ事は、この資格さへも得られぬ一般多數の女性に對しては、異常の名誉であり又其教養は、之等女性に對してより高く、文化的な婦人としての第一歩をふみ入れた事になるであらう。要する所、物は其の標準の置き所によつて、高くもなるし低くもなる。彼女の手記は、高女教育を讚美し、満足し、淋しさの中にも來るべき卒業式のはえある其の日にあくがれて、更に將來如何な



る不安が待ちかまへてゐるか、如何なる危機が前途に立ちふさがつてゐるかを知らないやうである。彼女の未來は如何に、いや、あなたの行く末は如何に。果して何の氣がかりもないであらうか。

## 2 さてこれからが

日本では今日迄、女學校を卒業すれば婦人としての普通教育を一通り完成したものと、世間も認め當人も考へて來たやうであるが、歐米先進國の實状を見る時に、そして、日本が刻々歐米の長をとつて、どしどし進歩して行き、殊に婦人の生活向上の叫ばれる時代に於て、將來の婦人の生活を卜する時に、最早や女學校教育だけでは到底十分ではあり得ないと思ふのである。

一體今日の高等普通教育といふものは、やゝ程度の高い、土產教育に過ぎないので、今後の生活に此の土產を置いて知識をみかくならば、土產が土產としての役目を果すのであるが、今の婦人の實生活を見ると、知識をみかくといふやうな事が、學校を出た後には殆どないといつていゝ位貧弱なので、うっかりすると元の李阿彌になつてしまふのである。之は歐米の社會のやうな社交的教育機關がないからである。先進國には、家庭の婦人も獨身の婦人も、未亡人も令嬢も、此社交機關によつて

日新の知識を得、見識を高め、絶えず刺戟を與へられるので、土產の教育が活用され、益々進歩する事が出来るのである。

所が日本では所謂社交界に出られるのは、多くは上流の人に限られ、澤山の召使を従へてゐる境遇の者のみに許されて居る。して又社交場裡の花形といはれるやうな人は、家政の處理や子女の教育が、兎角粗漏に流れ易いやうである。社交の爲の社交となり、享樂の爲の社交、虛榮の爲の社交となり、つて、肝心の修養の機會を得る事にはならない状態である。

で一般の家庭の婦人は、「奥様」の文字通り、奥に引込み、「箱入娘」の示す如く、箱の中にとちこもつて、積極的な修養が出来ない。大抵の高女出の人は、「箱入」から「奥様」へと、人生の裏通を行くの觀がある。考へねばならぬ大きな問題がそこに潜んで居る事を知らねばならぬ。

## 3 あたまの低下

女性としては、何といつても結局は家庭の人とならねばならぬ。結婚した當座は、先にのべた土產の力もまだ相當しつかりしてゐるから、夫の話相手にもなり、多少本をよむ暇ぐらゐあるものである



が、子供が二人になり三人になり、だん／＼一家の人口が増殖すると、それにつれて家事萬端がとて多忙となつて、嘗ては若夫人としておつくりした美しい妻で書見をしたり、琴と尺八又はバイオリンの合奏に秋の夕を楽しんだのも昔の夢、今はむつきの中の生活で、育兒や料理、洗濯などに、全くの世話女房とならざるを得なくなる。それでも大抵の奥さん方は我子いとしさに不平もなく其の日其の日を暮して行く。何の事もない。だが其所には知識に親しむ生活が恵まれてゐない。頭は次第に低下して行く。女學生時代に勉強家の評判をとつた人でも、愛兒の添寝に婦人雑誌の讀き物をよむのが關の山となり、それも夜の睡眠不足の爲に、中途でうつら／＼と華胥の國に行くといふ有様になる。かくて所謂土臺の力を活用出来ないのみか、土臺が次第に崩壊して、時世遅れの一介の女房になつて了ふ。思へば悲哀である。

所が、主人の方は、益々社會的な活動の天地が廣くなり、事業に熱をもつ爲に、色々の刺戟に會ひ研究もし、見聞も廣くなる。總體として頭が進んで行く。主人はいよ／＼高くなり、妻はいよ／＼低くなる。其の差が甚しくなればなる程、話は合はなくなるわけである。して又其の頃になると、美しくおつくりをした昔の若夫人も、今は脂粉の跡もなく、兩手に子供を抱いて髪も亂れ勝になり、着物

も汚れ、主人のどつしりしたジェントルマン振に比較して、何といふ不釣合であらう風景が現出される。かく内面的にも外面的にも、次第に夫妻の隔りの出来る事が、得て家庭生活の圓滿を缺き、婦人の生活の破壊となる事が、世に珍しくない。たとひ圓滿に行つてゐるとしても、夫妻能力の隔絶は、良人の友人として、忠告者として、理解者としての妻の當然の務が困難となるのである。

のみならず、家庭の主權を握る母として、其の子供の尊敬を受け、信頼されるだけの知識をもち、人格を保つ事が困難である。母が十數年もまへに學んだ中等教育を、子が受ける頃になれば、時代も進むし、やり方も違つて来る。それを世話女房學に没頭して、頭の低下を來したのでは、到底子供の指導者となる事が出来ない。かくして、妻としても母としても其の職能がつくされない事になり、高等下女的待遇をうけても甘んぜねばならない運命になるのである。眼をみひらいて世の所謂奥様を見れば正しく之に該當するものゝ如何に多いかを知るであらう。今迄は之でも間に合つた、が將來は社會の組織がかはり、又生産消費の經濟生活の方面に大きな變化を見ようとしてゐるのである。今迄は家といふ獨立した社會に閉ぢこもつてゐても用が足りたけれども、之からは一家の生活が社會生活とより密接になつてゆくの、一家の責任者としての婦人も、到底うか／＼してゐる事が出来なくなつ



た。「女學校出の花嫁さん」では、最早文化的な時代の主婦たり母たるの資格に不十分となつたわけである。

## 二 卒業後の悩み

### 1 新しい傾向

どんな學校でも、卒業を眼の前に控へた教室の中は、賑やかに浮つてゐるものである。「出てからどうなる。」「出たらどうする。」といふ事が話題の中心となつて、今迄のやうに、教師の噂や、學科の話や運動界の評判などは、まるで忘れられたやうになる。中學校では、高等學校だの商大だの、早稻田だのと、上の學校の話が盛であり、専門學校や大學あたりでは、口のあるなしの話が専らである。誰それは、三菱へきまつた、何某は内務省ではねられた、自分は履歴書を二十通出してまだどこからも何ともいへない、悲觀した、といったやうな話で持ちきりである。女學校でもやはり齊しく卒業後の話で一ぱいだが、近頃は舊來とよほど違つた空氣が流れてゐるやうである。これ迄は、卒業の半

年前位になると、お子さんはどこそこへ嫁らつしやるさうだとか、お子さんは御親戚の方が卒業なので、すぐにおめでたなんださうだといふ方面の話が中心であつた。が此頃では、結婚の噂よりも高等教育の話が多くなつて來た。職業婦人にならうかと話しあふものが多くなつて來た。女學校さへ出ればもう十分嫁入の仕度が出来たといふ標準の地方では、さうでもあるまいけれども、大都市の女學校などでは、著しく向上熱や職業熱が高くなりつゝある。殊に關東大震災の翌年あたりから、此風潮は益々高められた。といふのは身に何の伎倆がなくて、極めて暢氣な生活をしてゐた物持の家庭の婦人などは、一朝あの慘害に家財全部を失つて、其の日の生活にも事を欠き、遂には大切な貞操までも提供して生を持續すべく餘儀なくされた人たちが可也あつた。之をまさしくと見せつけられた人々の間には、どんな場合でも、身に力をつけ、腕に覚えこんでいたものが一番確實だといふ眞理を發見して、茲に一層高等な教養をふみ、或は直ちに職業能力を體得して、萬一に備へるといふ事が盛になつて來たのである。そして又近代の世界の大勢が、個々の家庭にまで影響して、婦人の能力の向上を必要とし、従つて、女子の高等教育普及充實運動が起つた結果、益々身に力をつけ、資格を得ようとする事が一般化し、箱入から奥様へ、卒業から結婚へといふ人が少くなつた。そこで教室内の、新たに



集立たうとする女性の話題も變化せざるを得ないのである。貴女の現在の心持はどんなであるか、教室内の話題は何が中心であるかを観たならば、きつとかうした新傾向が看取されるであらうと思ふ。悩みはこゝから起る。不安はこゝに育まれるのである。

女學校を出た後に、専門教育を受けるがよいか、職業婦人になるがいかといふ事は、よほどよく考へねばならない事で、章を追うて私の考をも述べ、貴女にもよく考慮して頂きたい事である。之はまあ姑く預つておいて、兎に角近代の傾向として、さうした色あひが新しく現れて來た事は、まだ頭の柔い、世の中の事情を知りきれない若い女性にとつては、色々の悩みの種をまくものである。實際上、高等教育に進むものは、クラスメートの何割あるか、職業婦人になるものは何人あるか、まだ現在では、兩方合せても、同級生の半数にも充たぬ所が少くないと思ふ。地方の女學校などでは殊に少い事であらう。大部分が家庭に於て、今迄女學校で習つたものを實地に適用し、又足りない所を補つてやがて家庭の人となる準備をするのである。

所が現實の成行がさういふ状態であるのに、女學生の頭の方は、之より一步進んでゐて、誰もが少數のクラスメートと同じく高等教育に進みたく思ひ、職業界に活動しようと思へる。とりわけ、地方

で華やかな大都市生活への憧れをもつ女性にとつては、此のまゝ家庭にとちこもるのがたまらなく淋しい氣がするのに、α子さんは女子大學へ、β子さんは女高師へなどといふ噂をきいては、胸のどよめきを止め得ないであらう。幸ひに高等教育に進み得る人にしても、決して安心は出來ないし、安心して居ない。自分の志望と親の考とが一致せぬ悩み、親もやりたい、自分でも出たいが學費が出ない悩み、知らない場所に頼る所もない不安。殊に自分は出たいのに親が出さぬ、といつたやうな問題が、過渡期の現代として最も多いやうである。女學校卒業生の家出、女優になりそこねて淪落の淵にしづむなど、新聞や雑誌によく見る記事である。之等を考へると、家に止るのも不満であり、さりとて出かけるのも不安でたまらぬ。これが此頃の卒業生に殊に多い煩悶の種であらう。どうすれば宜しいであらうか。

## 2 諸家の意見

兎に角、悩ましい問題である。こんな事に煩悶などせず、若々しい時代を暢氣に送らうとしても現實はそれを許さない。年は矢と走る。近く身のふり方をきめねばならぬ時が来る。だから煩悶する



のである。煩悶するがよい。うんと考へ込むがよい。併し只一人で小さい胸を痛めてゐるやうな煩悶はいけぬ。危いものである。人の意見をきき、人の考を読まねばならぬ。けれども、現代の教育家乃至貴女方の卒業後の方途について考へられた諸家の意見の間に、果して貴女の氣に入るものがあるであらうか。参考の爲に、先年某婦人雑誌に掲載されたものゝ一部分を左に掲げて見よう。

### 女學校卒業後の方途

新聞記者  
評論家 千葉 龜雄氏

- 一、學校を出て直ぐの結婚は斷じて不賛成です。
- 二、家庭にあつて家事を見習ふなどいふ事も大した効能もないやうです。女學校五年間の修業でそれ位の家事は大抵解つてゐる筈です。
- 三、金があるなら、もつと上の學校か講習會のやうな處で、知識になるものを學ぶのがよろし。金がない人は、職業でもやつて、世間を見て、その上婚姻費でも稼ぎ出すもよろし。そして其間も自分で社會上の知識を研究する。また自分で働いたことゝ、金の有難味がわからなくては、良人の働きの苦しみは眞實にわからぬものです。

良縁あらば、即刻結婚すべし。在學中にもよし。家事の見習などは良縁あるまでの時間ふさぎなり。準備の爲の職業婦人はこれは境遇による事にて必要あらば止むなし。

東洋家政  
女學校長 岸邊 福雄氏

畫家 小杉 未醒氏

良縁あらば直ちに結婚すべし。良縁しばしば來らず、「家事を見習ふ」「暫らく結婚の準備」といふものは、良縁の期待にあり。良縁あらば直ちに結婚すべし。家事は結婚の後見習ふべし。結婚の準備は女學校にて足る。其後に向つての準備は即ち結婚なり。

前東京女高師  
附屬高女主事 倉橋 惣三氏

本人の意思、事情による事で、一般的に定むべき事ではありません。人生多様、どういふ出發をしなければならぬといふ様な狭いことを若い心に強ひたくないと思ひます。只現代婦人の教養理想として、結婚するには女學校だけで澤山だといふ風の論は執りません。

歌人 與謝野 晶子氏

良縁がありましたら結婚することに賛成いたします。いろ／＼の修業は結婚後にも出来ないことはありません。



修養の出来るやうな結婚先こそまことに良縁と申すものだと思います。

第一東京市立  
高等女學校長 吉田圭氏

行く先きをよく／＼案じて、良縁と思はば直ちに結婚するもよいでせう。しかし急ぐ事はないと思ふ。出来得るならば、卒業後少くとも二三年は、眞のベター・ハーフたる爲に、眞の人となる爲に、更に高等の教育を受けるのも極めて必要でせう。

或は生きた社會を知る爲に、實社會に職を求めるのもよいでせう。いざといふ場合に、職業上の背景の氣強さを得んが爲に、更に職業教育を受くる事も必要でせう。

要は何れの道を取るにもせよ、過去五ヶ年間に、あまりにつめ込まれし諸知識を暫し放下し、みづからの眼を開き、純眞な自分の人生觀に立ち得るやうに、人はどう云うても、私はかうですぞといふ確かりした信念をもつ爲に、心靜かに潛考する幾何年をもちたいものと存じます。

之等の意見を見て、貴女には自分の方途がすぐにきめられたであらうか。恐らく一層迷ひを深めこそすれ、解決の道には一歩も近よれなかつであらうと思ふ。讀んで見て誰でも氣づく事は、すぐ結婚せよ、一三年修養せよ。又個々の事情や境遇によつて違ふから一概にはいへぬといふ三通りの意見になる。さてどうしたらよいであらうか。

### 3 良縁あらば

良縁あらば女學校を出てすぐに結婚するがよいといふ意見の人は世に少くならうけれども、問題は「良縁あらば」に存する。否「良縁」が問題であり、「あらば」が又頗る問題である。一體良縁とはどういふのを指していふのか。之も其の人の考によつて千差萬別だらう。結婚する當人にとつて良縁であつても、事によると「あばたが笑醫」に見える場合があるかもしれない。娘は良縁だと喜んで親が悪縁だと頑張るかもしれない。親戚までが口を出して良否を論ずるかもしれない。兩親も親戚も當人も良縁と見ても、冷靜な眼で良縁だときめられない場合もないとは限らぬ。しかしまづ、良縁だと當事者關係者が認めれば、けりはず。だけれども、「あらば」の問題が極めてあやふやなものである。卒業した後、良縁あらば、あらばと待つてゐる、毎日之ばかり待つてゐるといふ事も、實際問題としてはむづかしい。「家事を見習ふ。」暫らく結婚の準備といふのは良縁の期待にあり。「良縁迄の時間ふさぎなり。」とはこの間の事情をのべたものである。賣れ口——いやな言葉だが、世の通用語を姑く借りて——のある途かうして待つてゐる生活といふものは、落付きがない、どつしりと修養する心がきまら



ない。従つて効果が少い。どつちつかずでまご／＼してゐる中に、勢力の旺盛な若い女性にはちきれさうなエネルギーのはげ場所を求めるやうになる。殊に、女學校だけの知識で不足な時代にかうした態度でゐるのは、先き／＼が一層不安ではあるまいか。又、顔の美醜などが重要問題になつてゐる現代に於て、「良縁あらば」とゆつくりかまへてゐる事は、人によつては可也惱ましい種を播く事になりはしまいか。

現代は男性の心持も變つては來たが、やはり美醜何れを選ぶかといへば、顔の美なもの優先するやうである。で醜な人とか、缺陷のある人は、己を考へてか高等教育等に進むものが多いやうである。しかし美といひ醜といふも、人間の本質は心の美醜にある。顔の美なるが故に、良縁が早く得られても、不足した知識をもつて逸早く家庭の人となつては、時代に順應出來ぬ事になるであらう。頭の相違が家庭の空氣を悪くする事は前述の如くである。須らく一層の修養こそ望ましいといはねばならぬ。

乍併、諸家の意見の中にもあつたやうに、果して、女學校時代に家事をのみこんでゐるか、又、結婚してからでも修養は出来るものであるか。今日の女學校の内容を知るものは、何人も此時代に教へられた事を以て十分とする事は出來ぬであらう。結婚後修養が出来るや否やといふ事は、一番初めに

述べた通り、極めて困難な事で、我國に於ては何等之に適した機關がないから、どうしても結婚前に十分の修養をせねばならぬ。

要するに現代の女學校を出た人には、色々な志望の群があり、色々な意見があつて、その適從する所をしらぬ状態にある。殊に此の年頃の女性には一層迷ひのはげしい要素があり、今の時代は特別に思想的な隔りが、一家の中にも、社會人の間にもある時なので、迷ひはますます／＼深くなり、悩みは一層深刻になるのである。

### 三 處女の心理

#### 1 河口の荒浪

卒業の歡びについで起るさまざまの不安、色々の悶え、眞に同情にたへぬ次第であるが、私達がいくらどう考へても、結局は貴女自身が幸福も不幸も受ける當事者なのだから、貴女自身によく考へて頂かねばならぬ。唯私は、其の憂悶にとちこめられた貴女の胸の中に、鈍いながらも幾分の光を投げ



ようとするのに過ぎない。

だが、女學校に入學した頃や二三年生頃とは、よほど自分の心持、内面生活の變化が自分にも見えて來た事であらう。無邪氣から有邪氣へ、快潤から憂鬱への推移、これは若人に於て、多少の違ひはあれ、皆經驗する所のものなのである。つまり女學校を出る頃の時期は所謂青年處女期であつて、子供から發達した體や心の諸能力が成人期に達する過渡期なのである。恰かも川の水が海に朝する時、河口に於て荒浪が逆まくやうに、心の中にも體の上にも、まだ經驗した事のない色々な現象が現はれて、心にはげしい波をおこしてゐるのである。あなた自身反省して見ても、次のやうな氣持の變化がたび／＼ありはせぬか。たとへば、仕事や勉強に非常に熱心であるかと思ふと、次の瞬間にはすっかり冷淡になつてしまふとか、愉快でたまらぬ朝の次に、悲觀的な、何となく憂鬱にとちこめられた夜が待つてゐるとか、或は又、自分は偉いと思ふ日があるかと思ふと、忽ち自分ほど無力なものはないと思ふ日がある。時には自己を犠牲にして人の爲に盡くし、時には極端な利己主義者になり變る。友とはしやきたい事があり、孤獨を楽しんで人にあひたくない事があるなど、何だか自分が矛盾の結晶のやうに思はれる事がありはしないか。此の矛盾衝突は、青年處女期が一番はげしいので、この潮流

をうまくのりきるか否かが、將來の成敗のわかれる所となるのである。そして其の成功を決しようとするには、處女期にはげしい矛盾衝突のよつて來る所を考察せねばならぬ。

## 2 本能のあらはれ

恐れ、怒り、愛情などの感情は、何れも人間が生れながらにもつてゐるものである。他人にぶたれたら怒らねばならぬと教へられなくても、いや、かんにんしてやれといはれても、腹の蟲はをさまらないのが普通である。さびしい闇夜の路傍に、ガサリ／＼といふ音をきいて、總身の血が一時にとまるかと思はれる場合、之も別に命ぜられてビツクリするのでない。生れつきの傾向と見える。生れつきに誰も持つてゐるかといふ傾向を、心理學では本能といつてゐる。尤も之は生地のみで出るのでなくして經驗に従つて、其の現れ方が違つて來るし、思慮の働きも加はつてくる。此本能の變容性は、動物よりも人間がつよく、子供よりも大人がつよい。教養ある人が本能を露骨にせぬ事も變容性のつよい事によるのである。

そして、本能はこの處女期になると、ずつと力づよく活動をはじめめる。あらたに芽ばえた本能も、



體中をかけめぐるほどに活躍しはじめる。露骨に本能をあらはさぬ變容性をもつ所の教養ある人々には、それだけ悶えが強いわけである。

さて、本能には色々のものがあるが、處女期に特に著しく發達するやうな、又特徴をはつきりさせるやうなものを二三説明して見よう。

#### a 好奇心

見てはならぬものは見たい。母が筆筒のどこかへかくした大切なもの、何だか探し出して見たい——といった心持も、我々は生れつきもつた本能で、好奇心といふものだが、之は子供の時、猫に袋をかぶせて見たり、トンボの尾を切つて飛ばせて見たりするやうな、たわいもないものが、青年期になると大分かはつて来て、理智的になり抽象的になる。哲學的宗教的の疑問が、其解決を求めようとしてくるのである。「人は何の爲に生れて来たか。」「人の命は死後どうなるか。」といった工合に。

一體人間は何の爲に生れて来て、何の爲に煩悶するのでせう。人生は苦に始つて苦に終る。人生の總てが苦しみばかりです。それで私共はその苦に打ち克ち、或は苦しみからのがれて生きようとする。一體何の爲に生きようとするのでせう。

生きよう／＼とした努力の末には死といふものがあります。その死といふものはどんなものでせう。(十八歳の女性の疑)

人はどうして死ぬのでせう。なぜ死ななければならぬやうに始めから出来てゐるのでせう。文學は「一度あへば別れる。生あるものは死す。」といふ。併しこのやうに人間の命を簡單にかたづけられてしまふと、本當に淋しくてたまらない。……このやうな悲しいことが、どうして自然の運命としてそのまゝ葬られませう。(十九歳の女性の疑)(青木誠四郎學士「青年期の心理」)

かういふ疑問は、同じ年頃の人には相當經驗する所であらう。かうして、青年期の心は餓ゑ渴くものゝやうに、人生の迷に向はうとしてゐるのである。だから、貴女方が、今女學校を出て身のふり方をきめようといふ時には、好奇心から出發した「迷」が、一層煩悶を深くするものだといふ事を心得てゐてもらひたい。

#### b 模倣性

貴女方女性には、「流行」といふものが非常に心をひきはしないか。頭のもの、きもの、履きもの、傘、其他の身のまはりの物は勿論、時々變化風靡する一種の言葉「とて、もいゝわ」的な妙な言葉な



どについても、之が流行を追はなくては、一人前ではないやうな気がするであらう。これは摸倣といふ本能があるので、かうした氣持が起るのである。評判のいい女の先生の髪の結び方をまねた事はないか。言葉つき、身體のこなし、文字の格好などまでしらすくまねてゐた事はなかつたか。皆摸倣性の仕業である。教室で手をあげる時、特に自信のない時、人の顔を見てから舉手することがよくある。摸倣性のお隣りは、かくの如き雷同性であつて理屈なしに他と同じ行動に出ようとする。だから、同級生が女子大學に行くといへば、之に心が傾き、職業婦人になるときけば、自分も共にやつて見ようと思ふ。そこへ、年頃になると發達してくる空想の力で、女子大生や、職業婦人のスタイルを心に描いて、むしやうにあこがれてしまふ。又摸倣性の裏には反對摸倣といふものがある。いはゆる「スコッチ」である。おきろといはれるともつと寝てゐたい。外へ出るなどの命令には、わざと出あるいて見たいもの。だから、「女學校を出たら家に居なさい」が、かへつて他へ出たい心をおこさせるあぶない性質をもつてゐる。

#### 。交友生活

希臘の哲學者アリストテレスは「人は社交的動物なり」といつてゐるが、人間は子供の時から、一

人では居られない性分をだれも持つてゐる。殊に青年時代になると、それが著しく團體的傾向をもつてくる。そして其團體の中にゐると、非常にきつくなる、つよくなる。一人ぼつちでは碌々口もきけない少女が、教室の中ではとても盛んな茶目ぶりを發揮する事がある。そして、かういふ團體的社交生活の中にあると、名譽心が強くなつて、大勢の前で悪くいはれるのが非常に氣になると共に、大勢の前に自分を大きく見せようとする心もつよくなる。競争もする、やきもちもやく。まけない氣が起り、きかん坊にもなる。自分の競争者が上の學校にいくさうだと聞けば、自分も、たとひ虚偽であつても、「私も行くの」とツヒ云はずには居られない心持。

かうした反面に、此時代には親友が出来るものである。登校・買物・遊山、いづこに行くにも影の形にそふ如く、はなれ難い交友關係が生じ、殊にそこは女だけに、着物の柄も同じ、櫛も同じ、髪のかつかうも違つてないやうなのがある。お互が善良な友であれば、かういふ親友は一生の寶である。が一身の方向を定めようとする今の場合、親友が上京遊學するといふならば、自分も共に行きたいとの願ひに心がみだれるものであらう。



まるで姉妹のやうに仲のよかつた二人が、俄に仇敵のやうな間柄になつてしまふ事も世の中には珍らしくない。殊に小説戯曲にはこの問題を取扱つたものが多いやうである。そして、其の敵同志になる原因は、まづ、異性への愛の問題であるのが普通である。異性に對する愛の本能は、——といはれると、何だか、急に胸がドキツとしたかも知れないが、それだけ、この時代に最も強烈な力を表はす本能であつて、そして最も大切に保護すべきものなのである。

内省して見るとわかるが、子供がまだ child の時代には男女兒共に、「おお手つないで野道を行つて」も、何でもないが、兩性に boy と girl との區別がついて來ると、だん／＼互に外面では會ふことを避けようとする傾向になる。小學校時代に机をならべた坊ちゃんにも、女學校時代には、語り合ふのを何となく羞らふやうになるものである。それでゐながら、内心では相惹く場合が少くない。所が女學校を出る頃になると、求める傾きがはつきりして來る。「世の中に戀しきものはち／＼は、の外にあらじと思ひしものを」、父母以上にひきつけられるものが外に存在する事になつて、一步を誤ると、人生の道を外れてしまふのである。父兄母姉が「氣を付けろ」とか「危い時代」とかいふのも、この事なのである。殊に、モダンタイプの女性の横行する現代に於て、父兄の心配は一入であらうし、又貴女

方の心のひきしめ方もよりつよくなければならぬと思ふ。

この愛情の問題については、後に結婚の事をのべる時に向いふべき事があるので、こゝには大略に止めておくとしてしよう。

### 3 心の動き

此の時期の女性の心の中に矛盾撞着の起り勝ちなのは、つまり前述のやうな色々の本能の急に活動力を加へて來て、世の中の色々なものによつかるからの事で、かうした心の動きは、たとひどんな境遇に居ようとも、子供から一人前の女性になる間に、通過すべき處女期には、どうしても遭遇すべきものだから、どんなものだといふ性質を知つてゐて、動き易い心をよく見つめねばならぬ。本能なるものは、昔は一がいに悪いものとして、頭から否定した事もあるが、本能位大切なものはないので、之を十分に保護し、之をもちたてねばならない。

元來心身の發達は、家の建築のやうなもので青年時代はちやうど其材料の蒐集時代であつて、建築場に雜然と材料が積たへられ、其間に何等の統一もない時のやうなものである。併し其材料が、雜然



たるが故に不體裁だというて、これを撤去すれば、家は固より建てる事も出来ぬ。之を適當に組合せれば、輪奐の美を極めた大きな高樓も聳え立つのである。然り、青年時代は將來の圓滿偉大なる人格を作るべき材料の集め時で、青年時代に勃發する多くの本能は、やがて次第に秩序正しく組合はされて立派な人格となるべき建築材料である。集められたのみで統一なきが故に、其間に矛盾があり衝突が起り、煩悶も生ずるのである。むしろ、矛盾に悩み、煩悶に苦しむのが普通なのである。私一人がこんな煩悩をもつのかしら、と、「千々に物こそ悲し」まなくともいゝのである。要は、處女期の當然の心性を知つて、理性の目で心の動きを正しい方に導いて行かねばならぬ。之が即ち將來大きな殿堂を造る土臺になるのであるから。

#### 四 危険な潮流

##### 1 世の動き

あなた方の時代は一番心の動き易い、そして又一番大事な時代だと、私は前に述べておいた。何し

る経験世界が狭少で、未知の曠野は暗く、之を照す理性の光も、まだ之までの教育程度では十分な芽えを見せないで、物事に對して自己の判断を以て直進して行くのには、あまりに頼りない心地がするし、又自己の考でやつた事が中々思ふ通りにならぬ。心の態度にしっかりと型が出来てゐない此の時代には、たとひ外的事情に些の變化がなくなつても、安易な心持はもち得ぬものである。

所が、かゝる内面の浮動性に對して、彼女の外界から刺戟を與へるものが、近代に於いて非常に固定性を缺いて來た。動搖性がつよくなつて來た。今の時代は、すべての舊來の制度・風俗・習慣などいふものに對して、其の存在性を肯定せぬ時代になつて來たのである。かういふ制度や習俗といふものは、人間の日々の活動の變化性に比して、より固定的なものだから、永の月日の中には、制度として、風俗としても、習慣としても、善良であり得ぬばかりか、却つて之があるが爲に入々の活動を束縛するものが少くない。そこで今の時代は、之等不都合な制度舊慣に對して改善の試みが盛になつた結果、悪いものがよくなつて來つゝある事も事實多いのである。乍併、舊慣や舊制中の永久的に存続すべきものまでも、同じい改造の眼——色眼鏡にかけて、其の善良性、存在性を疑ひ、忌避するといつたやうな弊に墮して了つてゐる。つまり世の中一般の思想が混沌としてをさまる所がないのである。



かくて、處女期の内面的混沌性が、社會的外面的混沌性と相合し、相衝突する事になるから、他の時代よりもより強い迷ひが生じ、より深い煩悶も起り乍ら、他の時代よりも、一層解決の道が発見出来ないものである。けれども、其の内面の混沌性なり浮動性なりが、如何なる原因によつて來るかを究めて、其の浮動性を抑へるやうに、外面的動搖性の何ものたるかを出来るだけ視きはめる事によつて、出来るだけ正鵠を得た判断を其中に見出すやうにせねばならない。そこで、此の章に於ては、貴女方の發達時期に於て、又今の時代に於て、直接間接に、處女性への動搖に影響するものを拾ひあげて見たいと思ふのである。

だが、世の中の事といふものは、單獨な存在性をもつて居らず、色々の原因や事情の錯綜して存在するものであるから、單純に物事を判定しかねるのであるが、概していへば、今の貴女方の時期に於ける外面的動搖は二方面にわけて考へる事が出来ると思ふ。即ち一は女性の地位を従来よりも一步向上させようとする積極的方面であり、一は、舊來の傳統を尊重し、因襲に固着して、新運動としての婦人の向上運動に反對しようとする消極的方面である。前者の中貴女方に直接に影響のあるものは、社會思想の變化であり、婦人の地位の變動及之に従つて起る諸現象、婦人の理想の多樣化等が數へら

れるであらう。

## 2 思想の變化

近代思想の著しい特色の一つは、どんな人間でも人間を人間らしく待遇しよう、待遇されようといふ事にあると思はれる。歴史を繙いたものは誰でも肯くであらうが、昔の人間は、少數のものが財産でも地位でも名譽でも、獨占してしまつて、大多數のものは之等少數のものゝ下敷になつてゐて、何とも思はなかつた。否少數の特權的有力者に接近して、之に殆ど絶對の服従をなす事が名譽であるとさへ思つてゐたやうである。私は之を封建時代が背景となつてゐる戯曲に見出だして、服従の快感といふものの存在を感じる。

乍併、文化がだん／＼進み、人間が自覺への道を辿り初めてから、服従からの解放、自由への要求が次第に熾烈になり來つて、束縛されて居るものゝすべてが、特權をもつてゐる階級に對して反抗運動をやり出した。財産が或る階級に集注し、地位が特別なクラスに獨占される事の不滿が瀰漫してくと、富の配分の平等を叫び、機會の均等を唱へるやうになつて、財産・地位・自由・知識等が皆公平な



配分組織の下におかれねばならぬといふ事になつて來た。社會主義思想の普及、弱少民族の自決運動、無産階級の諸運動などから、水平社一派の運動に至る迄、何れも特權の普遍化、平等化に外ならぬ。

かういふ一般の社會思潮は、當然婦人の地位の問題にも接觸せないわけには行かなかつた。「女は別に主君なし。夫を主人と思ひ、敬ひ慎しみて仕ふべし。惣じて女の道は人に従ふにあり。夫若し怒る時は、怖れて順ふべし。女は夫を以て主として、返すがへすも夫に逆らうて天の罰を受くべからず。」「夫婦争ひ怒ること勿れ、理を任けて夫に事へよ。」といつたやうな、女大學や實語教の教ふる所によつて、舊來の日本女性はをとなく一生を辛抱してゐた。親に従ひ、夫に従ひ、子に従ふ三従の徳が女子に一番大切な道徳だとされてゐた。くゞみ女にそり男といふやうに、女は下をむいてゐなくてはならぬ、従つてゐなくてはならぬとされてゐた。今でもさういふのが女らしい事になつて居る。今でもさうしつけられてゐるものが大部分であらうと思ふ。所が「女は此所に於て眞に男子隷屬の一生物となり、男子を其の我儘なる生活に於て諸々として補佐することを免るべからざる女子の大使命だと宣明された。偶然としか思はれない男女の結合に對して、未來永劫變るべからざる節操を片務的に女子に課し、之に烈女・節婦・良妻・賢母といふ因果な戒名を與へられてしまつた。其結果、一度家庭の人と

なつた婦人は、到底常識を以て律し得ざる火攻水攻と、半生涯を戦はねばならなかつた。舅姑といふものに仕へることがそれである。何等世間などを知らず、今迄異性を敵の様に思はされて來た一女性が、自己の侶伴者と共同して行く事さへが既に大事業であるのに、かゝる大敵を幾つも身一つに引受けねばならぬといふのは、眞に同情すべきではないか。」といふ風な、「婦人に味方して」書かれた書物が此頃はかなり澤山出るやうになつたのだから、そして更に、男子の持つてゐる法律上の、教育上の、職業上の、社會上の自由を、女だつて同等に獲得しようといふ事が、「理論の時代を去つて」實行するものさへあるに至つたのだから、我國の婦人の地位も非常に進んだものである。

私はこゝで女大學を否認したり、「味方して」書かれた所論を今肯定しようとするものではない。只大方の家庭内の理想や、空氣や、生活様式が今尙女大學式な所へもつて來て、こんな事は馬鹿げてゐる、同情にたへぬ等の議論に接した女性は、果して之を頭から反撥し得る事であらうか。或は又頭から之に賛成しきつて直接行動を實行し得るであらうか。前に述べた處女期の心理から考へても、現代にみなざるさまゝの風潮から見ても、只々迷を深くするばかりではないかと思ふのである。殊に、貴女方にとつて最も重大な問題なる結婚についての學者の説などにも、「男女の結婚とその家庭生活と



は、必ず戀愛の成立によつてのみ結果しなくてはならないのであつて、之を除いてはいかなる場合にも正しい結婚や家庭生活は存在しない。」といふ人がある。戀愛の成立によつて結婚が結果するのを正當としても、ではいつから戀愛を結果させるかが一番問題なのである。結婚の前に戀愛を結果させようとする、得て胎兒を結果させ勝ちになる。「實際に於て未婚の青年男女の間の戀愛といふものは全く感情的・盲目的・一時的のものが多いのであつて、其の熱烈の度に至つては、水火の中へ飛び入ることさへ辭さないといふ程に猛烈なものであるが、併しそこに互に永續性が包まれてゐるとは考へられない。戀愛を豫件とした結婚が必ずしも永續し、且つ幸福を齎す所以でないと思ふのである。」といふ考の人が又一方にあるとなれば、この何れに従ふがよいかは頗る問題になつて来る。殊にそれが一生の運命を決定する重大な事柄だけに一層悶えざるを得ないのである。しかし之は實際問題として何とかする前に、先づ腹をきめねばならぬ事なのである。戀愛を醜態させて結婚しようか、見知らぬ人を夫として辛抱して行かうか、どうかきめる時が来るのである。乍併此の問題を今こゝに述べるにはあまりに早い。尙其の前に色々考へて貰はねばならぬ事がある。

### 3 地位の變動

世の中の人の考が變化して來て、舊來の婦人の最も不幸な境遇にゐるものに同情をよせ、高遠にして實現しがたい理想を指示すると共に、舊來の型に順應して満足しきつてゐる人に迄も其の生活を否定した結果、逆境の婦人は一層不平を増して之をきりぬける事に悩み、満足な眠を樂しんでゐる人も寢覺めの悪い思をしてゐる。たとひ、舊來の婦人生活の様式が悪いと指示され、何人も之を肯定しても、舊慣に固着して新しい様式にうつる事を欲しない一般の人には、之が實行をなす敢爲の度量が中かないものである。が新しい思想が次第に瀰漫して來た時に、一人でも其を勇敢に實行する人があると、之が他の同じ考のものに甚大な影響を與へる事になる。

婦人が男子と同等の權利、同等の地位、同等の自由を得ねばならぬといふ議論が、婦人の參政權運動となり、女子高等教育の擴張運動となり、婦人職業の殷盛となるに至つては、其の心あつて遠慮してゐた女性は、茲にゐてもたつても居られぬ程の憧憬の炎をもやし、之等の新傾向に順應しようとする。女子の參政權は我國に於てこそまだ議會への吉例的請願運動に止まつて居るが、先進國に於ては



既定の事實である。女子高等教育は、最近に於て益々盛になつて來た。又婦人の職業生活も著しく流行的になつて來た。かういふ事が一方には婦人の實力の試煉となり、一方には固定的な婦人の地位を動搖せしめる種々の材料を提供するので、「如何にすべきか」を考へてゐる若い女性に對して、少からぬ影響を與へるのである。殊に戀愛と結婚との關係の諸説が次第に實現されて、自由結婚が知名の人の間にも盛に行はれ、花から花へと蝶の如き相次ぐ短期的同棲生活を以て、生涯を終始するやうな迷士も出て、之が又非難された自分の行動を辯解するやうに理屈をさがし出して、戀愛に基かない結婚は罪惡だといふやうな事を説くものだから、肩書に驚く世なれない人々は、之を恰も金科玉條として、體験の語として推稱し、遂に己も之に追隨しようとするに至るものが少くない。

かくの如く、婦人が新傾向に對して實地の行動を開始するといふ事は、外面的な變動として、女性の歴史的な生活から見れば可也大きい事象なのだから、之が世に出ようとする若人に色々の刺戟を與へるのはもとより言をまたぬ。

#### 4 色々の望み

社會思想の變革は、婦人の覺醒を促して、新傾向を招來し、婦人の新傾向は又若い女性の希望を頗る多様なものにした。前にも述べたやうに、從來、女學校を出た人々は、家庭で料理や裁縫の實習をやり、琴・生花・茶の湯等に精進して、今日が日にも「良縁あらば」と、親のいふがまゝにまかせ、おめでたい話があると、「お父さんお母さんさへよければ私はどうでも」と顔に時ならぬ紅葉を散らしてうつむき乍ら、蚊の鳴くやうな聲で結婚を承諾し、そこで嫁になり、やがて母になり、やがて婆になると相場がきまつてゐた。それが今云つたやうな外面的事情が手傳つて、近來此のきまつてゐた相場がすつかり變動してしまつたのである。

舊來の婦人の生活がさまざまの方面から缺陷を生じ、又よい點までも否定される一方に、男子と同じ地位や權力を得ようといふ思想と、經濟的必要などから、女子の社會的諸活動が行はれるやうになつたので、箱入娘から奥様へと、人生の裏通をする事は、處女性の肯んじない所となつた。どうしても高等教育まで進まうといふもの、職業能力を獲得しようとするものが、之等の女性に少くない。そして又高等教育に進むものの間にも、一般的な高等教育を受けようとするものがあり、高等な職業教育に進まうとするものがある。齊しく高等な職業教育の中でも、地味なものに行くのがあり、はでな



道にはいるものがある。新聞や雑誌の婦人記者・閨秀作家・閨秀畫家・女醫・齒科醫・社會事業家など、だん／＼新しい所が出て来る。中には女流飛行家になつて大空を飛翔しようといふものまで出て来る。

かうなると、はでな仕事に進み得る人でも、どれを選ぶかが惱みの種になる。わけでも、はでな方面に進まうと思つても、事情のために地味な道をとらねばならぬ人は煩悶するであらう。高等な教育をうけようとしても、すぐに職業婦人にならねばならぬ人は又悶えずにはゐられまい。職業婦人に出たくも、それさへ不可能な境遇の人は尙更苦しまねばなるまい。世間に時めいてゐる女性の仕事に色色とあくがれ、知己や先輩のやつてる仕事や生活を讚美し、同級の誰彼の志望を羨しく思ふといふ事になると、この胸の中には、閨秀作家が往來し、女教師が往來し、キャンパスに向つてゐる己を描き、聽診器を手にしてゐる己を發見するといふやうに、色々の職業を皆我が胸の中にたゞみこんで、楽しい空想と現實との差に、いらだたしくなるであらう。

## 5 親の心

今迄ののべて來た事は、一口にいへば婦人の向上といつた方面の種々な外面的事象である。前章のべたやうな、處女期の内面的動搖の上に、新時代的な定まりなき風潮が被ひかぶさるのだから、それだけでも、女性の心の中は決して波だたないわけにはいかないのであるが、しかし此の波には、概して女性の心をそよるやうな、楽しい世界への誘ひが多いので、悶えも迷ひも、希望を背景にしてゐて、何となしに歡喜に充ちてゐるのであるが、こゝには此大潮流に激突する巨きな巖が衝立してゐるので、波浪は茲に怒濤と化する。悶えは一層の深酷さを加へる。即ち兩親・長上の考との衝突是である。日本は家族制度の國であるから、家族の一員の個人的な單獨行動の許されない點が、今でも少くない。女性に於て特に然りである。そして又兩親は貴女方とは年齢に於て少くも二十年以上の差があるので、此の頃の思潮に對する刺戟をうける力も違ふし、よく時勢に順應して行けるといふものは、さう澤山あるものではない。とりわけ貴女方の相談相手であり、唯一の慰藉者である母親も、己の學校教育をうけた時代がまるで女大學式であつたし、家庭生活も大い昔のゆかしい型の中でとほつて來たので、此の頃の新しい傾向に對して、眼を被ひ、耳をふさいで嫌忌するか、乃至は之とは風馬牛な立場にゐるものが少くない。そこへ持つて來て、まだ子供だ子供だとのみ思つてゐる我が娘が、女學



校を出るやうになると、急に新しい事を口にし、新しい本をよんで、新しい方面に直進しようとする。「飛んでもない。」の第一聲が両親の唇を切る。「生意氣になつて困る。」の第二聲が出る。「女學校だけで澤山だ。」「廣い場所へなど出して間違でもあつては。」と相ついで反抗の烽火<sup>のち</sup>があがるのである。加ふるに、四書五經を五つの時から暗誦させられましたといふ祖父母までが、孫の可愛さに何かと意見を出す。樂しかるべき卒業前の家庭内の空氣が、何だか陰慘なものになつてしまふ。

親は、しかし、子供可愛さに、どういふ風にしてやつたらよいかについて、可也世の中に注意の眼を向けてゐるものである。注意して居ればゐる程此の頃の世の中は、娘の考と反對の醜い事例が澤山ある。親は戀愛を出發點とした結婚にどんなに悲惨な結末が来るかの例も知つてゐる。閨秀文學者が得て閨醜作家になつてしまふ實例もつかんでゐる。高等教育を受けすぎて婚期を逸して惱んでゐる老嬢をも親てゐる。職業婦人の墮落も見聞してゐる。さうした矢先に、世の中を知らぬ我が子が、このあぶないと思はれる湖に、飛込みたいと云つて訴へるのだから、之を無條件で承認は出来ない筈である。殊に親としては、色々事情から、さう一人にばかり金をかけて、外の姉などの低い教育しか受けなかつたのに對する不公平にも遠慮がある。親の内幕には、いとしい我が子に知らせたくない苦勞

もある。で、さう子供のいふなりになれぬ、無理のない事情が、親の肚の裡に澤山しまひこまれてゐるのである。時代の空氣を吸つて新しい頭になり、世の憧れるやうな事に夢中になつて何とかして己の理想を實現しようとしても、容易に家の事情が許さぬといふ事が少くない。そこで悶えが複雑な内容をもつて來て、懷疑的になつたり、厭世的に傾いたりして、両親にも一方ならぬ苦勞をさせるのである。

殊に此の時代に考へねばならぬ事は、生活の變化といふ事である。女學校時代は、何といつても勉強中心であり、學友との嬉しく楽しい學窓生活で、心も體も、一點に集注してゐた賑やかな生活であつた。所が一度卒業すると、不本意に家庭にとちこめられる人にとつては、友だちと遊ぶ機會も少くなり、本をよむ事も困難になり、且つ家の中の用事といふものもさう澤山はない。只これだけでも、今までとは可也變化した生活——單調な生活になつてしまふ。若い血の漲る女性には、こゝでエネルギイの放散する場所を閉止された事になる。

加ふるに、前に述べたやうな己の希望と家のものの意見なり事情なりとが相反して、不承不承に家事を手傳ふ單調な生活となれば、どうしても心の中は平穩なわけにはいかない。何だか面白くない。



面白くなければ面白いものを求めるのが人情である。楽しみがない。楽しみがなければ楽しい生活を求めるのが人情である。そこで、内面的な緊張は、外面的な單調とぶつかつて、他に何物かを求めようとする事になる。こゝに色々な悪い事が出現して来るのである。

かう考へて来ると、貴女の心はどうか知らぬが、多少の程度こそあれ、皆齊しく胸の中の平かならぬものがあるわけである。殊に過渡の時代としての現代に生きる女性に於て之が一層強いのである。そして今各自の心を定めて、何れかの道を辿らねばならぬ。——さて私は今迄「どうなつてゐるか。」を中心にして述べて来たが、之からは「どういふ事にせねばならぬか。」を考へる事にしよう。

## 五 使命への出發

### 1 秋は来れり

兎に角出かねばならぬ。どこかへ行かねばならぬ。女學校の卒業證書を貰ふことは、確かに喜びに違ひないけれども、一面から考へれば、女學校を去つて何れへなりと行けといふ書きつけであると

もいへる。行方定めぬながら、ちつとしては居られぬ。出發の秋はまさに来たのである。

前にも述べたやうに、女性生活の内面的方面からも、外面的方面からも、今の時代は中々方向がきめにくい時なのであつて、河口の怒濤の中を如何やうに楫をとらうかについて、其の怒濤の如何なる方面から起つたか、どんな原因によつて生じたかをこれまで述べて来たのだが、しかしそれだけでは、何等己の行く先は決定されぬ。決定されぬ中に出發の時刻が迫つてくるのである。恰かも八方へ通ずるステイションに行つて、汽車の出る間に、行く先がきまらぬ不安と同じである。しかし、大方の女性はどこに行く。いづこへ足をむけてゐるであらう。

毎年發行される同窓名簿を見ても、だん／＼と姓が變つて、新姓の上に舊姓が括弧されて處女時代の俤を残してゐる。自分が一年生の頃何くれと世話をされたり、かあいがつてくれた先輩が、幾年かあはぬ中に、良人との間に二人の愛兒をひきつれて、見ちがへるやうな幸福さうな落付いた姿を見受ける事がある。一時は獨身主義を標榜した人も人妻になつてしまへば、昔の主張は夢と忘れたやうに見える。女教師として活動してゐた人も、高等の學校に入つて天晴れ女流作家を以て任じた人も、皆この幾年かの間に人妻となり母となつてしまつてゐる。大方の女性は結局する所、家庭の人とをさま



るのであらう事が窺ひ知られる。

中には不幸な結婚生活の爲に離婚した人もある。が、實家へ歸つてからの佗しい生活に堪へられず、より悪い條件で再婚して、どうやら辛抱してゐるやうである。して見ると、やはり女性は大抵妻として、母としての生活に至上の幸福が恵まれて居ると思はれるのである。

## 2 結婚まで

實際上、多くの女性は結婚する。妻になり、母になる。なりたく思つてゐる。思つてゐなくても、後にはなりたく思ふ。自分の行く先はわからないけれど、大勢が行くから私も行くといふのは、あまりに無定見な話だ。乍併、大勢のものが同じ方向を取るといふ事には、何等かの理由がなくてはならぬ。今の世の中では、すべての女性が結局家庭の人となるのだが、其の「結局」が、近頃だん／＼延長し出した。女學校出の人に向つて直ぐ結婚せよといふ人は、少くなつて來た。結局嫁ぐのだが二三年は修養せよといふ事は、私も大いに主張したい。そして又、卒業期を控へた女性の希望も、恐らく此二三年間を如何にすべきかに存する事であらう。で、大方の人の進路を分類して見れば、次の四種に

なると思ふ。

- 1 高等教育に進む者。
  - イ、一般高等教養を目的とする者。
  - ロ、高等職業教育を目的とする者。
- 2 直ちに職業婦人となる者。
- 3 家庭に於て修養をなす者。
  - イ、己の家庭に於てなす者。
  - ロ、他人の家庭に於てなす者。
- 4 すぐ様結婚する者。

此の四種のわかちは、主たる生活様式から見たのであつて、中には職業婦人となりつゝ、高等教育を受けて居るものもあらうし、高等教育を受けつゝ、家庭で色々の實習などをやつてゐるものもあらう。又すぐに結婚して職業婦人になる人もあり、結婚してから家庭的修養をつむ者もある。中には結婚してから高等教育をうける人も相當にある。女子大學や帝大の聽講生や學生などには有夫の婦人がかなりまじつてゐる。



が、右四種の生活を中心にして見ると、數から云つて何れが最も多いかといふに、土地によつて多少の差はあるが、大體に於て第三に屬するものが一番多いと思はれる。恐らく他の三種の者のすべてを以てしても、之には及ばぬ程の割合を示すであらう。多くの女學校では、卒業期に、女生徒の志望書を書かせるけれども、之は現實と距る事多いものが多く、卒業後如何に身のふり方をきめたかが判明せぬ事もあつて、正確な統計を得る事は困難であるが、どの學校に於ても、大部分が家庭に於て實習や修養をする者であると見える。乍併、前にも述べたやうに、家庭に居る人々とても、己の理想は決してそこになくて何かやりたいと希ふ人が少くない。如何なる方面に進むにしても、スラ／＼と己の理想が實現出来る者はさう澤山あるものではない。そこでさまざまに悩みぬくのである。然らば如何なる方針の下に、己の行く先を決定すべきであらうか。

### 3 方向を定めて

従來の我國の婦人は、己の一生の方針を決定するに方つても、多くは己の希望が主とならず、長上の意見によつてきめられた。そして其の決定の内容が、多くは經濟的事情や家の格式などに重きをお

かれてゐたやうである。故に、本質的な部分が一向考へられて居ない爲に、將來の生活に破綻を來すやうな事がまゝ起つたのである。私はこゝで、生涯の方針をきめるに重要な要件をあげて見たいと思ふ。

従來の人の頭では、家を尊重し祖先を崇める考から、大切な結婚も、一男一女の結合といふよりも、家と家との縁組といふ風に考へてゐたものだが、結婚は勿論、他の如何なる方面に女性に向ふにしても、新生活にうつて出るのは、當の女性其者であつて、家でもないし親でもないのであるから、どこまでも當人についての要素が基本となり、之に家庭の事情や長上の意見が加はつて、こゝに新生活へ向ふ内面的要素が出來あがるのである。

乍併之は決定の半面の要素であつて、新しい生活の方面が如何なるものかといふ外部的方面が決定されなくては、何れに向ふべきかは判明しないわけである。

#### A 自分のこと

自分が中心である。幸福を享受し、苦難に耐へるのも自分自身である。故に己についての要素を十分に凝視せねばならぬ。之については、第一に體格を考へねばならぬ。生理的缺陷の有無は婦人の生



涯に甚大な影響を與へるものである。體がよわい、體に缺陷があるといふ場合には、勉強するにも、務めに用ゐるにも、結婚するにも大きな障害となる事が多いから、まづこれから解決せねばならぬ。

次に容貌の美醜が可也一身を左右する事も、争はれぬ事實である。が、人生は容貌の美なるものに必ずしも幸福を齎らすとはきめて居らぬ。「美人薄命に泣く」ものも少くない。概して美しいものにはむしがつき易く、醜い花にはい、實がなるやうな天の配劑が、人間界にも多々見える所である。美しい人は心までも一層美しくすべきであるし、美しからぬ人は心を美しくし、腕に美點を作るべきである。美といひ、醜といふも感性的のものであつて、永續的のものではなく、生涯の幸福の永續化に對する第一要件とはならないものであるから、美醜を重大要件と考へるのは危険な事といはねばならぬ。自己について考ふべき第二の要素は個性である。

高等な學校に進むにしても、職業婦人になるにしても、一番大切なのは、本人の個性である。個性といつてもこゝでは極めて廣い意味であつて、知的能力も、情的・意的・道德的諸能力も皆ふくめての謂である。あくがれを懐き易いこの時代の處女としては、往々にして己の能力を考へる事なしに、力以上のものを求めようとする。手のさきの無器用なものが、ピアニストとか、タイピストとかを憧憬

したり、あきつばい性格のものが、忍耐を要する職業を欲したりする事は、其の前途をあやまる基である。宜しくまづ己の能力を反省すべしである。他の事情がどういふ事であらうと、この要素を度外においては必ず成功を期する事が出来ぬ。

自己に關したものの第三は己の希望である。希望も單なる希望であつてはならぬ。右に述べた自分の生理上の要素と個性と、次にいふ家の事情の上に、更に外面的に己の従ふべき仕事についての研究を合せて、考察熟慮した希望でなければならぬ。もしさうでなくば、他の事情に晦い爲に挫折し、他の反對をうけて目的を達し得ない事になり勝である。

#### B 家のこと

男ならば單身獨立して苦闘する事も出来るけれども、女性は現今までの社會事情ではさういかな。周囲の事情に束縛される事が男性よりも多いのはやむを得ない。家庭の事情の第一にあぐべきは、經濟的方面である。高等教育が職業生活か、又高等な一般教育に進むか、職業の爲の高等教育を受けるかは多く己の家の經濟事情によるものである。又結婚が家の經濟事情によつて左右される事は歎々を要せぬ事である。で金のあるなしといふ事から見ても、月々多額な學費を出し得る家、少々は出し得



る家、出せぬ家、出せぬのみか助けてもらはねばならぬ家、さまざまである。薄給な父が只管愛児の教育にと、粗食に甘んじ粗衣をまとうてやつと卒業させた時に、如何に成績が優秀でも、多額な學費を要する高等な學校にはやれぬといふ事情の人もあるであらう。この財的事情は、貴女方の將來の行動に至大な關係をもつてゐるものだから、大いに考慮せねばならぬ。

次に、家の事情としてあぐべきは、身分上の問題である。自分が長女で養子を迎へて己の家の業をつがねばならぬ。うちでは商業をやつてゐて、今之を廢する必要もなく、益々家運隆々たるものがあるといふ時に、自分が女醫になりたいなどいふ事は、家の事情とそぐはぬ事となつて、如何に外の條件が適しても、身分的方面に大なる衝突を來さねばならぬ。殊に之が所謂一人娘などの場合には一層然るものがある。

家の格式といふ事も、今尙一身の問題決定上に大きな力をもつてゐる。我が家は元大名だつたとか、何代もつゞいた名主だつたとか、村一の名望家だとかいふ事が女性の活動に關係する事は可也につき。結婚の要件として、家と家との釣合などが決定要素の主なるものになつてゐる地方は今日未だ少からぬ状態である。「提灯に釣鐘」の俚諺は單に婚姻の問題のみでなく、學校にはいるにも、職業につ

くにも世の問題になるのである。村の豪家の娘が看護婦をやる。貧乏な家の娘が女子大學にはいる。皆噂の種である。噂されてもいゝけれども、物がたい田舎などでは、夥しく之に懸念する風習がある。こんな事は問題にしなくてもいゝが、兎に角決定要件には事實上あげねばならぬものである。

### C 目上の意見

自己の内實が如何にあれ、家庭の事情がどうであつても、結局の所、長上の命令なり賛同なりが最後の斷案となるわけであるから、長上の意見は決定要素の重要部分だといはねばならぬ。

前に述べたやうに、父母其他の長上の者は、己よりも經驗に富んで居り、愛児の幸福の爲に本氣になり親身になつて考へてくれるものであるし、己の希望する方面についての知識なり、表面裏面の生活状態なりに對して、批判の眼識も勝つてゐるのであるから、之を尊重し、之が意見に従はねばならぬ。只こゝに注意すべきは時代の變轉に順應せず、舊態に據り、舊套を墨守して、娘の抱く新しい見上げた考をも、一顧の價値なしとして排斥し、己の老いたる考のみを以て、娘の運命を左右しようとするといったやうな兩親が尙世に少くない事である。之に對しては、どこまでも自己の所信を以て反抗せよとはいへない。さりとして、何でも之に盲従せねばならぬともいへぬ。個々の問題によつて、解

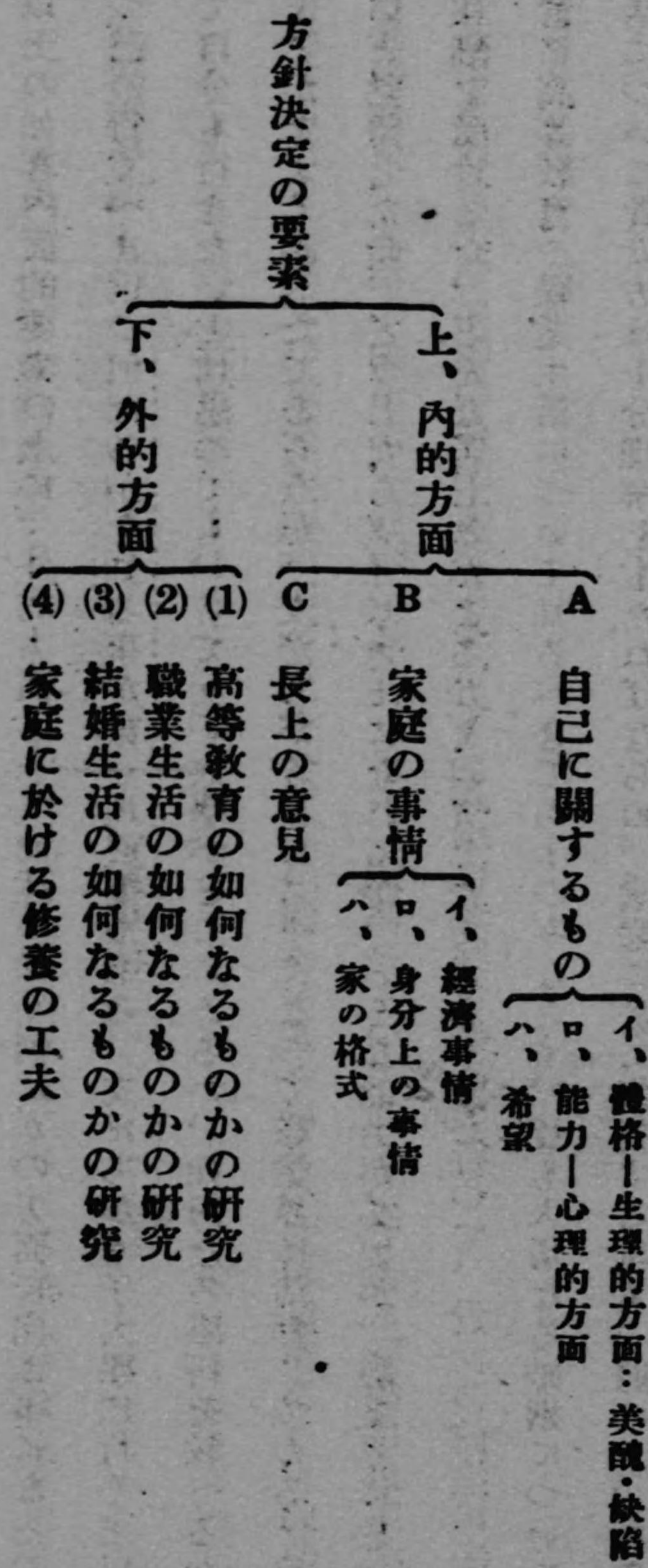


決の道は同じではない。一概にはいへない事である。要するに、両親も自分も考察點を一本筋にせず、多くの材料によつて、色々の條件によつて、決定を妥當ならしめねばならぬ。

以上の如き内面的要素の上に、外的方面として前述の如く何れかの方面に向ふ事になるのだから、まづ己の行くべき道の何たるかを知る事が第一に必要である。友だちが女子大學に行くといふ事をきいて自分も行きたいとは思つても、さて女子大學がどこにあるか、如何なる學科を教へるか、どの位かゝるかをよく調べたであらうか。友だちがタイピストになつて職業界に活動してゐる。自分もなりたいと熱望した時、どうしたらタイピストになれるか、どんな能力が必要か、職業界に於いて如何なる報酬を受けるか、どんな苦しみがあるかを研究したであらうか。

昔に高等教育や職業生活について知るべきであるのみならず、最も大切な婚姻について、又婚姻生活について貴女方は十分理解をもたねばならぬ。家庭に於て修養する事も、前に云つたやうな單調な事ばかりであるかどうか、緊張した充實した生活が出来ないものであらうか。かうした事を知つた時に、はじめて如何にすべきかがわかつて来るし、又かうしようといふ決心がついて来るのである。

要するに一身上の重大時期に際してゐるのであるから、あさはかな考の下に、運命の廻轉をしてしまつてはならぬのである。で今迄にのべた決定要素を表示して見ようならば、

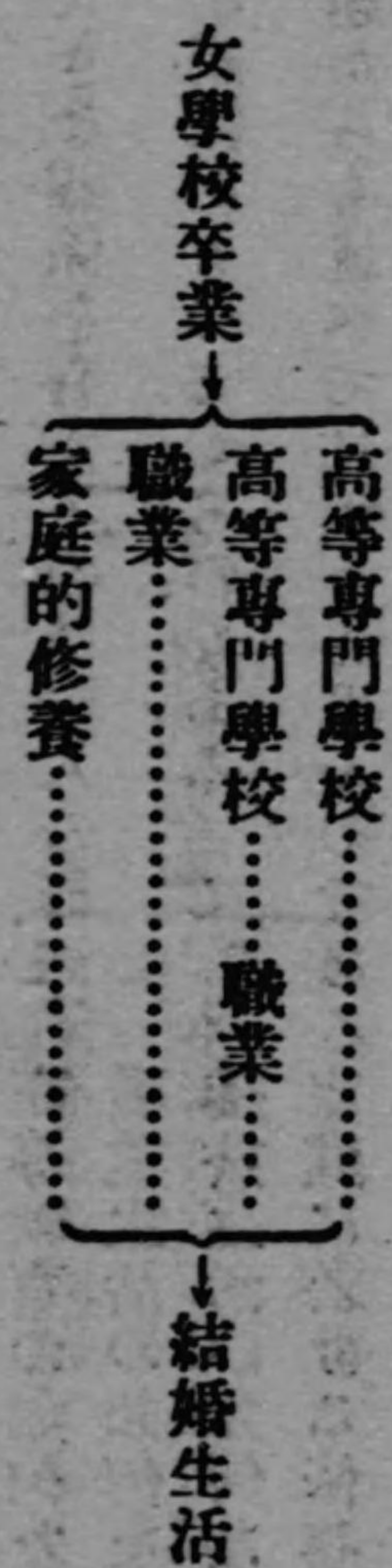


#### 4 使命に向つて

鬼に角出かけねばならぬ。行く先の判明せぬ所に煩悶があつたけれども、決定の要素について色々



と考へて見れば、道は自ら明かになる。で、何處に行くといふ問題は結局収まる所にをさまるといふ事になり、婦人としては、家庭にをさまるといふ事が最高の使命であるといはねばならぬ。つまり貴女方の行く先は、



の何れかになり、高女卒業後家庭にはいる迄の年数が個々の人々によつて相違があり、此の間に於ける修養の如何、生活の如何が、將來の運命に至大な關係をもつてゐるのである。故に以下次編に於いて、前にあげた決定要素の外的方面について、詳細に考察を進めて行つて、貴女の前途に幸多きを願ふつもりである。

## 第二編 婦人と職業

### 六 職業性と婦人

#### 1 世人の偏見

我國でも遅れ馳せながら婦人問題の論議が最近甚だ盛んになつたが、就中、婦人の地位や運命に最も大きな關係を有するのは婦人の經濟的獨立の問題であり、婦人の經濟的獨立は婦人の職業問題と密接な關係をもつてくるのである。で、本編に於ては此の問題を理想の立場から考へると共に、現實の問題からも述べて見ようと思ふのである。が、之まで私の見聞した婦人職業問題は、單に婦人が従事する所の職業そのものに限り、職業をもたぬ婦人についてはあまり論及されぬやうであつたが、果して一般の職業をもたぬ婦人には職業といふ事が無關係であるか、或は苟且に附せぬ重大な問題であるかを考へて見たいと思ふ。



今日、上流階級に属する婦人に對して迄、職業に従事すべきだといふ議論を相當唱へる人があるやうだけれども、かうした富有階級の婦人が、職業婦人に對する見方や態度は、決して之を肯定し賛成してゐるやうには思はれない。否一般に、男のも女のも、職業といふものが尊重されて居ない。従事者自身も、従事してゐない者も、何となく軽く視てゐるやうな嫌がある。

職業は單に金を得る爲の手段である。苦しいものである。金さへ出来れば、いつでもやめて遊んで食つて行きたい。かういつた考が職業者自身に抱かれてゐる。職業といふものに苦痛や卑賤・貧窮などの考が伴つて居り、無職、無爲への憧憬、富貴の尊重が見えて、そこには神聖な崇高な感じがない。之は今日のやうな資本主義經濟組織の時代即ち金の世の中に於ては、やむを得ない事かもしれないけれども、職業といふものが、只金をとる手段、生存の爲の手段だと考へるのが妥當であるかどうかは、向來の婦人としても大いに熟考を要する事と思ふ。

## 2 職業とは

通常職業の意義として世の學者のあげてゐる性質は、前に述べた金錢獲得の手段といふ事と、之に

よる社會への貢獻といふ事の二屬性にすぎない。この二屬性は、共に目的觀念からの性質だけれども、之を理解し、之に従事しようとするものは、尙この外に、職業の實際上の態様から見た屬性を知らねばならぬ。私は之を職業の分擔性・繼續性・有償性の三つにわけ、目的觀にたつ屬性を、利己性と利他性の二つにわけようと思ふ。

### 第一 職業の分擔性

まづ貴女の體に着いてゐるものを見渡した時に、職業が世の事業の一部づつを分擔してゐるといふ事は直ちに分明になると思ふ。即ち、貴女の着物はどこで買ったのか、その布地は何人が染めたのか、だれが紡いだのか、織つたのか。原料はどうして作り、如何にして運ぶかといふ事を考へて見るならば、一尺の布でも如何にも澤山の職業者の綜合的努力の結晶だと見る事が出来るであらう。更に頭のもの、紅・白粉・履物・手さげ、何れ一つとして同一の人の所造ではない。時計の如きは今日千數百の職業の所産である。其他、一般の商業・工業・農業・政治・教育、何から何迄、皆世の中の仕事といふ仕事は、個人の職業の分擔によつて、綜合的に保たれて行くのである。

而して、職業を理解し、之に従事しようとするものが、此分擔性に於て見逃してならぬ事は、各職



業に、皆それ／＼の職業性といふものがある事である。即ち、商人と農人との間には異つた性質がある。工業家と教育家との間にも同一ならぬ性質がある。單に性質上の差異があるのみでなく、其の生活状態にも非常な差が存在するのだから、未婚の人が何れの職業の夫をもつかといふ事についても考へねばならぬ事であるし、従業しようとする婦人が、タイプリスト・女教師・ガイド・記者などの職業に如何なる性質があるかを研究する事はいよ／＼必要になつてくるのである。

### 第二 職業の繼續性

大きな眼で見ると、職業には新陳代謝的な性質があるものである。昔の武士は維新によつて其の職業がなくなつた。駕籠かきは、交通機關の進歩によつて、今は山村の地に追ひのけられ、人力車の如きも、自動車の普及によつて甚だ營業性が危ぶまれてゐる。昔女の手で紡いだり、織つたりした仕事は、紡績や織布の機械工業となつて、今は舊來の方法では職業として成り立ち得なくなつた。之等の職業は、皆社會的の必要によつて發生し、又社會的の必要によつて廢滅するものだから、長い時間の上からいへば變化性があるけれども、之を日々の仕事といふ點からいへば、發生してから一日とか一月とかでなくなつてしまふ職業はない。大抵は、必要性の存する限り繼續するものである。

之を従業者の方から見ても職業は繼續的労働だといふ事が出来る。大工を一日やり、指物師を半月やり、教員を一月やるなどいふ事は、同一の人では、原則としてあり得ぬ事であつて、轉職・轉業をせぬ限り、其の職業が廢滅せぬ限り、職業は同一従業者によつて行はれてゐるのである。即ち毎日同じ仕事に従事してゐる事によつて、仕事は熟練するし、同じ職業者の間に信用や地位などの關係も出來、其の職業の發展といふ事も生じて來る。又同一の仕事に従事するといふ事は、日に従業者の心意や身體に對する同一刺戟の繼續といふ事になり、心身が之によつて變化し、缺陷が之によつて助長されるといふ事も生じて來る。「先生タイプ」「實業家肌」「女優式」といふやうな言葉、又各種の職業病の如きは、職業の繼續性に起因したものである。

### 第三 職業の有償性

有償性といふのは、つまり只で働くのでないといふ意味である。何等かの労働を提供する代償として、賃金・報酬・俸給をうけるのが職業の一屬性である。一時的な有償的労働、例へば、他人の使をしてやるとか用務を辨ずるとかいふ事に伴ふ労働は、之を職業とはいへぬ、即ち繼續性がないから。だが、我國では、家庭労働としての家事・育兒の如き主婦の労働は、分擔的であり、繼續的であるけれど



も有償性があるとはいへないから、之を職業といふ事は無理かと思ふ。しかし、米國あたりでは、妻の俸給請求權が専ら論ぜられてゐるから、妻の職業といつてもいゝやうになるかもしれない。主婦・家政婦・派出婦の如きは、有償性があるから、立派に職業だといひ得る。尙、人々が職業に熱心なりや否やは、現今の状態に於ては、主として此の有償性に左右されるのであるが、之は次項で述べた方が便宜だと思ふ。

#### 第四 職業の利己性

職業に従事するものは、結局己を利用する爲といふのが大部分である。己を利用するといふ事にも、有償性を目的とする即ち金を貰ふといふ事だけしか考へないものが多い。それのみをつよく考へるものが多い。けれども、實際の職業をやつて見ると、精神的に自己の満足を得るといふ事が随分強いものである。で、之を私は職業の精神的利己性といひ、代償をうける方を物質的利己性と云はうと思ふ。

#### 精神的利己性

何もする事がない、遊んでゐるのはつまらぬ、といふ事は、今日の有閑婦人のかこつ所である。人間には生來活動性が備つてゐる。何かやる事がなくてはエネルギーの放散の場所がない。所が、職業

は人間の一日の活動の大部分をしめて、時間的分量から見ても、心身をつかふ性質上から見ても、他の衣食・娯樂よりも多いのが通例であるから、職業活動が、人間の活動性を満足せしめる事は大きいものである。殊に大勢一ヶ所で仕事をすると、競争の慾や社交の慾も満足されるし、藝術上の創作などに於いては、仕事をする事自身に、金銭的に計り得ぬ所の楽しみがある。かうした精神上的の慾望が職業によつて満足されるといふ事は、明かな事である。只之は一般職業者の、目的として見るものが少いけれども、好個の目的となつてゐるものである。

乍併、今日一般の職業人が、單に金とりの手段としてのみ職業を考へるやうになつたのは、色々の原因があるだらうけれども、少くも此の精神的利己性を自覺し、之を重要視するならば、金とりに考を集中する事も少くなり、職業からの苦痛も減するであらう。私は職業婦人たらしとする女性に、特に此の點を十分考へて貰ひたいと思ふのである。

職業の中には、其の作業が極めて單純なものがあるし、又極めて複雑なものもあるが、女子の事務員とが店員とかいふものから、作家・記者・醫師など一わたり眺めて見ると、概して高等な教養を要する職業には、精神的利己性もよけいにあるやうである。キヤラメル王場の女王が大勢集まつて、一の



一つのキャラメルを紙に包む仕事よりも、女流作家が創作に没頭する方が、つきせぬ楽しみがあるといふ事は、何人にも想像の出来る事である。で、高等な職業ほど、この方面の利己性に恵まれるものが多いといふ事は、貴女方の前途に嬉しい一種の暗示を與へる事と思ふ。乍併、同一の職業に従事し乍ら、或る人は之に熱中する事が出来、満足する事が出来るが、他の人は、どうしても之に辛抱が出来ず、たえず不満を感ずるといふやうな事がある。同じ仕事でも、従ふ人によつて、精神的利己性の満足の度がちがふのである。この原因を知る事も貴女方にとつて最も重要な事であつて、これは單に女性の職業のみでなく、男子の仕事にも亦存在する事で、成功失敗のけじめはこゝにあるともいへる位大切なものである。が之については更に章を改めて述べたいと思ふ。

#### 物質的利己性

前にも云つたやうに、此の頃の職業人は、職業を只生きる爲の手段としか考へぬやうになつた。これ即ち職業の物質的利己性のみを目的として考へる事に外ならぬ。之にのみ専念するといふ事は、弊害を伴ひ易い事だけれども、少くも物質的に己を利するといふ性質は極めて大切なものたるを失はない。職業労働の結果として得らるゝ賃銀・俸給・利益といふものがあればこそ、自己や家族の生活も出

來、子供の教育、社會人として、國民としての義務も遂行する事が出来、病氣や變災への備へも出来て、結局獨立生活の資源となるものであるから、何人も之に重點をおく事は無理のない所である。殊に近頃は、萬人労働の思想が行き渡り、世襲財産によつて遊んで食ふといふ事が、正當と認められなくなつて來たので、何人も職業によつて獨立生活を全うせねばならぬ。乍併、今日の資本主義的經濟組織では、金力が萬能であつて、貧富の懸隔がはげしくなると、一層職業人の欲求が物質的利己性に集注せざるを得ない。故に報酬の多寡を以て職業の尊卑や價値を定めようとする事になり、色々の争議なども此の利己性から生じて來る。而して此の利己性をのみ唯一の目的と考へれば、職業は到底愉快なるを得ぬ。不愉快だから労働時間の少い事を要求し、上役がゐなければ、手をぬき、骨を惜しむといふ事になる。であり乍ら賃金はよけいにほしい。之では賃金を増しても、元々職業生活が不愉快なのだから満足が出来ず、不満を外の低級な娯樂に投入するといふ事になつて、根本的に職業生活から離れる事を餘儀なくされるやうな事になる。所謂首になつた人々には、このやうな者が少くないと思ふ。

#### 第五 職業の利他性—社會性



利他性といふのは、つまり分擔性を別の見地から云つたものである。即ち農・工・商・自由業等、社會一般の職業人が各自分の仕事を一方的に營んで行く事が分擔であり、其の結果は有無相通じ過不足相補ふ事になつて、直接間接に他を利する事になり、よつて以て社會が存立して行くといふ事になるのだから、此の方面から見て、職業の利他性又は社會性といふのである。

職業が世の爲になるのだといふ事は、常識として何人もわかつてゐる。わかつてゐるだけで大いに爲にならうとする職業人は案外少いではなからうか。少い筈である。なぜかといふと、多くの職業人が所謂物質的利己性のみに汲々として居り、職業生活が不愉快であるし、少し働いて大いに得ようとするのだから。まして、直接に社會の爲に働く事をたまへとしてゐる高等な職業者すら、兎角自己の利害を中心として金の爲に己の節操を賣る世の中だから。だが、世の所謂成功者を見よ、偉人を見よ、男も女も、えらくなつた人は皆職業従事者としてえらくなり、成功したのである。否世がえらいとなし、成功者としたのである。之等の盛名を馳せる人々には、職業上の利他性が多かつたからこそ、かゝる讃辭を世が與へるのである事を知らねばならぬ。

### 3 不離な問題

前にもちよつと云つておいたやうに、一般の人が職業に対する態度は、どうも之を苦しいものとし、出来るならばやりたくない。遊んで居たいと考へてるやうである。そして婦人の従事する職業にしても、經濟的にやりきれないから働く、といふ人が多く、餘裕さへあるなら、なるべく早く「足を洗ひたい」と――まるで泥田の中で仕事をしてゐるやうな考だと思ふが――まあ、さう考へてゐる。さうでなくば、よそへ嫁ぐまで幾らかためてといふ位の立場で働くものも少くない。で、家に財産があり、嫁いださきにも富が十分であるのに、職業をもたうなどといふと、何だか物好きのやうにすら思はれてゐる。

私のいひたい事は、つまり一般の婦人がもつと職業といふものをよく考へ、よく觀察しなくてはならないといふ事にある。一般に婦人は、どう考へても、原則として結婚するといふ事にならねばならぬ。結婚すれば男子――夫はやはり何等かの職業をもつてゐる。大方は其の収入を以て一家の生活を維持して行くので、其の職業生活の浮沈は、一家の盛衰に至大な關係をもつてゐるものであり、人間



としての永遠性とか、偉大さとか、手がらとかいふものが、職業生活の所産だといふ事を考へて見ると、其の夫に内助の功をつくす婦人が、男の仕事は何も考へないでいふ事はどうしてもいへない事になる。まして婚期にある貴女方には、すぐにも縁談があつた場合、配偶者の人物を視る外に、尙職業生活がどんなものかを、よく考へねばならぬ。といふのは、前に分擔性の所で云つたやうに、職業には色々の性質があり、色々の職業生活の態様があるから、之によつて、家庭生活も一樣でない事になつて、そこに主婦たり、母たる貴女方には、實際問題として、夫の人物よりも、其職業生活の方が重大な問題になる。たとへば、外交官からいへば、お話があつた。嫁ぐとする。華やかな外國の領事館や公使館・大使館の生活は、胸ををどらせるに十分だが、佛國に二年、獨乙に三年、ブラジルに一年と、轉々の生活をする時に、風土病の憂がある事から、體の健否が問題になり、本國をはなれる事から、子供の教育を考へねばならぬ。海軍の軍人、船員の家庭などは、夫が常に長い留守をする。一年の半分は寡婦的生活をする。之は九時から四時までのお役事務の官吏の家庭とよほど違ふ性質である。よく考へねばならぬ。殊に、婦人はどんな職業の人に嫁ぐといふ事を、はじめから決めておくといふ事は、多くの場合困難である。財産のある家に行くか、プロの妻となるか、どこで暮すやうになるか、

之もわからない。それから又、夫の收入のみで生活出来るとしても、人間の生命にはいつどんな事が起るかわからない。十年病床に呻くといふ事もないとは限らぬ。財界の流轉常なき所、又男の意地をはらねばならぬ所に、いつ何時浪人生活を送らねばならぬかもはかり難い。さうした時にすぐ路頭に迷ふ事がないとも限らない。そこに、配偶者の職業についての研究が必要であるといふ根據があり、又そこに、婦人の職業能力をもつ事が必要だといふ理由があるのである。

自分が職業をもつと持たぬとに論なく、尙一つ職業問題にぶつかる事は、我子の職業についての問題である。愛兒の成功を祈り、幸福を期するには、職業生活を合理的にさせる事が一番大切であるが、その爲には、愛兒の職業を選ぶについて、親として周到な調査研究をしなくてはならぬ。即ち本人の性格・能力・學費等の問題から、職業の性質、職業生活の様式のすべてに亘つて、年のゆかぬ當人、經驗の足りない當人まかせにしておけない事が少くない。故に、之は當然親の責務である。所が世の父親は職業生活に忙しく、多くの場合自分の職業をつがせる事を嫌ひながら、他のよく見える仕事に我が子をむけるに甚だ不用意である。其爲に、中道にして當人が辛抱の出來ぬことになり勝である。母親はかうした場合、忙しい夫まかせで無關心たる事を許さぬ。自ら進んで、愛兒の爲に幸福な進路を



開いてやらねばならぬ。女兒に對しても、職業をもたす場合は同じ事だが、よし職業につかせぬ場合にも、其の配偶者に對する如上の注意をしてやらねばならぬ。

かく考へて來ると、婦人の結婚後の生活や運命は、極めて不定なものだといはねばならぬ。そこで用意の爲にも職業能力をつける必要を生じ、又己の理想とする夫や子の爲にも、男子の職業を研究せねばならぬ。即ちすべての婦人は、皆職業と離れ難い關係にあるといふ事が出来るのである。

## 七 婦人職業の現状

### 1 婦人職業の由來

婦人の職業問題が社會問題として出現したのは、歐洲でも十八世紀に於てであつて、其の原因として最も有力なのは、實に十八世紀に起つた産業革命である。

元來人間が他の動物よりも進歩したのは、手と頭を使ふ事が出来たからである。四肢の半分を以て歩行し、上二肢を以て種々の道具を工夫してじわ／＼と工業的發達をとげた所、茲にすぐれた腦の持

主が大きな能力をもつ機械を發明した事によつて、品物の生産方法が一變し、從來の生活様式をも激變させてしまつた。まづ機械や紡績の機械が出来、ついでワットがてつびんのふたから思ひついて、動力としての蒸汽を提供すると、フルトンが汽船を發明して運賃をさげる基を開き、スチブソンが汽車をこしらへるといふわけで、ヨーロッパは忽ち機械の天下になつてしまつた。

この大規模な工業は、其原動力として大きな資本が要る。そして、物をとても安く生産するから、從來、家の中でちつげけな組織でやつてゐた各種の工業が皆つぶされてしまつた。とても競争にかへるものではない。そこで多くの工業者は自ら去つて他の職業につくか、でなければ兜をぬいて金のあつた大企業家の前にひさまづかなければならぬ。従つて其の家族のものも皆外で働く必要を生じたわけである。之が、産業革命のごく大づかみな説明である。

一體、機械力を應用した生産作業は、仕事を著しく分業化するもので、今迄の工夫を要する仕事を皆機械の力で速く多く生産する事になり、機械の補助としての單純な仕事を人間がするといふ事になつた。仕事が簡單だから女子供にも出来る。女や子供は安くつかへる。仕事の相當以下の賃金でも之に應ずるから企業家は益々之を歓迎するわけである。一方に於て、かうした機械工業の發達が家庭の



仕事をへらした事は非常なものである。現今でも割合に文明の利器を用ひてゐない地方では、家庭内の仕事が可能も澤山あるが、大都市では飯をたくにも電気や瓦斯をつかふ。一般にあかりは電燈、話は電話、裁縫はミシン、着物は洋服といつたやあひに、従来は個々の家庭で行はれたものが、家庭をはなれ、更に辨當屋・浴場・貸室等の營まれることによつて、次第に家庭内の仕事がへつて來た。従来用達しには歩いて行つたのが、汽車にのる、電車にのる、すべてが便利になり、早く出来るやうになつた。それだけ暇が出来る譯だが、其ひまを遊んで居られぬやうにしたのは、金の不足といふ事である。なるほど家庭内の仕事も便利になり少くはなつたが、金を出さねば依然たりである。水も水道料金、他との話も電話料金、その他電燈代・瓦斯代、何一として金なくして便利を享受する事は出来ぬ。即ち文明は家庭の仕事も少くし、又同時に金をも少くするのである。文化的施設が整へば整ふ程生計費は嵩んで行く。ひまになつて懐が苦しくなれば、家の中にちつとしては居られなくなり、勢ひ職業界に出ねばならなくなる。婦人の職業はかくしてだん／＼と殷盛を極めて來たのである。これに一大促進力を與へたものは、實に今回の世界大戰であつた。

五箇年に亘つた世界大戰は、其の勃發と共に交戦國のあらゆる職業に従事してゐる男子を戰場に送

つた自然の結果として、それら男子の職業領域は、當然婦人によつて補充されねばならぬばかりでなく、戰爭といふ絶大な物資の消費現象が、澤山の物資の生産を促し、勞働力の減少の補填の爲にも、勞働力の増大の爲にも、婦人を職業界に活躍せしめずにはおかなかつた。通信・交通の諸機關の婦人従事者は勿論、官吏・警官・婦人兵までもあつた位である。

我國に於ても、世界大戰のおかげで産業界は上景氣となり、賃金や物價の騰貴の爲に婦人を職業場裡に送る速度を加へる事が大であつた。かく世界をあげて婦人が職業界に出で、未曾有の大戦につくした結果として、婦人が男子の領域にとつて代つても、よく之を遂行し得たといふ事が、婦人の能力の發揮、男女の優劣觀に影響を與へた事は大きいものである。而して之は又次にのべる思想的原因と共同して、婦人の職業活動促進に大きな貢獻をなしたのである。

前に述べた産業革命は一面から見れば人民の自由の伸張の現れでもあり、人權擴張の一つとも見られた。つまるところは、舊來の王や貴族・僧侶の專制から免れた活躍に胚胎してゐる。と同時に、之迄家にとちこめられたやうな婦人の間にも、自己が「人」である事の自覺を生じ、婦人の解放が叫ばれ、經濟的獨立が唱へられ、實地之に當つたものは、經濟的獨立が出來たのだから、心をむけてゐたものは皆



この思想に共鳴し、又實際に職業界へ歩を進める事となつたのである。男女同權論者は男尊女卑の風習に喰つてかゝり、男のおかげでワイフ生活をやつてゐるから頭があらがないのだ。女だとして職業界に出て男と同様な仕事をし、同等な賃金をうくべきだ。子供は足手まとひだから、托兒所へやつてしまへばいい。お産などは公設産院でやり、あとは乳兒保護局を設けてそこで育てるがいい。専門の知識と、立派な設備をもつた此施設にたよる方が、無知な母親の養育よりも立派な子供が育てられるといつたやうな、少くも現状から見ても、ちと猛烈すぎる議論をばく女性も出て來た。かういふ色々な思想がだん／＼しみわたると、前に云つたやうな、家庭がひまになつて懐のさびしさをかこちつつあつた婦人には、極めて共鳴しやうい状態になつて、誰か第一にとび出す勇者があると、我も我もと、加速度的に職業婦人が出現し、蔓延して來る。かくして我國の職業婦人も激増し、婦人職業も甚だ其種類が廣くなりつゝあるのである。

## 2 就職の動機と待遇

前に述べたやうに、中流階級の人が職業婦人になるといふのは、經濟的思想的の二方面からだとい

つたけれども、事實上では、經濟的方面が主となつて、之に思想的方面から理屈をつけて、社會に出ようとする氣運を促進したのに止まり、思想方面だけで世に活動するといふものは甚だ少いといふ事が、統計に明かな相を見せてゐる。

東京市社會局が主なる職業婦人に就いて調査した所によると、

### 就職の原因 (八〇二人の内)

1 生計の補助の爲に	四七一	全體の五九%
2 經濟上の獨立の爲に	一六〇	同 二〇%
3 趣味や積古や修學費を得る爲に	六六	同 八%
4 嫁入仕度の爲に	二一	同 三%
5 寡婦が我子の扶養の爲に	一七	同 二%(以下略)

となつてゐる。どれを見ても、金の問題以外に就職の動機が見出せない。3・4の如きも、結局職業がら得たものによつて、目的を達しようとするものであつて、何れも、前述の物質的利己性が動機になつてゐる。「經濟上の獨立の爲に」といふのも、近代思想に合つた言葉だけれども、他の四項と概念的に全く別物だといふのではない。だから、之を以て眞に女性が眼覺めて働いてゐるのだともいへない。



尤も、單なる寄生的生活を氣の毒に思ひ、不満を感じて、幾からでも足しになるのだから、社會に出て働いて得ようといふのを、一種の眼ざめといへばいへぬ事もないが。

所で、彼女等の待遇はどうかといふと、之は其の人の伎倆や教育程度・就職年數等によつて違ふので、一様にはいへないけれども、俸給生活者について調査して見ると、その収入は二十圓から四十圓位、殊に二十五圓から三十五圓位のもが一番多いやうである。個々の職業中、天分を必要とする特殊な職業を外にして、最も多い収入標準をいへば、教師の六十圓内外、タイピストの四十五圓内外、事務員・店員の三十圓内外、看護婦の四十圓内外等であるが、殊に職業教育を受けた人は、受けぬ人よりも良い収入がある。例へば、高女を出ただけで教師になつても、初任給が三十圓内外だが、一年間師範の二部をやると四十五圓内外になり、高等師範學校又は高等師範科などをやつた人は、かけだし七十圓から八十圓はとれるのである。細かくいへば、學校學校で、相場がきまり、學歷で高低がついてゐる。教員なども、女高師出身者は八十圓どころだが、裁縫技藝の私立學校の高等師範科を出たものはいくらか安い。あがりも後者の方がおそいやうだ。檢定で得たものはもつと條件がわるい。銀行などになると、高等小學出が日給七十錢、實科高女程度のもが八十錢、高等女學校出が九十錢とい

ふやうに刻んであつて、昇給も、一度に三圓とか五圓とか、大分やゝこしくなつてゐるのがある。

俸給は右の如くでも、其の外に賞與といふ、うれしいものがある。ボーナスシーズン (Bonus Season) になると、女のデスクではコソ／＼と、今期のボーナスの豫想を語りあふ聲がきこえる。さて、頂いた状袋から出して、轟く胸をおさへつゝ數へて見ると、月收の十割一分位が一番多い。中には四ヶ月分位をもらふ幸運者もある。大抵ボーナスは年二回、六月末と十二月末で、お盆や正月の晴着の料にする人もあらう。景氣が悪いとボーナスの袋もげつそりとやせて、あてが狂ふ事もある。中には全然無賞與の會社もあり、ひどいになると、月給さへも拂はず、就職の時の保證金までもまきあげるのである。危い世の中ではある。

賞與の如き、俸給以外の副収入には、尙遺族扶助料・年功加俸・住宅料・退職手當・恩給などがあり、此の外に、各人の内職によつて得るものも相當にある。一定の年數を勤続して、やめてからの生活の保障を得る爲に、恩給や退職金のある所へ勤める事もいふ。がかういふ仕事は、大抵官廳事務員とか、教員・大商店員などに對する施設で、さうした保障のある代り、俸給は他よりも安いのが普通である。

さて、副収入は始終あるものでなく、あつても少額だから、何といつても、主な収入は俸給である



が、之でくらしが立つか否かといふ問題になる。東京市社会局の調査では、大體に於て職業婦人の自活出来るものは甚だ少い事を示してゐる。即ち其の月収は四十圓以下のものが最も多くて、全體の六割三分を占めて居る。補助なしに生活してゐるものは、全體の三割三分に過ぎない。業務別から見て教師・タイピスト・看護婦は自活してゐるものが多く、事務員・店員の過半数以上は補助を受けてゐる。今之を表示すると左の通りである。

収入と生計状態

収入生計	収入と生計状態				計
	補助なしに生活せる者	扶養せる者	補助せる者	獨立可能者数及其比率	
三〇—四以下	五九	六	二二	八七(二九%)	三〇〇
三一—四〇	八五	一七	四四	一四六(四六%)	二七一
四一—五〇	四九	二八	二九	一〇六(八七%)	一二二
五一—六〇	三二	一一	二二	六六(九七%)	七〇
六一—七〇	一六	一五	二二	五四(六六%)	五五
七一—八〇	四	八	一九	三一(一〇〇%)	三一
八一—九〇	三	七	一四	二四(一〇〇%)	三一
九一—一〇〇	一	四	六	一一(一〇〇%)	一一
計	二四九(八%)	九六(三%)	一八〇(五〇%)	五二五(五九%)	三五九(二%)
					八八四

補助なしに生活してゐる者、扶養してゐる者、補助をしてゐる者の三者は、兎に角獨立生活をなしに居る人々であるが、之は右の表によると全體の五割九分であつて、其中、三〇圓以下の収入乍ら、さうした獨立的生活、補助扶養の生活をしてゐる者が、三〇圓以下の全體人員三〇〇中の二割九分をしめてゐるが、之等の人は、如何にもみじめな生活であらう事が偲ばれる。そして五〇圓以下の俸給のものが全數の七九%であるのを見ても、婦人の精神労働が如何にも安いものである事を示し、四割一分が、家からたしまへを買つてやつてゐるものである事は、まだ獨立生活の不可能なもの、決して少くない事を現してゐると見てよい。

このやうに、女子の俸給はなぜ安いのかといふ事は、貴女方が口をさがさうといふ場合、本氣で働いて見ようとする場合に於て、可也重要な問題なのだが、學者の研究によると次のやうな理由がある。

- 1 女子の人格的尊重が自他共に行はれてゐないこと。
- 2 女子の労働が、職業的・永續的・熟練的でないこと。
- 3 家族制度の存続に伴ひ、女子の労働が一家所得の補充の爲に行はれる事情のあること。
- 4 女子労働運動が發達せざること。





女子の人格尊重が、自他共に行はれて居らぬ事は事實である。「女なるが故に」と男の下風にたつやうに、風習がきまつてゐるから、たとひ、仕事の効果は、男と同等、若しくは男以上でも、より安くして自他何れも怪しまないといつたやうな傾向は、今でもなかくある。

女子の労働は實際永続的でなくて、結婚前の二三年を、職業生活に費すのが大部分なのであるから、従つて高級をとるものが少い事になる。且、大多数の女の職業が、機械的な、單純な仕事であるから、この點でも、亦高給は得られないのである。そして、3の通り、一家所得の補充の爲に行はれるものが多いから、以て一家を支へねばならぬ所の男子の俸給の多寡に比して、痛切さが少い。即ち、仕事は單純であり、つとめが一時的であり、家計補助的な要求をもつた婦人が、男尊女卑の風のとれぬ我國に於て、安い賃金で甘んじてゐるといふのも、尤もな話である。だから、此の頃の不景氣に於ては、女事務員などの方が、男子の高等教育を受けた人々よりは、就職率が高いのである。といふのは、男子では専門學校を出たものは、まづ最低六十圓の月給を出さねばならぬが、之を二つに割つて、三十五圓と二十五圓の女事務員を二人使つた方が、仕事の能率があがるし、男ではやがて一家を支へる必要などから、雇主に於て彼を首にし度くても容易でないが、女はそこが極めて便利で、三四年の中

には、大抵嫁に行くから、自然に新陳代謝が行はれる事になつて、始末がいい。そして又、前にいつたやうに安くつかへるし、男よりも使ひよく、不平も少いといふ點がある。だから不景氣を切りぬける爲の經費節約の必要な時は、女事務員の方が口のあるものである。しかし、事業の永久存続する點から考へれば、將來の幹部としては、どうしても男子の高等教育をうけた者を必要とする。大きな役所や銀行會社などでは、高等な仕事はさうした男子がやり、文書の發送の宛名かき・受付・整理・カード記入などの、比較的あたまたない事は大抵婦人にやらせて居る。女の人も、らくな仕事で、まづた時間にさつさと仕事をすませて、時間が來たら、さつさとかへるといふやうな仕事を望むものが多いのである。だが、婦人職業中、教師とか醫師とか記者とかいふものは、なかく單純にはいかない仕事であるが、何といつても、永い傳統の力にはかなはない。多年男子の支配下に満足してゐた婦人は、陣頭にたつてすべてを負つて起つ程の意氣に乏しいから、男子と同等な事業的效果のあがらないものが少くない。しかし、女性特有の能力を以て、適所の仕事をした場合は、可也男子以上の能率をあげるから、男子と同じ俸給にすべきだといふ要求がだん／＼出て來たやうである。で之が實現には、團結運動が必要だらうけれども、女子の労働は一時的だし、結婚してしまへば、やめてしまふ



のが多いから、團結による利害も男ほど痛切に感じないし、とにかく女性は弱いが故に雇主の威壓におそれるといふやうな點があるので、なか／＼まとまつての活動は困難だと思ふ。

## 八 婦人職業の種々相

### 1 特殊相の凝視

筆を此の書物に起してから、貴女方の將來の多端な事について記述を進め、本篇にはいつてから、職業問題の由來や現況について概略を述べて來た。いよ／＼、之から婦人の職業にどんなものがあるか、又其の特殊相は如何にといふ問題に進んで行かうと思ふ。

職業と一口にいつても可也範圍が廣い。高級な女性の仕事としての「職業婦人」のなす職業も百餘種あるといはれて居るが、近頃は益々男性の仕事も女性のそれにおきかへるものが多くなり、又婦人自身の職業に新しいものが出て來るので、其各の職業について、詳細を記述する事は、甚だ困難な事である。故に、こゝではごく要點だけをのべるに止まるが、しかし、これから、多數の職業の中の一つ

を選んで、貴女が本當に働いて見ようとするには、餘程慎重に考へねばならないし、又よほどよく調査研究をしなくてはならない。だから一つの職業についても、出來る限り詳細に知つておかねばならぬ。又自分自身についても、色々考ふべき點がある。で其考察點については、章を追うてお話する事にして、こゝには各職業の色々の状態をかく事にしよう。

職業の見方は、實に各方面からする事が出來る。結婚とか家庭とかを中心觀念として、結婚前にだけ都合のよい仕事、結婚後にも出來る仕事は何かといふ見方もあり、仕事の性質上から、どこでも其の職業が存在するか、又は一定の場所に限るかといふ點、或は又、末の見込が有るなしの點など、見方は非常に多い。けれども貴女方はもう女學校出といふ一資格があるのだから、女學校出でなくても出來るやうな仕事は、まあどうでもよい。どうでもよいではない。私は教育の程度に應じて仕事をするといふ必要があると思ふ。

### 2 教育の仕事

丸ビルの天を摩する大建築が、今や新装をこらして竣成しようとする時であつた。私は東京驛に知



人の外遊を見送つた歸途、或る教育家と一緒になつた。教育家は、この巖岬としてそびえた丸ビルを見あげて、

「職業にも色々あるが、かういふ大きな仕事をして見たいものだなア。」

と嗟嘆した。一つの教室で、年百年中五十人ばかりの子供を集めて、知識の放送を機械的にやつてゐる外には、大して社会的に華やかな交渉をもたない彼にとつては、あの大きな建築を空間に浮立たせる事が如何にも大事業と思はれるのは、まことに無理のない事だつた。しかし私は其時、

「本當ですよ。教育の仕事はかういふ事業から見ると、實に小さいやうです。しかし、かういふ大事業をする人も、やつぱりあなた方教育家の作つたものではないですか。一つの建物をこしらへる位の仕事に止まらず、天下國家を支配する人、不朽永遠の事業を残す人は更に偉大ではないですか、さうした人を作る教育家は更に更に偉大とはいへないでせうか。」

「そこです。私達のかちりついてゐるのは全く其の點ですよ。」

話は短かつたけれども、何だか此の時の快さは、今でも妙に私の心にこびりついてゐる。

然り、教育の仕事は人を造る事なのである。人を立派にし、一人前にする仕事なのである。さうし

て、個々の人間を造るといふ事は、過去の文化を現在に傳達し、現在の文化を、將來に一層はえあるものとする、崇高な仕事なのである。この性質は、どこまで行つても、如何なる場合に於ても失はるべきでないほど重要なものである。

さて教師の仕事は人を扱ふ仕事だといふ點に於ては、判検事・辯護士や醫者と同じやうだが、教育家の對象とする人は、自分よりも幼稚な者である點に於て、司法官殊に辯護士などとはがひ、智的・道徳的方面を主とする點に於て、醫者と同じくない。教師は、より程度のひくい者を教へるのであるから、そこに優越的な心理的満足の大きいものがある。従つて教育者は愛の人であるべきである。他の如何なる性情にかけて居ても、生徒に對する満腔の愛に根ざす精勵と研究と、薰化とがあるならば、教師としての成功は確かであるといつてよゝ。

けれども、教師の仕事は、知識を扱ふものだから、智力が十分なければならぬ。智力があればたとひ學歴は低くとも、讀書研究によつてなりと、知識は吸収し得る。つまり頭のいいといふ事が教師に大切な資格である。生徒の中にはかなり突込んだ質問をするものがある。之に満足するやうな應答を與へるには、頓智も氣轉も要るけれども、智力がすぐれてゐて、知識が豊富でなくてはならぬ。もし



先生として其の學力に疑をもたれ、不信用になると、教師としての尊嚴を失つてしまふ。「信は一切のものを眞ならしめる。」といふ事がある。生徒の信頼を基底として立つべき教師には、この寸言が日常の仕事の綱領となるべきものだが、一度び不信用となれば「不信は一切のものを不眞ならしめて」本當の事を教へても、うそかもしれないぬとの疑をもたせる事となつて、教師としての生命がなくなつてしまふ。幸に女性は愛の人として十分の資格をもち得るやうになつてゐるから、智力が優秀ならば、教師としての第二の資格が備つたといつてよい。

前に云つた職業の性質にあてはめて考へて見ると、教師は、心的利己性の極めてつよい仕事である事は、教師の仕事の偉大だといふ點に於ても明かである。従つて、社會的利他性の大きいことも勿論である。物的利己性乃至有價的方面は、他のものに比して貧弱だとされてゐるが、女性の職業としては、最も高い方に屬してゐる。

今日専門學校を出て、直ちに就職するとしても、教員などは七十圓以上であるが、官廳・銀行・會社あたりだと、五十圓からせいゝ六十圓見當で、口が思ふやうにない。女教師は人がたりない位だから、この點からも都合がよい。そして勤務の時間も日數も、學校をしまつてから、一時間位残ればい

いし、休暇も多く、一年中の授業日數は二百四五十日が普通だから、勤める日かすも官廳や實業方面よりは一年を通じて短いといへる。

官公立の學校ならば、恩給制度があり、年功加俸や賞與もある。結婚してからやつてゐる職業中で、女教員が一番多いのを見ても、勤められるから多いのであり、つとめて効果があるから勤めてが多いのだといつてよい。そして、免許状といふものがあり、學校は津々浦々にあるのだから、どこへ行つても、アキさへすれば働く事が出来る。之はタイピストとか女優とかいふ職業が田舎に行つてはどうしようもないのに比して有利な點である。

さて女學校を出てから教員になるとして、一番簡單なのは、卒業後直ちに代用教員になる事である。之を若干年やつてゐれば、尋常科正教員の免状がもらへる。次に、師範二部に一年行けば、小學校本科正教員の資格が得られ、小學教育ならどんな學年でも受持つ事が認められるわけである。

一步進んで中等教員にならうとすれば、どうしても専門教育を受けねばならぬ。中等教員として一番勢力のあるのは、矢張り官立の兩女高師出身者で、殊に東京女高師が根づよい力をもつてゐる。こゝは四ヶ年課程で、文科・理科・家事科があり、文科では地・歴・國漢・英等の専門に分れ、理科では物



理・化學・數學・博物に分れ、家事科では家事・裁縫・圖畫に分れてゐる。奈良女高師も之と大同小異である。此外、官立では東京音楽學校で音楽の教師を養成する。又東京女高師・奈良女高師に臨時教員養成所がある。この方は二ヶ年で中等教員になれる。私立の高等専門學校に於ける高等師範科も此頃可也ふえた。日本女子大學の師範家政學部、女子(津田)英學塾の英語、共立女子職業や東京女子専門、其他の技藝・裁縫・家事方面、女子美術の圖畫・裁縫等たくさんある。何れも三年乃至四年の修業年限で、就職當時の俸給は大抵七十圓内外である。尙近頃は、女學校の専攻科で無試験を以て中等教員の資格を與へる所も多くなつた。

之等の専門程度の學校に教授となるには、どうするか。今この目的を以て養成してゐる女子教育機關は何もないので、今迄は大抵母校出身者がだん／＼上に上り、洋行でもして來た人を採用してゐたが、此頃では女子が一部の帝國大學にも入學して學士號を得るとか、聽講生になれるといふ事になつたので、此方面から、教授になる事も出来るけれども、人數に於ても少いし、年數もかゝる。オールドミスとなつて、教授の地位を勝ち得るといふ事は可也問題である。この事はあとでよく考へて見ようではないか。

とにかく、教員になる事は、經濟的にも、思想的にも恵まれる事が多いので、近來志望者がとても澤山になつたので、お茶の水などの入學試験もだん／＼むづかしくなつて來た。能力や事情が許すならば、一流どころの教員養成機關に便るべきだが、結婚年齢などいふ事をよく考へて見ると、男子ほど、學校第一に考へなくてもいゝやうに思ふ。少くとも現在の婦人の地位としては。

### 3 天才的な仕事 (畫家・音楽家・作家・女優等)

男の仕事でも、女の職業でも、随分種類は多いけれども、其中には各成功への道がちがつてゐて、行政官とか、教育家とかいふものは、一躍して盛名を勝ち得るといふ事が困難で、どうしても順番の廻つて來るのを待ち、年數をへて行かねば高い地位に上る事が出來ない。所が、畫家とか音楽家・作家・女優などになると、けふが日迄名もない人であつたのに、一躍して有名なものになつてしまふ事が、他の職業に比して多いのである。畫家が帝展や二科展に出品して入選し、殊に特選などになると斯界の新進を以て世にもはやされて、一日にして其地位にも生活にも非常な變化が來る。音楽家にしても、或る公開の音樂會にステージで喝采を博する事が一躍して運命の寵兒となる事になり、小説



家が、苦心の作を一流の雑誌に掲載されて好評を得ると、忽ち斯道の達人ともてはやされる事が出来るので、鰹上りの他の仕事よりも、成功するのに近い事はたしかである。

官吏とか教員とかいふものは、中々上れない代りに、コツ／＼やつておれば、誰も相當の所までは行くのであるが、かうして一擧にして聲名を博するやうな職業では、飛び上るものは九天に飛翔する代り、飛べないものは生涯谷底をはひまはつて居らねばならぬ。即ち、當りちがひの多い職業なのである。

然らばどんな人がかゝる飛翔力に富んでゐるかといへば、畫家なら畫、音楽家なら音楽の方面に異常な能力をもつてゐるものでなくてはならぬ。即ち之等の仕事は要するに天才的な仕事なのである。なまじつかな能力の持主が、只世の一躍的成功者のみを見て、其成功者の陰然たる血の出るやうな苦しみを知らず、世の評判のみを見て之にあくがれ、己の能力をも考へず之にのりこむといふ事は、一文なしで相場をやるやうなものであつて、虚榮の爲に一生ドン底の生活をする事になるのである。つつしまねばならぬ。よく自己を見つめねばならぬ。

「自己を賑つめる」といふ言葉は、近代の女性によく口にする所であるが、どうすればよく自分をみつめられるか。自分をみつめるには、さまざまの考をしたり、さまざまの行をした、その通つて来たあとを、自分で冷靜に批判する必要がある。で天才が自分にめぐまれてゐるかどうかといふ事は、只之だけの事で明かにされるものではないけれども、自己を慾目でなく冷靜に省みるといふ事が自己をみつめる所以である。幸ひ、畫家や音楽家や小説家などを志望する人も、女學校時代に多少なりと皆之等の學科によつて自分の力を試煉する事が出来たし、教師によつて己の力を評價されたから、大體の事は解るけれども、一つの女學校の、四五十人の同級生の間で、圖畫が一番うまいとか文章が上手だとか、唱歌が得意だとかいふ事を以て、直ちに天分に恵まれてゐると思つてはならぬ。人からさういふ讃辭を得ても、之に乗つてはならぬ。本場所をふんで見ると、實に世間は廣い。上には上がある。自分のとてまかなはぬやうな天才者が澤山あるものである。

昔から天才は努力なりといふ諺がある。音楽に、美術に、文學に、大家となつた人の經歷を見ると、幼少から斯道の天才であつた者も、非常な難境に陥つて、之をきりぬける爲にあらゆる努力をした事が多い。そこで天才が努力の賜といふ事にもなるのであるが、努力すれば凡才も亦天才となる事が出来るといふ意味ではなくて、特技をもつて生れついたものでも、大家となるには並大抵の苦心ではやり



とげ得ないのだと解すべきである。況んや畫の能力の何等見るべきものない人がカンヅスに向つて生涯を立派に送らうとした所で、文章のさううまくない人が閨秀作家にならうと夢見た所で、結局人生を、大切な自分の生涯を、棒にふるに過ぎないものと考へねばならぬ。

#### イ、美術家

同じ天才肌の人がする職業でも、一躍聲名を得る方法に、各違つたものがある。文學者や音楽家・女優の如きは、別に之といつて定まつた試煉を何人も受けねばならぬといふわけではなく、其の形式はまち／＼であるが、美術家となると、入選といふ事が、丁度文官に於ける高等試験の如き役目を演じ、其伎倆を公認されるやうになつてゐる。故に美術家となるには、帝國美術院展覽會とか、二科會展覽會とかに其作品を出品して、之に入選するやうに努力せねばならぬ。

實際、展覽會への出品期が近づくと、美術家連の努力はめざましいものである。熱心・誠實、眞一文字の精進、獅子奮迅の勢には、何人も頭がさがるの概がある。中には日に二時間の睡眠を十八日間も續けた男がある。入選祈願に鎮守様へお百度を踏んだ女がある。落選して自殺した人がある。かうして出品することに、いつも入選する人もあるが、幾度出しても通らない者が可也多い。その代り

一度入選すれば、其伎倆は確實性が認められる。仕事のひまに、文學書や雑誌をよみ、投書を追樂にしてゐて、急に何人かによつて文才を認められ、紹介され、やがて有力な雑誌に掲載されて、文學者として出世するものよりは、審査員の矚眼によつて嚴選された方が、所謂一躍する事は困難だけれども、より確實だといはねばならぬ。又美術家の作品は音楽家のレコードや文學者の著作物のやうに幾多の複製は出來ないけれども、要求された作品は多額の金がむくいられるやうになつてゐる。しかし金嵩がはるし、贅澤品なので、財界の好況不況が、美術家の生活に影響する事も大きい。

一口に美術家といつても、畫家・彫刻家・塑像家があり、畫家の中でも日本畫・西洋畫の兩系統があつて、其の中に色々のわかちがある。婦人としては多く畫家であつて、彫刻や塑像をやるものは少いやうである。

日本畫の中でも、現代的な日本畫の外に、昔の廣重や歌麿流のもあり、支那系統の南畫・文人畫・北畫・佛畫等もある。西洋畫にも、油畫や水彩畫・パステル畫・テンペラ畫・鉛筆畫・擦筆畫・燒畫等がある。中には肖像畫専門の人もある。

繪畫は平面上に表現する高級藝術で、色彩・濃淡・遠近によつて、己の思想感情を表現するものであ



る。繪畫に限らず、一般美術品は、作者の個性の發揮されたもの、獨創力の表現である。故に、他の模倣に長ぜねばならないが、一番大切な事は工夫力・獨創力に富む事である。そして、職業の性質上、眼についての特殊能力をもたねばならぬ。眼によつて觀察する力、色彩や濃淡、形體の正確な觀方が出來ねばならぬと共に、眼で見た之等のものを、よく記憶する力即ち視覺型の記憶に長じ、視覺的美的感情が豊かで、視覺的想像力にも富んで居ねばならぬ。又手さきをつかつて表現するのであるから、手指の微細な運動が巧みである事の必要は云ふまでもない。

さて、美術家になる修業の方法であるが、固より天才的な仕事だから、必ずしも學校をふまねばならぬといふ事はない。が、研究の爲、題材を豊富にする爲に、相當語學や外の學問も必要だから、専門教育をうける方がいゝ。しかし女子は、東京美術學校あたりでは、まだ入學を許さないから、女子美術學校・川端畫學校等か、畫塾について研究するのが普通である。研究所としては岡田三郎助氏の婦人畫家のみ研究所、日本美術院・太平洋畫會・白馬會・本郷洋畫研究所・同舟舎研究所等がある。

「二躍」的成功を期して努力する事は必要だが、皆が皆、閨秀畫家として世に時めくわけにもいかぬ。趣味として之に親しむ事の許される境遇の人なら格別、生活しつゝ、畫筆に親しむ人には、圖畫の

教員となる事がよからう。教員ならば、割合に時間の餘裕も見出し得るから。尙、近頃は雜誌が澤山出るので、其挿繪・表紙・書物の裝幀などに腕をふるひ、又はポスター、色々の圖案などを以て生活して行く事も出来る。

#### ロ、音樂家

婦人として音樂家になるとすれば、まづ聲の方面で聲樂家、手の方でピアノリスト・バイオリニスト、之等を合せたものとして音樂教師であらう。近來盛んになつた音樂熱が、ラヂオの流行によつて、一層高められたので、女性が音樂家として立たうとするものもふえたやうである。

職業婦人として生活して行くとしたら、聲樂家・器樂家・作曲家の一方的な仕事をもつてやつて行くといふには、よほど優秀な伎倆がなくてはならぬと思ふし、又社會的需要も多くはない。けれども、女子の中等學校や小學校の音樂唱歌の教員になるならば、之は數に於ても多いし、生活にも都合がよい。しかし、之は聲樂・器樂・作曲の何れも相當に出來なくてはならぬし、人の師表としての教養や品格も持つてゐなくてはならぬ。大都市に於ても、教員をしながらステーチにも立つといつたやうな人が相當にある。



音楽家になる素質としては、耳・のど・手の先の能力の天才的なるを要する事は、恰も畫家が眼や手の先のわざにすぐれてゐる必要があるのと同じである。

音楽は耳の活動によるものだから、聴覺の鋭鈍は音楽家の天賦の尺度ともいへるし、成敗のキイであるともいへるであらう。音の長短・高低・強弱・音色・音質の良否の判定の如きは、すべての音楽の形成要素であり、皆聴覺の主宰する所である。

聲樂家は聲帯が優秀で、發音が正確でなければならぬ。だから、聲をつかふ音楽家系統の者が、のどを大切にすることはえらいものである。

ピアノ・オルガン・バイオリン等の器樂を以て起たうとする人は、時間的感覺に優れ、モーションがはやく、手指の運動が敏速でなければならぬ。オルガンやピアノをひく人を見ると、譜を見て其の示す高さ・長さ・強弱・音の複合關係等をすばやく判断し、手指をキイにふれてまぢがひなく彈奏し、足でペダルをふまねばならぬ。且つ、教師として數十の生徒兒童を教へる場合の如きは、諸生徒の口のあき方から、發聲の仕方、姿勢・行儀の方面まで注意を配らねばならないのだから、手・足・耳・眼の協調努力を要求するのである。

音楽家として立つには、音楽學校を出る事が必要である。東京音楽學校は男女共學で、聲部と器樂部及師範科がある。私立の方では東洋音楽・女子音楽・大阪音楽・神戸女學院音楽部・女子體操音楽の諸學校がある。今では音楽學校を出て、中等學校のみでなく小學校に奉職するものもあるが、何れも初の月俸は七八十圓である。しかし傍ら自宅で個人教授をやり、出教授をやるから収入も可也である。一流の音楽家では一週一回の教授料が三十圓、一回のステーチ料五十圓から百圓、時には何百圓といふのもある位である。が、内的利己性のつよい仕事だから、金よりも技術に打込まねば成功出来ぬ。

#### ハ、作家

閨秀作家になりたいといふあくがれをもつ女性は、文藝流行の今日少くないやうだ。新聞や雑誌に新作を發表すると、天下幾萬の愛讀者からヤンヤともてはやされ、其肖像が出たり、生活ぶりが紹介されたり——まことに華やかである。貴女方の憧憬するのも尤もだ。しかし何事でも天下に名をなすのは容易でない。

今日男子の作家でも、相當にやつてゐる人々は何れも高等な教養があり、且學生時代から、習作的な時代、投書家といふよりも没書家時代があつた。何度苦心して書いたものも没書されて、懸賞にも



當らなければ、雑誌にもせめてくれない。随分と困苦缺乏の時代を通りぬけた人が少くないのである。此頃文藝春秋をはじめ、多数の個人主宰の雑誌が出てから、若々しい多数の作家が輩出したが、彼等は皆生活を、之によつてのみたて、行く事が出来るものではない。各所から原稿を頼まれる人は、さう澤山あるものではない。書かなくては食へない人々は、何とかして書いて、原稿をあちこちの雑誌社・新聞社にもちあるく。あるいは口説いても買つてくれぬといふやうな、水平線以下の人が可也多いのである。

然らばどうすれば、「一躍」が出来るか、之は前にも述べた通り、其の才能が天恵的にそなはつて居らねばならぬ。天才的でないものが努力してもうまくいかぬ。しかし、嘗て朝日新聞に、小説「歸る日」を出して文名を鳴らした池田小菊女史——よく令女界其他の少女雑誌に執筆する人——などは、中等學校時代には國語の成績はいつも下の方で、理科・數學は優秀な成績だったといふ。之は一面「天才は努力なり」を裏書きし、天賦の才能なくも努力によつてよく成功し得るとも考へられるがしかし、天賦の能力は潜在して表面に出て来ない事がある。師の指導が適當せず、只教はるのに受身的ばかりされてゐては、自分のもつてゐる特長がなか／＼表はせない場合がある。

さて文學者としてどんな能力が必要であらうか。文學者は文字・文章によつて己の思想を表現するものだから、表現が自由巧みに出来るといふ事が必要なのは、誰にもわかる事だ。私共の少年時代には、文章家といふものがあつて、多くは文語體のものだったから、各文章家の間に其の特徴がはつきりしてゐた。大和田建樹・落合直文、或は大町桂月・徳富蘇峰・蘆花など各特長ある文で、學生の間にたいへんよく讀まれたものであつた。今の文學者の間にも、文章上の特色はあるけれども、一樣に口語體になつたので、昔程の表現の差がはつきりと認められなくなつた。そして内容的方面に、書く人も讀む人も中心をおくやうになつた。だから單に文章がうまいといふだけに止まらず、其の内容を豊富にするし、變化があるやうにする爲には、どうしても獨創力・思考力がなくてはならぬ。又小説・戯曲などに於ては、人生の萬般を有形無形に亘つて描寫表出せねばならないから、緻密な觀察力を要する。しかもそれは直觀的に細微な點までも洞見する位でなくてはならぬ。小説などに出て来る人の扮装や、表情の描寫などを見ると、よくもあんなに、如實なかき方が出来たものだと思ふ事があるであらう。之もつまり、日常目にふれ耳に接するものに對する、直觀的觀察を根底としたものに外ならぬ。表現、觀察の能力が秀でてゐる外に、作を見事にする爲、必要なのは想像である。人生の出来事は



小説にかいてある程の複雑な事は澤山あるものではないし、假りにさうした事が澤山あつたにしても、作者が之を知らねばならぬし、一人の作者がさう小説的な事を多くもつてゐるとは限らないから、場面を興味あらしめるとか、自分の主張を巧に表現するといふ場合には、どうしても事實に近い表現を想像から生み出さねばならぬ。そこに豊かな想像力の必要がある。

乍併、想像は如何に如實にせねばならぬとしても、事實そのものではないので、往々にして反事實的な事をかいてしまふ事がある。例へば某大家は、融氷のトンネルで汽車の窓から煙がいつたといふ事をかいた所が、あそこは電気機關車を運轉してゐるので、煙の問題は事實に反する事になつた。小さな問題だけれども、作家としては相當に博い常識の所有者たるを要する事がわかる。

文學者の仕事は、己の作を讀者の胸に訴へるものである。故に、人間の性質の研究は、單に作そのものをするに必要ばかりでなく、讀者をとらへるといふ事に於ても肝要である。故に人間生活の理解が必要となり、従つて一般の社會科學や哲學など迄、文學・美學・修辭學等と合せて學ばねばならぬ。殊に思想を豊富にし、題材に困らぬやうにするには、語學がその橋渡しをするものだから、これに達してゐる事が最も必要である。この意味から、どうしても高等教育が要求されて來るのである。

同じく文學者としても、小説・戯曲・詩・和歌・批評など各専門的になつてゐるが、之を一括していへば、創作系統と詩人系統、翻譯系統及び評論系統とする事が出來よう。其の各の中に、可也こまかいわかちがあるので、其れによつて特殊な性質があるけれども、近頃は評論家が小説をかき、俳人が小説にくらがへをし、小説家が戯曲に筆をそめるなど、色々交錯してゐるやうだ。

さて、女性が文學者にならうとするのにどんな學校があるか。之は非常に少い。まあ、日本女子大學の國文・英文の兩科、この頃出來た與謝野夫妻のやつてゐる駿河臺の文化學院の本科などであらう。何れにしても、職業の性質上、師事する個人の指導によらねばならぬ。女なるが故に、閨秀作家たらんとして、いつしか師事する人や知己との間に妙な事が出來て、天晴閨醜作家になつてしまふ人も少くない。仕事の仕事だけに、兎角墮落し易いもので、心せねばならぬ問題である。

## 二、女 優

草深い田舎から、女學校を出た年若い娘が、女優志願の爲に無断上京して……といふ新聞記事が近頃滅切りふえて來た。女團十郎といはれた九女八が今の神田劇場、當時の三崎座に現れたのは明治二十年頃で、之が日本の女優の最初だといはれてゐるが、今日では、芝居・歌劇・映畫・ラヂオを合して千



有餘のものが、女優生活をしてゐて、津々浦々の子供迄が、一流女優の顔を知つてゐる位だから、田舎出の女性が、華やかな東京で最も華やかな女優を志すのも無理のない所かも知れない。

けれども、この千有餘名の中、存在を認められてゐるのは、關東關西で五六百人位のものであるから、中々相當有名なものになるのは容易でない事がわかる。只、他の鰻上りの仕事と違つて、特有の能力をもつてゐれば、榮達が早いといふ點に於て、矢張り天才的な仕事である。ではどのやうな能力を必要とするかといふに、何人にも氣のつく事は、容貌の美といふ事である。が、其の道の人にはせると、必ずしも之のみが必須條件ではない。顔の美の必要でないものにラヂオ女優がある。聲のいいといふ事は、芝居・歌劇・ラヂオには肝要だけれども、映畫にはいらぬ要素である。芝居や映畫の女優としては、容貌・容姿の美・動作の優雅・藝の達者な事を必要とする。従つて、動作やせりふの摸倣に長じ、又其の記憶に秀でて居り、表情に巧みである事を要する。

俳優の性質として、時には令嬢に扮する事もあり、田舎娘にもなる事がある。藝者になつて三味線をひくとか、音楽家に扮してバイオリンをひく事もある。キネマ女優では音は出さなくてもいゝけれども、何れにしても其の動作は觀客から見ても眞に迫つたものでなければならぬ。令嬢くさい田舎娘

でもいけないし、田舎々々した令嬢でも困る。三味線やバイオリンを手にした手つきからが、心得のあるものとなひものではちがふ。そこに、遊藝や禮儀作法などの必要がある。

女優になるとしてどうすればよいか。劇の方では帝劇に養成所があつた、震災後中止して居るやうである。曾我廼家五九郎の喜劇、澤田正二郎の新國劇あたりに屬してゐるものもあり、歌劇では大阪の寶塚少女歌劇が有名である。キネマとしては、日活・松竹・牧野・帝國キネマ・東洋・東亞等のプロダクションに専屬して養成されて行く。しかし、近頃は女優熱にかぶれた若き女性を釣る朦朧女優養成所があつて、其所で朦朧化したなれの果てが、賣笑窟などに見出されるさうであるから、徒らに虛榮にかられて飛び出す事は禁物であらう。

収入は、役もちになつても月五六十圓所で、一流になると六七百圓から千圓位。最も、俸給は大抵秘密だから、本當の所はわからない。たとひこれだけ収入があるとしても、なりにかゝる仕事であり、稽古にも澤山の費用が要り、はでな仕事だけに、それ／＼の關係筋へ所謂つけ届けが中々かゝるさうだから、収入の割に残せるものではない。なまなかな収入では足りなくても、人氣をとる爲には、持出し位する事もあるので、パトロン(擁護する男)とやらいふものが必要になる。金だけ出してパトロ



ンになつて喜んでゐるやうな男性は、まづさう澤山ないであらうから、節操堅固に、藝道に精進して、一流どころになるには、經濟的根柢も相當なくてはなるまい。

#### 4 病氣への奉仕

##### イ、女 醫

人間は命を惜しむものでありながら、どうも命を惜しがらない。體の丈夫な時は命の事など気にしないけれども、一旦どうかすると、忽ち生命の問題が痛切になる。此の心理的矛盾が、命が惜しくて惜しくないといへる理由になる。兎に角、病氣した時には醫者にたよるほかはない。神佛への祈願も文化の進歩と共にすたれて行く。然り、文化の進歩は、死ぬべかりし人を生かして行くと同時に、新しい病氣をも増加せしめるから、結局醫者は益々必要になる。婦人職業としての女醫が中々繁昌してゐるのも、一面右の原因からである。乍併、女性の特有な性質から、婦人や子供の病氣の時には、女醫が喜ばれるといふ點もある。それかあらぬか女醫志願者は逐年増加して來た。

生命の保護が醫師の手腕によつて出來るとなれば、病人にとり、其の家族にとつてこんな喜びはな

いし、この喜びを見る女醫自身の喜びも無上のものである。醫者の仕事は人氣商賣である。あそこの醫師は上手だ、親切だといふ評判がたつと、患者は少しも早く全癒したい考から千里を遠しとせずして來る位のものである。故に忙しい醫者と來たら、殆ど盆も正月もない。一日の中くつろぐ時間もない。患者は皆生命を惜しがつてゐる人間である。苦しんでゐる人々である。如何に多數の患者でも、一人一人皆大切な命を、醫師に頼つて全うしようとするのだから、御粗末には出來ないわけだ。けれども、兎角多數の人を扱ふ仕事は、往々個々の人々を冷遇する。夜中の急病で、門を叩いても寝たふりして起きてくれぬ醫師、入院料滞納によつて瀕死の病人を放り出す院長、横柄不親切な診断投薬をするものなども出て來るやうになる。そこへ行くと婦人の醫者は、女なるが故の同情心があり、女性として人に接する柔か味もあるので、大いに歓迎されるわけである。

同情心があり、親切だといふのが女醫の特長だとしても、尙之の外に醫師たるべき必要な能力がある。複雑な人體の生理病理を知つて、患者を診断し、投薬・手術をするのだから、一般知能の優秀な事は最も必要であるが、更に觀察力が鋭く、注意深く、手先きの動作も器用鋭敏でなければならぬ。又記憶力が必要な事は勿論である。症状を見、聽診器によつて耳にきいた事を記憶し、病狀の経過、人



名と病状、容貌と人名等の關係的記憶を必要とする。肺病其他の傳染病患者を取扱ふ事もあり、腐つたり爛れたりした患部を手術する事もあり、又瀕死の重病患者に接する事も珍しくない。時には、後にもさきにもたつた一人の男の子の死に直面した病床に、涙乍らにはべる両親を前にして、之を全快に迄努力せねばならぬ事もある。考へて見れば逆も重大な責任のある仕事である。しかし一般の醫師は皆案外冷靜である。又冷靜沈着でなくては到底出来ない仕事なのだ。患者に接する多忙な生活、時には患者の菌を背負ひ込んで同病に殉ずる事もある。體が丈夫でなくてはやりきれない。

婦人がやるとしては、外科の手術などは、荷が重い事もある。だから、産科・婦人科・小兒科の専門になるものが多いやうだ。しかし専門醫で御座るといつて、外科や傳染病などの診断を拒絶する事は出来ない。

體が丈夫、沈着で注意深く、觀察力強く、記憶がいゝといふ事の外に、「はやる」爲には、應對や風采・態度・學歴・肩書なども、必要な武器である。はやるといふ事は妙な語だが、出来るだけ多くの患者をなほしてやるといふ事が、職業上の使命なのだから、はやらす事も考へてよい。

醫師の修業は金がかかる。今日では開業試験はなくて、三年以上の醫學專門學校を出なくては開業

出来ない事になつてゐる。學校としては今我國では、東京女子醫專と帝國女子醫專の二校のみである。何れも女學校卒業生を入学せしめて五年かかる。修學中の學費も多いが開業費もかかる。「醫師の玄關」といつて、立派なものにする事が、信頼の度を増す所以になつてゐる。併しもとがかかるだけあつて収入も中々多い。東京市社會局の調査では、最低二百圓、最高七百圓で、平均三百圓の月收になつてゐる。併し、之は卒業して二三年助手をしてからの事であり、土地の状況によつて、収入にも差等のある事を知らねばならぬ。

#### ロ、齒科醫

女醫の仕事は、はやれば可也過激なものである。家庭をもつて子供でもあつては十分な活動が出来にくい。そこへ行くと、齒科醫の方は、家で出来る仕事だから都合がよい。女性が職業をもつて外に活動するといふ事はどうも育兒家政の方面にさまゝの缺陷を生ずるので、大分近頃問題になつてゐるが、此の事は何れ章を追うて述べるとして、齒科の方だと、患者が自宅へ来るのだから此の點が婦人に向く。又診断や手術の範圍も普通醫よりは狭少だから外科の大手術などするに比して楽だといへる。乍併、齒科の方は、齒の金冠・充填・義齒等の技術方面に中々手の先の巧妙を要するから、醫師と



しての必要性能の外に、繊細な技術的能力を必要とする。

収入としては、前記社会局の統計によると、開業したもので一五〇圓から六〇〇圓、平均二〇〇圓といふ所だが、歯科の専門雑誌などを見ると、もはや歯科醫の過剰による生活難を訴へてゐる。そして婦人の單獨開業も案外少いやうである。文明と共に齒の患者は増加するといふ事だが、外の病氣と違つて、一度よくなほした所は、さう度々再發するものでないので、割合にひまなのであらう。それに、歯科の方は中々原料の高いものを使ふ。藥品・器具・金冠材料など。だから収入から費用を色々差引けば、さう潤澤な利得はなくなる。とはいへ、婦人の家庭で出来る仕事としては収入の多いものである。修業はどうしても三年以上の歯科醫學専門學校を出て來なければならぬ。婦人の方では、東京女子歯科醫專と、東洋女子歯科醫專の二校がある。

#### ハ、助産

醫師を助ける職業として助産婦と看護婦がある。尤も助産婦即ち産婆は、醫師に專屬せず、安産の時は自分のお手柄、難産の時は醫師にお任せするのだから都合のよい仕事である。今の所、そんなに高い程度の教育を必要としない。皆高等小學を出た位のもので試験をうければいゝのだが、醫師が開

業試験によるを得ず、専門學校を出たものでなくては、開業出来なくなつたやうに、だん／＼其の受験資格も上るであらう。兎に角、助産婦は高女出の人としては最も受け易く、修業の短い割に、収入の多い仕事である。東京市の統計では、平均月収一五〇圓で八〇圓から五〇〇圓の範圍である。産婆の看板をかゝけてゐる家には、中々大きな家がある。之は妊婦を預る爲のものである。都會のせゝこましい家で産の出来ない人々はかういふ家や病院・産院などに行つて安らかにお産するのである。此の方面の収入も中々ある。

土地によつて違ふが、東京でも中流家庭を標準にすると、妊娠六ヶ月から、月一回位は往診宅診をする。初診で二・三圓、再診一・二圓、出産の場合は、出産取扱と一週間の嬰兒沐浴の世話に對する謝禮が十圓から二十圓、外に家によつて祝儀を三圓五圓つけるので、一人の妊婦からの収入を合計して見ると、三十圓内外になる。今の所教育程度の高い人はあまりないから、高女を出て本場仕込をした腕のいゝ人にでもなれば、はやる事もやらうし、大都市などでは上流の家に入入し傳るであらう。子供が生れるといふことは、母にとつては勿論、父にとつても嬉しい心配なので、たよりにするのは産婆さんばかりであるから、もし、その腕がよく、取扱や感じがいゝとすれば、子供の出来る限り、



同一の産婆を頼むといふ事になり、幾年かやつてゐる間には、嘗てとりあげた女の兒が生んだ子迄、二代に亘つてとりあげるといふやうな事もある。出産による母子の健全といふ事は極めて重要な事であるから、助産婦の仕事は社會的にも重い使命をもつものである。

看護婦も亦病者のみとりをする重要な使命をもち、醫師よりも患者に接する事の多い仕事である。體が丈夫で、動作敏活、深切である事が最も必要である。今の所さう大した學力を必要としない。

看護婦は田舎からかけ出しの尋常小學出でも元はやれたものであるが、今日では試験を通らねばならなくなつた。でも高女を出た人にとつては學術試験も高等小學卒業程度だから何でもない。高女出の人が本當に看護學をやるのには東京では築地の聖路加病院附屬高等看護婦學校がある。こゝは高等看護婦或は病院經營者を養成する三ヶ年課程の學校である。此外官公立醫科大學其の他私立の大病院には何れも養成所がある。が程度は小學卒業者のはいるものである。

看護婦として生涯を通るのも意義のある事だが、學費をためる方法としてもいい。學費を稼ぎ出す目的としては、看護婦會から患者の家か病院へ派出するので、看護婦會へ手数料等を拂つても月四五

十圓の收入がある。之は大抵患者に食費をもたせて一圓五十錢から二圓位だから、學費を得るにはいい仕事である。けれども、派出には往々患者との間に醜い事が出来たりするので、看護婦といふと賣笑婦のお隣かのやうに思はれた事もあつた。意志の堅い女性ならば、萬難を排してやるべしだ。

産婆とか看護婦などは、今日教育程度がひくくても出来る事なのだが、だん／＼志願者も激増するし、高等教育の普及は、普通の職業の従事者に迄、わりこんで来るから、早くより、高女出として之等の仕事についておく事が、成功を早からしめる。この兩者は、生涯の仕事としても出来るし、主婦となり母となつても、學問として技術として知つてゐる事が極めて有意義な事だから、學費や能力に於て問題のある人々は、此方面に出るのもいい事だと思ふ。

## 二、藥劑師

女性の職業はどうも家庭生活との調和といふ事が中々うまくいかないものであるが、藥劑師になると、獨身の間は病院や製藥會社・衛生試験所等に勤め、家をもつてからは、藥店を開業するといふ便宜があるので、都合のよい仕事だといはねばならぬ。店としては、藥を賣ると共に化粧品文具迄も販賣してゐる所が多い。醫師と藥劑師とが今日でははつきり分業になつてゐないけれども、近く分業にな



る趨勢であるから、さうなると一層有望になる。

薬剤師は醫師の處方によつて藥劑の調合を司る仕事で、毒藥・劇藥を取扱ひ、其の過失は人命に關するものであるから、細心の注意を要する。科學的頭腦をもち、記憶に長じてゐる事も必要である。

薬剤師となるには、試験を受けねばならぬ。其の資格は高女を出てから三ヶ年課程の藥學校を卒業せねばならぬ。

## 5 社會的な仕事

### イ、婦人記者

新聞や雜誌の婦人記者、はでやかな扮装と、はでやかな生活、文藝で立ちたいあこがれをもつ女性の多いやうに、この方面も可也希望者の多い仕事である。

新聞にも雜誌にも、婦人記者は従事してゐるが、何れも婦人・家庭方面を擔當するものが多いやうである。で名流婦人を訪問して、其の話の要領を摘記し、之を纏めあげるといつたやうな仕事がおもである。何でもない事のやうだが、訪問しても中々會つてくれぬ事もあり、要求した話がその通りに

ならぬ事もあつて、中々忍耐力が要る。或る記者は一人の訪問に六七回を費し、又關係方面を訪ねる事十人以上に及んだ事があるといふ。記者は手で書くよりも足で書くといつた方がよい位である。

訪問して記事を作るといふ點に於て、訪問が上手でなくてはならぬ。人を訪問して先方によい感じを與へ、出来るだけ多くの話をさせるには、相手に好かれるといふ事が必要だから、非常識・突飛・脱線・お轉變・内氣などの患者は、記者として不向である。快活な中にしつかりした所があり、禮儀も心得てゐる必要がある。

訪問して相手に話させるには、質問が上手でなくてはならぬ。話のいとぐちを巧く見出して、要點をすつかりとらへる事が大切である。要領を得た質問、相手の感じを悪くせぬ、愚かしくない發問をしなくてはならぬ。次に大事な事は、問題を考へ出す事である。世間に何か事件が起れば、其れに關聯した事實を洞察し、婦人や家庭に必要なと思へば、之を問題として記事を作る爲に奔走する——つまり社會事象に對する觀察批判の力がなくてはならぬ。文章が上手といふ事はいふ迄もないが、普通の創作のやうにゆつくりやつてゐる事が出来ない場合が多いので、手取り早くまとめあげる手腕が要る。記者になる人として別に養成してゐる學校はないが、高女出以上専門學校程度の教養があればいい。



就職は多くは推薦で、時には廣告による募集もある。収入は手腕により、社によつて同一でない、五十圓から二百圓位。中には、一つの記事によつて支拂はれる請負式のものもあるやうである。

人を扱ふ仕事には、婦人の物やはらかい接觸感が有効だから、近頃各方面の事業に婦人を歓迎するやうになつた。其の中で、教育者は人を引立てる事に従事し、女醫・助産婦・看護婦の如きは人の生理病理の方面を司るが、社會事業家になると、扱ふ人々が何れも社會的に勢力の劣弱なものを主としてゐるので、人を扱ふ他の婦人職業とはよほど趣が違つてゐる。貧民を救助し、貧窮を防ぐとか、児童の保護などが、主要な事業であるが、現今の社會事業中の主なるものは、防貧事業の一たる職業紹介事業と児童保護事業である。

職業紹介事業は、近頃全國の大都市・中都市に設けられて可也盛になつた。今では財界不況によつてこの紹介所の門前には、職を求めぬ男女老幼が見すばらしいなりをし、便りない顔をして蟬集して居る。之等の人々を適當な所に紹介してやつて、衣食の糧を得しめるといふ事は、大きな事業であり、生きた事業であり、最も貴い社會仕事である。又、貴女方のやうに、両親なり家なりがしつかりして

ゐて高女教育をうけられる人は幸福なものだが、狭い世間には、高女所か、小學校にも行かれず、生れ落ちたのが貧民長屋、病氣しても醫者にもかけられず、大きくなれば不良組といつたやうな、やむを得ざる放任を受けて、一生不幸のドン底生活を送る者が、とても澤山ある。之等のものを色々の方面から保護するといふ事は、亦非常に貴い仕事である。社會事業家のやる仕事は大抵皆どうにもならぬ、といふやうな運命の落伍者に対して、眞の同情を捧げる事が多いのだから、思ひやりの多い人でなくてはならぬ。接する人が多く教育のない低劣な生活者である。なりも汚からうし、禮儀もしらなからうし、たちも悪からう。かうした人をよく世話してやるのは、同情心と共に、忍耐力もつよくなくてはならぬ。婦人の社會事業方面に活動する場面としては、婦人職業の紹介、婦人内職の紹介、即ち投産場勤務、托兒所・異常兒童・病弱兒童保護、産院・乳兒院等につとめるもの及び社會局・社會課等の勤務が多い。又大工場の女工監督などになるものもある。高女を出てすぐ従事するものは、大抵事務員的の仕事だが、一方の主任となつてやるのは、専門學校出である。殊に、此頃では日本女子大學に社會事業學部が設けられて、卒業生が此の方面へ漸次入込みつゝある。此外、東京女子大學にも社會學部があり、神戸女學院にも同様の科がある。男女共學としては、東洋大學・日本大學の社會科がある。



最も短い修業としては、芝の協同会でやつてゐる社会政策學院で、之は、男女中等學校卒業者が三月の夜學をやればいゝので、年三回三十名程づつ募集するが、大抵は、各社会事業従事者が入學する。さうでないものも、こゝを出てから社会事業界にはいる人が多い。待遇は、専門學校出で六七十圓の所、右三月の夜學出が三十五六圓である。

この外近頃だん／＼知られて來たのは、婦人圖書館員である。各府縣には大抵府縣立其の他の圖書館があつて、そこで主として兒童圖書閱覽の事務をとつてゐる人に高女出が多い。之は一種の社会事業といふよりも社会教育の仕事である。しかしもう一步進んだ地位となるには、圖書館學を勉強する事になつてゐる。これは、上野の帝國圖書館内にある圖書館講習所である。文部省の直轄で、中等學校出のものが一ヶ年で卒業出來る。就職者は大抵五十圓以上で、口に困るものは殆どない。殊に此頃は高等教育擴張で、各地に専門學校が出來、従つて其附屬圖書館が、上野を出た人を採用するから、要求者が多いのである。外國語がよく出來れば此の方面の圖書館員になる便宜も多いであらう。

## 6 官廳や實業方面の仕事

婦人の職業は多くは結婚前數年間に就するものを大部分とし、又其の就職の動機が、大抵經濟的方面にあるのであるが、之等の條件に適合するものは、官廳や實業方面に勤務するタイピスト・事務員・店員・製圖手等である。之等の中には、職業的修練が殆ど要らぬものがあり、よし要るにしても一年とはかゝらぬものが多いので、經濟事情の許さぬものとか、學費をためる爲にかいふ人々の爲には都合のよいものである。

### イ、タイピスト

従來は役所や會社・銀行などで用ひる手紙は、毛筆で巻紙に書いたものであるが、今は郵重なものとか、秘密なものとかに限り、一般には、タイプライターできれいに打つ事になつてゐるので、タイピストの需要もだん／＼増加し、志願者も激増して來た。よほどちひさい會社でない限り、今日では大抵タイピストを抱へておくので、全國に六千有餘の婦人タイピストがあるといふ。

タイプライターの中には邦文と英文とがある。しかし、我國では何といつても邦文の方が多く使はれる。タイピストの仕事は、手紙の原稿を判讀して、之を間違なくきれいに打つ事にある。故に、原稿の判讀力がすぐれてゐなくてはならぬ。文字をよく讀みこなし、漢字や文法の知識をもつて原稿を







## 7 其の他の婦人職業

以上のべた職業で、大部分の職業婦人に属するものはいつてゐるのであるが、尙他の重要なものごとく大略を記して見よう。其の第一は美装に関する仕事である。

美装方面の仕事は、景氣のよしあしもさはるけれども、婦人が美といふ事を追究してゐる事は、恐らく永久的だから、仕事の形はかはつても、此の方面はいつまでも有望だといへよう。

美装の第一は裁縫師である。和服・洋服兩様の二重生活で、仕立屋と洋服屋がめしをくつてゐる。和服裁縫師は仕立屋からなりあがつたものが幅をきかしてゐるが、裁縫の學校でミツシリやつた人が、裁縫を引受け、傍ら之を教へるといふ事は、どんな田舎の小都會でもやつてゐる事で、家内職業としては中々いゝ仕事である。殊に、舊來の仕立屋は和服だけに限つたものだが、頭もあり、新知識にとんだ裁縫師として、和洋兩方面をやり、手藝の腕までも之に取入るとすれば、中々面白い仕事になる。この頃では、婦人服や子供服も流行してゐるので、ミシン一臺が生活の資料を供給する例も少くない。文部省の裁縫科の檢定免狀でももつてゐる人だと、學校につとめた方が、きまゝで、時間も少いけれ

ども、子供の養育などを大切に考へると、家庭で仕事をした方がいい。しかし學校で得る俸給だけを裁縫で得て行くといふには、なか／＼丹誠が要る。

美容術も近頃だん／＼はやつて來たが、美容術師になるには、なか／＼金がかかる。はでな仕事だけに、みなりでも道具でも、小綺麗に立派なものにせねばならず、収入は何百圓というても、色々の費用にかよきつてしまふらしい。體も丈夫で、藝術的天分もなくてはならぬ。

近頃は、男子のやつてゐた職業でだん／＼女子にうつて來たものが少くないが、栄養手・製圖手・寫眞師・探偵など、きれいな仕事もあり、こはい仕事もある。之等の一々については、詳しい説明をやめておく。只、人の多く従事する仕事は型がきまつてゐるかららうけれども、大成功の機會は少い。あまり例のない仕事に、よく研究して従事すれば、努力次第で意外な成功を勝ち得るものである。職業の性質や實狀などは、簡單には説明しかねるので、各自の研究調査にまつ事にしたと思ふ。

## 九 職業生活の喜び

### 1 物質的に



やつとの事で奉職口がきまつて、見知らぬ人の中で、不馴な仕事を一月つゞけて、初めて月給袋を渡された時には、嬉しさといふよりは、何とはなしに恥しいといふ気持、こんなものを貰つていゝのかしらといった感じがするものである。震へる指先で、人知れず封筒の中のものを見詰めて、さて何を買はう、母にどれだけあげようと其の次の月給日迄の豫算會議が胸の中をさわがせる。何はともあれ、けふは父や母のすきなもの、妹のほしがるものを、歸りに丸ビルで買つて行かう——といったやうに、若き女性の初めて物質的にめぐまれた事が、驚きと喜びと羞恥とで心の中を亂すのである。かうして、たとひ何程づつでも自ら得たものを有用につかふといふ事は、職業生活の賜である。職業をもつ婦人の待遇は、曩に述べたやうに、まだ父兄から、補助して貰つてゐる程度のもも少くないけれども、それでも、他に働きに出ないとすれば、要する費用の全部を父兄に仰がねばならないのを、幾分なりと、自らの得たものを以てするのは、まことに結構な事といはねばならぬ。あけても其の得たものから、日々の小遣を節約し、身なりなども贅澤ならぬ範圍に止めて、餘つたものを貯へる事にすれば、やがては結婚費の大部分を自ら得るといふ事にもなる。

若しそれが自分の得た少い金でも家計の補助にあてようとする人々は、まことに義務といはねばならぬ。

らぬ。未婚時代に於ても、多年の父兄の勞に報ゆる爲に、なるべく父兄に物質的援助をするといふ事が、人間として最も美はしい事である。高等教育をうけた職業婦人とか、比較的収入の多い職業婦人が、或は親に送金し、或は弟妹に學費を貢ぐのは、世に澤山ある例である。

家庭をもつてからの家計補助は、職業婦人の就職上の最も大なる原因をなして居る。實際上、近來の物質的生活に於ては、夫一人の収入にのみ一家がたよるといふ事は、極めて困難になつた。夫の收入も、職業によつて可也の差別があるけれども、今日高等教育をうけた人でも、贅澤なくらしを一人の收入でやつて行くといふ事は、可也な就職年數の経過後ですら、困難な事である。で、出来る事なら、あまり大きな支障のないかぎり、主婦も何等かの職業によつて家計を補助するといふことになれば、活計もそれだけ潤澤さを加へる事になる。「争は貧から起る」ものならば、之が又家庭圓滿の一助ともなるのである。

家庭生活をやつて行く間には、色々の原因から、愛の破綻を來すやうな事がある。愛は濃厚でも夫の病難、死亡といふ事によつて、其の日の糧にも差支へる事がある。かうした際に、社會的に活動の出来る能力があれば、其の収入は危急を救ふ事になるのであるが、もし何等其の能力も經驗もないと



らば、夫の収入もなし、財産もない時は、パンを興へるものに身を捧げ、心を捧げねばならぬ。即ち職業生活よりの所得は、貞操を擁護するといふ事になるのである。

## 2 精神的に

職業婦人になる。金がとれる。之が色々婦人の生活を益する事は以上に一通りのべた所であるが、精神的には更に更に大きな獲物がある。

第一に職業生活は、家庭の單調生活——無爲不安をなくして、實地の體驗の機會を興へてくれるものである。女學校で教へる事は、直接家庭で役にたつものはさう大してあるものでない。又世の中の活動に對して直接有効なものも少い。兎に角學校時代に習ひ覺えたものを、家庭に於て實地に練習するよりも社會の活動場裡に活用させた方が効果がある。家庭は愛の世界である。自分のなす事は親が愛の眼で見てくれる。故に、知識の活用をせずとも格別問題にならない。殊に單調生活をかこつといふ事になると、自己をみがく心がうすれてしまふ。之が二三年もつとくと、可也頭が空楚になる。所が職業社會は、有價的勞働の提供をまつてゐる。有價勞働は、眞剣でなければならぬ。社會は親のやう

に己を愛の眼で見てください。仕事のしぶりが悪ければつめたい事をいはれ、つめたい處置をとられる。そこに本氣にならざるを得ない所以がある。本氣になつて仕事をする時、他の人にまけまいとする時、己の過去に學び得たものが活用されるのである。

かうして、世の中の爲に奉仕すれば、この眞剣な努力が長上によつて認められ、己の長所が次第に發揮されて來ると、自信もついて來る。喜びも湧いて來る。自信や喜びは、一層研究熱をそより、研究は遂に自己を進歩せしめるのである。故に、同時に學校を出た人でも、一方職業についた人の數年間の眞剣な生活と、他方の、たるんだ家庭内の生活とでは、そこに知識に於て技能に於て、將た他の諸經驗に於て、非常な差が出て來るのである。之れも職業生活の賜だといはねばならぬ。

次には、職業生活が勤勞の價値を知らせてくれる事である。金の有りがた味を味はせてくれる事である。實際、從來の箱入娘的な生立をした婦人は、金錢の價値がわからない。ほしいものは何でも財産や親の所得によつて購ふ事が出來たといふ經驗のみをもつてゐては、他日家庭の人となつた際に、夫が如何なる苦しみの上に此の收入を得たのかがわからない。そこに自から濫費的な風がある。之は主婦としては最も悪い缺陷である。所が、職業は有價的勞働だから、仕事の價値によつて、報酬も支



拂はれるので、何人もさう樂々と金を得る事は出来なくなつてゐる。高等女學校を出たものが事務員をやつて月卅圓頂くと口でいへば簡單だが、毎日の出勤時間に束縛されて、朝も未明に起き、芋を洗ふやうなラッシュユアワリーの電車の中にもまれ、やがて出勤すれば一定の休み時間の外はやたらに話も出来ず、自分の机をはなれる事も出来ぬといつたやうな窮屈さを忍んで、卅日勤勞の報酬が卅圓、之を使つて見ればまことにあつけない。取るは難く、使ふは易い。この「取るは難く」の體驗が、やがて主婦としては、「使ふは易からしめぬ」態度を涵養する。即ちしんじやうもちをよくする。即ち金のありがたさ、勤勞の尊さを知る事になるのである。

それから又、職業生活は實世間を知る機會を與へるものである。「世間知らず」の深窓に育つた如き女性が渴仰されたのは、女性が男子の玩弄物視された舊時代の事である。現今及び將來に於ては、女性の地位の向上と共に、女性は單なる人形ではなく、一個の人であるべきであるから、實際社會の動きの何物たるかを知らねばならぬ事勿論である。で職業活動は、他人の中の生活であるから、世の中の美しい點も醜い事實も、表面も裏面も知る事が出来て、之に對する抵抗力がつく。社會生活をやつて行くには、此の抵抗力が最も必要である。世の中には「お人のよい」ものがある。愛せられる人

がある。彼等は兎角人に利用され、悪用され、自ら得る所少くして、自ら失ふ所大なる場合が多い。つまり抵抗力がないからである。空咲きの花では世渡りは出来ぬ。雨にあひ、風にあひして、根もますますしつかりし、幹もいよ／＼太くなる。かくして大木の成長は期待されるのである。職業生活は、風のつよい、雨のひどい日の旅である。我々はこゝに貴女と共に、鍛鍊の價値を讚美したいものである。

最後にあくべきは、職業生活によつて、男性の理解、男子の仕事の理解の出来る事である。婦人の職業中には、女性のみが従事する事もないではないが、大部分は男性の中に交つて働くのが多い。そこで男子及び其職業や生活の理解が自然に出来る事は得難い經驗といはねばならぬ。女の性格や外貌が十人十色であるやうに、男の風采・性格・癖其の他も各人同一ではあり得ない。雑多な男性がさまざまの仕事に携はつて、之が色々に交錯する間に、男子の性格は可也よくわかつて来る。又其の仕事がどのやうな性質か、どのやうな苦樂があるかもわかつてくる。只自分の勤めてゐる所に限るとは、其性格や職業生活の一端は、やがて男性のすべての性格や生活の全體を推す助けとなるものである。もし之を何も知らず、結婚問題の生じた時、單なる見合をやつて、一瞥もよくなし得ずして決定する



如きに比すれば、到底同日の論でないともいひ得る。殊に家庭にはいつてから、男子の生活を理解するといふ事が、夫への満足の為にも、夫の操行を維持させる爲にも、非常に必要である。之等の點に於て、婦人の職業生活は中々精神的に種々の効果をもち來すものである。如上は物・心兩面に亘つて、個人的効果を考察したのであるが、次には、社會的利益についても考へておきたい。

### 3 社會的に

どこの國でも、男と女とが社會國家を形成してゐる。其中には老人があり、子供があり、病人。けが人。かたわ、かういふ働けない人々を除いた殘が、本當に社會的活動をして行く。國家が隆盛になるとか、産業が隆興するとかいふ事も、つまりは勞働年齢の人々による日々の奉仕の結果なのである。

所が、舊來の風習として、我國の婦人はあまり職業についてゐない。つかないのをいゝ事として居る。つきたくないと思つてゐる。世の中の仕事は男まかせでいゝと思つてゐる。とても男の人はやりきれない。婦人が男まかせでいゝと思つてゐるは、社會もやりきれない。國家もたまらない。今日、世界に於ける我國の地位があふなつかしいといふ事は貴女も承知だらうと思ふが、之を背負つてたつ

男子が幾人あるかといふと、大正十四年の調では、十五歳から六十四歳迄の人口が三千五百萬で、總人口のさつと六割。男が千人に對し女九五五・五人だから、半々と見て、男が千八百萬人だけ働けるとしても、其中には遊んで食つてゐる連中もあり、病氣のものもあり、學校にいつてゐるものもある。しかし之だけ假りに働いてゐるとしても、廿四時間、三百六十五日働き続けられるものではない。私の試算では、一日八時間、年三百日働いて、四十年間本當に働くとすると、正味の勞働年数がこんな式で表はされる。

$$\frac{\text{一日の勞働時間} \times \text{一年勞働日數} \times \text{正味勞働年數}}{24(\text{時}) \times 365(\text{日})} = \text{正味勞働年數}$$

$$\text{そこで} \quad \frac{8 \times 300 \times 40}{24 \times 365} = 10.95(\text{年})$$

大體十一年にたりないのである。七十歳まで生きても十一ヶ年きり正味働けない。貢獻する時間は人生の七分の一で、七分の六は社會の御厄介といふ事になる。しかも、内地人口六千萬の四分の一が働ける年頃の男子として、其の男子の七分の一の貢獻で、國家を背負ふのである。老・幼・傷病者・其他をも背負ふのである。故になるべく多くの人が働き、有効に活動せねばならぬ。従つて、男子をよく



働かせる爲の内助も必要だし、婦人自ら、働く必要が實際あるのである。

廣い目で見れば、男は男、女は女、各其の特長に従つて仕事の兩系統を作る事が得策だといはねばならぬ。故に、近頃では、今迄男の職業であつたものが、だん／＼女性の仕事に置きかへられる事が多くなりつゝある。其の能力に従つて女子が社會的貢獻をするならば、それだけ、社會的な仕事が出来て行くのである。役所で毎日コツ／＼やつてゐる單調な地味な事務も、考へて見れば社會的に貢獻する事になつてゐるのである。現今の國家の狀勢を察し、且つ之が國民中の勞働可能者に對する責務を思ふ時、婦人は到底職業につかぬ寄生生活の禮讓者たるを得ないではあるまいか。

かくして、婦人が職業に従事して收入を得、家計を補助する事になれば、個々の家の經濟的生活が順調になる。社會から見れば、つまり個々の家庭の圓滿が、總體としての社會的圓滿、平和となるのであるから、婦人の職業生活は、一面其の勞働が社會的効果をもつのみならず、他面物的利己性による一家の支持が又社會幸福の基調の一助をなすものである。

## 一〇 職業生活の懺悔

### 一〇 職業婦人の喪身生活

すつと前に言つた事だが、我國で現在職業婦人になつてゐる人々は、大抵結婚する前の數年間だけ働くものが多いのである。世の中を何も知らなかつた若い婦人が、女學校を出ると、會社なり役所なりに務めて、男性の中で仕事をするといふ事に、色々ためになる點がある事は、此前の章で述べた事だつた。いつたい物事には、何でも長短二面のすがたがあるもので、一方の長所は裏から見れば短所になつてゐる。「光つ上げれば陰も亦深い」ものだから、長所があればあるだけに、短所弊害も免れない。若い中は、兎角物事のブライトサイドだけが見えて、ダークサイドが見えないし、見ようとしな。光明面のみにあくがれると、暗黒面が見えず、むしろ暗黒面までも光明面と見てしまひ勝である。私はこゝで、職業生活のダークサイドを覗いて見たい。

イ、虚榮と浪費

結婚前の數年を、職業生活によつて自主獨立的生活をするのは、勤勞の價値の認識の點から必要である事は勿論であるが、現在の職業婦人には、境遇上全然獨立せねばならぬ程の必要のないものがあ



け、獨立の必要のみか、家計を補助すべきものもある。収入の點からいへば、高等教育をうけたものには大抵獨立が可能なだけの収入がある。兎に角親から小遣を貰つてゐるに比して、収入の方が多い場合が普通と見てよいと思ふ。一體金といふものには魔力があつて、使ひ手によつては金が善良な召使にもなるが、使ひ手が悪いと、金が悪い主人となつて、持つてゐる人を使ふやうになる。英の諺に、

Money is a good servant, but a bad master.

とある通である。で職業婦人の生活は、世の中での生活である。多くは都會の生活である。都會の婦人達の外出の扮装は近頃めつきりはでやかになつた。否、あでやかになつた。若い婦人が之に追隨しようとし、模倣しようとするのは自然である。殊にそれが、異性との中で仕事を身となれば、見つともないスタイルで居たくない。茲迄は必要な考だが、更に進んで、「女の身だしなみ」を口實にして「見出しな身」になり、異性に見出されるやうにと、はでやか、あでやかな競争をする。かうなると、収入は大部分扮装具の費用に充てられてしまふ。身なりの爲に、金を使ふのでなくて金に使はれ、塵埃に流れ、濫費に陥るのである。そして着物や帯や髪や其外の持物に、新型新流行を追ふやうになると、今度は又其の身につけた流行型が、人に見て貰へとそゝのかす事になつて、なるべく人の多く出

るやうな場所に足を運び度くなる。務めのかへりに道草を食べたくなり、道草をたべたくなれば、うまい料理もたべたくなる。日曜休日にも家にちつとしては居られぬ。何かと職務上の用事にかこつけては外出をする。かうなると、収入と支出と比較して、支出の方が勝を占める。一旦さうした生活になると、財政緊縮は出来なくなる。贅澤を質素に轉換するのは極めて苦痛である。何とかして収入をこの贅澤な支出に適應させようとするが、身なりに浮身をやつすやうな人は、仕事はお留守になり勝だから、昇給も望まれない。そこで何とか不自然な方法で之を生み出さうとして、かへつて子供を生み出すやうな事になる。

#### ロ、戀愛の遊戯観

異性ととの生活だから、箱入娘よりも異性に對する鑑識眼がつくといふ長所はあるけれども、愛の欲望には、早期特殊化性 (early specialization of love instinct) と云ふものがあつて、批評眼や鑑識眼のつかぬ中に、第一に接觸した異性と、早くも特殊化する性質をもつてゐるものである。故に、所謂「出たて」の時代にこの問題でしくじりが出来る。併し固より理性もなき早い特殊化だから、永久に持續出来るものでない。會ふはわかれのはじめで、やがては、之とはなれてしまふ。一度禁斷の木の實



の旨さを味はつた女性は、男性以上の大膽さを以て、遂に次から次へと遊戯的な戀愛に墮し、事業を是れ事とするやうになる。そこに、前述の収入からの浪費、「見出しな身」の虚榮が手傳ひ、収入より多い支出が手傳つて、職業生活のかたはら、不道德な内職に享樂しようとするやうになる。

男性を澤山使ふ所へ女性を雇入れるといふ事は、いゝ意味では、女性特有の能力を發揮させ、又男性の能率をあげさせるといふ事もあるが、遠くて近い兩性間の仲の問題を、上役の者は随分氣遣ふものである。人の大事な娘を預つて、間違でも出来てはとの氣づかひはどんな役所にも會社にもある。だから嚴重な制裁や警戒もある。が、心火は單なる制裁や警戒をやきつくす強さがある。どうなつてもかまふものかといふ深刻さが瞬間的に己を支配する。やはり、それで間違が起る。起れば首になる。食へなくなる。一旦傷がつくと、次から次へと、所謂「戀愛病患者」になつて、細菌の撒布をするやうになるのである。

殊にちか頃は、舊來の貞操觀念が大分動搖し、戀愛至上主義といふやうな事を學者が理論的に述べたり、之を實行したりするので、早香込とはきちがへと、口實とによつて、甚だしくかゝる風潮を助長し、兎角新聞種を醸成しがちである。かゝつた中に生活して、異性の多數から、好配偶を見出す眼

識をやしなふといふ事には、相當強い理性と意志と努力とが必要である。

#### ハ、女らしさの喪失

女のきやうだいはかりの間に一人生れた男の子が女性的な遊びにふけり勝のやうに、男の子の間に女の子が共に遊ぶと、男らしい遊戯を好むやうに、男子の間に働く女性はだん／＼と男性化してくる。女らしさが失はれる。之を女性の男性化といひ、かゝる婦人を中性的婦人といふ。

男性の中で働いてゐると、誘惑もある。彌次もある。之に對して、いつも風に柳と受けながしてゐる貞淑な人ばかりはない。貞淑な人ほど却つて男性から目をつけられるものである。婦人の性格も十人十色だから、中々男にまけてゐない者もある。男子の仕事ぶりや生活ぶりを日常見てゐると、長所がわかると同時に弱點がわかり、男だつて大したものではないといつたやうな考もうかんで、三度の彌次には一度の皮肉も云つて見たくなる。風に柳も、吹かれる度毎に枝がしつかりしてくる。しまひには椗の木のやうにしやちこばつて来る。男つくさいとも思はぬやうになる。

殊に幾年か務めてゐる間には、仕事もわかり責任ある地位にも昇れるので、だん／＼仕事に自信がつき、他に對する批判の眼も冴えて来るから、人間がしつかりして来ると共に、どこか女らしい弱々



しき、脆弱な感情が失はれて来る。だから職業婦人は女らしくない。氣位が高いといはれるのである。

一體、男性のかよわい女性に對する方が愛着をもつといふ事は、女性史上の傳統であつて、男性が社會的にも家族的にも優越な地位を得てから、だん／＼に馴致された風である。「くぐみ女にそり男」は兩性の地位をよく物語つてゐる。所が近頃、世界を通じて婦人の經濟的獨立が叫ばれ、經濟的獨立の能力は男性横暴を制する一つの武器だとされるやうになつて、事實上婦人が男子の間に活動すれば、勢ひ、舊來の意味に於ける女らしさがある程度迄喪失するのはやむを得ない事である。しかし、横暴に對して獨立といつたやうな離反的武器を常にひらめかす事は、結局女性自身の生活の反逆となる事が少くない。やはり「柔よく剛を制する」傳統の力の方が、少くも現在の女性には幸福な武器ではあるまいか。

## 二、結婚難

妙な慣習が世の中にある。人間は若い時よりもだん／＼年をとつて世故にたけ、頭もすゝんだ方がねうちがある筈なのだから、十八の婦人よりも卅歳の婦人の方が、價値がありさうなものである。けれども、結婚の年齢については、どうもさういふかぬ。「年頃」といふ一定の年を越すと結婚の機会も遠

くなり、條件も悪くなる。そして職業婦人にはいつか年をとつてしまつて、結婚難をかこつものが多い。家庭で廿歳位までゐて世の中をあまり知らない人がだん／＼嫁ぐのに、高等教育をうけ、専門の知識を持ち、天晴賢夫人としての能力をもつ人が、オールドミスの敬稱を賜はつて、さびしくいらだつてゐるのはなぜであらうか。

従來職業界に活動する婦人は、家計に於て、上流に屬するものはまづないといつていい。そこで他へ嫁ぐには相當な費用——否其家計から見ても巨額な費用が要る。職業能力があり、収入もあるのだから、幾らづつでも之を貯へて結婚費にしようと思へば、年齢の標準がどうしてもおかれて来る。殊に今日高等教育をうけるには、女學校卒業後、三年はかゝる。廿四五歳で卒業するものもある。それから「三年働いてゐると最早」さうしては居られぬ時期になる。けれども商品のやうに賣物として店頭にかざる事も出来ない。機會をまたねばならぬ。所が、職業生活では、どうもこの機會も遠くなり、遠くなくても、まとも難いものである。

といふのは、學校を出て家庭に居る場合に比して眼にとまらぬといふ點のあるのが一つである。學校を出た、さあこれから嫁ぐのだといふだけになれば、親もその方に頭がむく。當人も恥しながら心



がそつちへそつと向いて来る。近所や親戚知人も、訪れる度毎に眼にふれる。どこかいゝ所をと心かける人も多い事になる。けれども家をよそにして實社會に活動してゐると、活動してゐる間は、両親も當人も職業の方に心を奪はれる。外の人にも家で眼にふれる事がどうしてもより少い。殊に之が郷家をはなれて仕事をしてゐる場合は一層である。加ふるに、幾年かの修業によつて、職業上の興味もわき、自信もついて来ると、心のさびしさは職業生活で緩和されて、孤獨の悲哀がうすらいで来る。さうして又職業生活中に得た男性観は、選擇條件を多様に複雑にするから、たとひ話があつても、中々合致點が見出せないのである。「あの男、この男とて婆になり」遂にオールドミス圈内にはいつて、幸運をミスしてしまふのである。

以上は主観的な方面について、考へたのであるが、ハタから見ても職業婦人には、一種のいや味が伴つてゐる。「結婚について職業婦人の嫌はれる理由。」を四谷の職業婦人相談所で調査した所によると、次のやうな事があつてあつた。

- 一、だらしがなくて且禮儀を知らぬ。
- 二、何となく情味に乏しく、凡ての點に於て理屈っぽい。

- 三、日本固有の女らしさがない。
- 四、何かといへば直ぐ自分から別れ話をもち出す。
- 五、割合に贅澤で買物が好きだ。

- 六、經濟觀念に乏しく、金を使ふ事を何とも思はぬ。
- 七、夫や姑に仕へる氣持が稀薄。
- 八、出歩く事が好きで、出れば長く、時間が来ても中々歸つて来ぬ。
- 九、羞恥心に乏しい。

- 一〇、掃除や勝手仕事が好きだ。
- 一一、來客があれば夫をさし置いて主人顔をして喋ることが好き。
- 一二、男を何とも思つてゐない。

かう數へられると、職業婦人を妻にするものは一人もなくなるであらう。併し、この調査が、どういふ方法で行はれたか、又どの位の數について行はれたかが不明であるが、其の陥りさうな弊を可也よくあげてゐるのである。只注意すべきは、かゝる弊害が必然的に免れ得ぬものといふわけではない事である。又職業婦人のすべてが、この十二ヶ條の缺點を全部もつてゐる譯でもないし、かういふ傾向の一二をとかく有しがちであるといふ事である。とにかく、出ようとする婦人にとっては考へなければならぬ問題だと思ふ。

## 2 職業婦人の家庭生活

### イ、夫婦愛のひび

男子の職業生活と家庭生活は、一方が仕事であり、一方が慰安休息であるが、主婦のそれは兩方共



に仕事であつて、其の目的方法が相反する場合を普通とするから、主婦自身として兩立がむづかしいばかりでなく、主人の方も満足な慰安休養が出来ないので、どうも二人の愛にひびの入り易いものである。

昔から男が女を愛する本當の心持は、何といつても所有物的独占的であつて、夫に對して、あらゆる満足をさしける事が要求される。そこに絶対の服従もあり、全身の犠牲も含まれてゐる。けれども主婦の職業生活は、生活そのものからも、主婦の職業界で働く爲に得た一種のタイプからも、主人の要求の全部を満足させる事が困難になるのである。

職業婦人が兎角陥り易い性格上の缺陷は、前述の通りであり、又十二ヶ條にあげた所にも明かであるが、多くの男性に對して批判の眼が出来てゐるので、夫を絶対のものと思へない事がある。絶対に服従して、服従の苦痛を知らず、むしろ服従の快感を感じるやうな境地には、(種々の要素の複合によるものではあるが)妻が夫を宗教の宗祖に對する信者の如き、信頼が大なる要素となつてゐる。然るに人間の表裏、社會のうら表を知つた彼女、この夫以外に、才幹・學力・性格に於て、より秀でた人と日常接觸する場合、どうしても、夫が宗祖にも神にもなり難くなる。

主人の方にも同じやうなムラ氣がある。よしそんなムラ氣がなくても、妻を最愛のものとし、之を完全に独占しようとする時に、職業生活が得てこの独占慾を裏切るからムシヤクシヤする。

「結婚して七ヶ月目でしたか、秋季運動會の翌日、土曜日の五時から、職員の慰勞宴會がありました、私は其の日の午後早く歸り、お洗濯や夕飯の用意をしてすつかり用事を済ませると、夫が歸られたので、今夕の慰勞會に出席したいと申しますと——男の中へ出てお酒呑のお酌などしたいのか、馬鹿ッ——と叱られました。——おつきあひですから勤めてゐる間は仕方がありませんでせう。——と申しますと、——職業以外の事には家庭を持つてゐる者は出まいと思へば出なくとも濟む筈だ。いつでもそんな所へ出たがるのは、お前は一體娼婦型の女だからだ——と申すのです。言葉もあらうに娼婦型とは何といふ侮辱でせう。腹が立つて——娼婦型の女と家庭を持たれるのは、貴方も不愉快でせう。理想に適はないでせうから離婚して下さい。——と迫つた事さへありました。」

こんな事をいひたい職業婦人は可也であるであらう。獨占が出来ないといふ潜在的な心が、娼婦型——といはせたくなる。又このおくさんの云つたことは「何かといへば直ぐ自分から別れ話をもち出す」といふ前記十二ヶ條の中の第四條が之を指摘してゐる。



主婦が職業をもつ場合には、大抵共稼ぎが多いので、夫妻の職業が同一か否か、又勤務の時間や形式の異同によつて、日々の入り具合が違つて来る。兩性の生活の理想は、同時同所の生活である。一戸の家庭をもつても、即ち同所に同棲しても、同時の生活でない場合がある。夫は新聞記者で夕方出勤して夜一時にかへる。妻は教員で、朝七時に家を出て夫の出勤した後に帰宅するといふやうな事になると、夫妻しめやかに語る時は殆どない。又同じ晝間の勤めで、時間も同じ位でも、勤務の場所が違へば、歸りの時間は一致しない。明けても暮れても事業にのみ頭を使つてゐる男子には、家庭は唯一の慰安所である。家庭は其の日の勞を忘れしめ、翌日の活動の基をなすべきである。そして之は主婦の雙肩にかゝつてゐる。所が、帰宅しても細君がまだ勤めからかへらぬ。家の中はガラアンとしてゐる。自分の空腹も知らずに、猫迄が空腹を訴へて足にこすりつく。いま／＼しいから足の先まで蹴飛ばして舌打をする。湯もわいてない。火もない。寒い。火をおこすのも癪だ。着物をきかへてゴロリ横になつて、ムシヤクシヤしてゐると、やがて玄関があく。つかれたやうな顔をした細君が見えるや否や忽ち電光一閃、大雷一閃、

「今でこそ女中が居りますが、私も一月前まではこの苦勞をしてきたのです。夕方、私は社が退ける

と、大急ぎでそこを飛び出す。待てどもうたゞ電車は来ない。たまに來ても満員で、少々厚かましい位では逆も乗れない。漫畫にでもなりさうな場合宜しくあつてやつと車中の人となり、一時間程の革にぶら下つて終點に着く。車中で考へておいたお惣菜の材料をそこで買集めて、淋しい道へ來ると、コンバスの開く限りといふ足取で家へ歸る。それで夫がまだ帰宅してない時ならしめたものですが、折悪しく、とつくの昔に着物でも着かへてゐようものなら、必ず苦しい顔で、飯！飯！といふに定つてゐます。洗ひ立ての足袋の汚れるのは惜しいけれど、口惜しまざれにさあ／＼とやけに水を使つて、折角考へて置いた御馳走も、さういふ時には半分で間に合はせねばなりません。」

職業婦人は、會議などやつても、勤務時間以上にのびる仕事をする時でも、家に早く歸らうとばかり考へるやうである。之が上役には氣にくはぬ事にもなるが、職業をもつ主婦としては、帰宅後にまだ重大な仕事があつて、うっかりすると、雷が落ちるのだから、おち／＼して居られぬわけである。同情にたへない。

「こんな時には樂しかるべき晚餐も、お互に黙りこくつてすませます。若し味のつけ方が悪かつたり、氣に入らぬ品物でもあつたりすると、お漬物ばかりでかき込む時はまだしも、餘つ程機嫌を害ねた



時は「さしみを取つて来い。」「何々と何々と何々をとれ。」そこでこちらが盗面でも作れば、箸をビチャンと置いて外に食べに出掛ける。かういふ時は得て問題が多いものです。シャツのボタンが付いてないとか、ネクタイが皺だらけだつたとかで「歸る迄に何も彼も直しておいて貰はう。ほら、鏡臺も茶箆筒も埃で眞白だ。人が住んでおないやうだね。何だ下駄は泥だらけで履かれやしない。雑巾々々！」と家中を引くりかへすやうな捨ぜりふです。その時むら／＼と反抗心を起さうものなら、翌朝まで祟つて朝の時間が遅れます。どんなに口惜しくとも、職業が可愛ければ、夫も可愛がらなければなりません。」

全く同情に堪へない。夫が妻に對して同情に堪へなければ、問題は起らないのだが、夫の考のおき所が悪いと、箸をビチャンとなげ出したくなつたり、落雷したりするのである。元々經濟的必要からこの無理を妻にさせ、妻もその氣になつてつとめて居り、そして經濟的必要を充たさうとすれば、職業に忠實でなければならぬのだから、家庭の仕事に無理の出来る事はわかりきつてゐる。この無理をなくす事に努力し、お互に家庭生活の我儘をへらし、簡易生活をすると共に、夫も妻の仕事の出来る所を手傳ふ位の考があれば、大抵問題は無い筈である。然るに夫の妻に對する要求は、やはり

舊來の所有物的獨占的な状態であり、要求が多すぎるから、互に我慢がしきれなくなるのである。

つまり、夫婦が職業をもつ事になると、職業婦人としての性格の上からと、夫妻の職業生活上の差異からと、兩者の家庭生活に對する理解の不足からとによつて、どうも夫婦の愛にひびが入り易いのである。そこでともすれば別れ話もちあがる。職業能力をもつた婦人には、離婚率が高いだらうことが窺ひ知られる。次にはこの點について少しくのべて見たい。

#### ロ、職業能力と離婚

人間には大きなをして根強い欲望が二つある。その一つは食欲であり、他の一つは愛慾である。前者は生きる慾望として必要であり、後者は、自己の延長としての生殖をとげる爲に必要である。人間の努力をつきつめて見れば、此二大慾望の爲になされるといつてもよい位である。婦人の經濟的獨立といふのは、結局この二大慾望中の食欲を満足せしめる能力の表現にすぎない。所が職業能力があるから、いつでも經濟的獨立が出来るのだといふ事のおかげで、一方の愛慾が就寢を來す場合も少くない。むしろ愛慾の破綻の來た時に、貞操を維持する爲に經濟的獨立能力としての職業能力が必要なだけども、この能力が反作用をなして、愛慾の破綻となるのである。



前述の通り、家庭をもつてからの主婦の職業生活は、色々の點から見てもひゞの入り易いものであるが、妻の頭に「自分一人位優に食べて行ける腕をもつてゐる。」といふ觀念がある爲に、凡べてを捧げつくせぬ。従順が卑屈に考へられ、いさゝかの不滿にも「別れませう」といひたくなる。

職業婦人として男子の中に立ち交つて働いてゐる中に、いつとはなしに男性の弱點がわかり、男でも大したものではないといふ感じが起る。此の考が夫の方へも輸入されて十分な尊敬が拂へない。殊に日夜接してゐる夫の缺點は、月日のたつに従つて解つて来る。アンノン(unknow)の間だけがアンノン(安穩)なのである。「目についた女房やがて鼻につき」は夫からの申分だが、妻からも鼻につき事があり勝である。又自覺なしに多くの男性を職業生活の間に知る事になると、夫ほどくらい方面の生活がわからず、美點を見出して、その人がする事なす事を皆讚美する一方、夫のいふ事する事が皆氣にくはなくなるやうなこともある。

かういふ時には、忠實でなくなり、従順でなくなるから、曇りが出来る。曇は一天をかき亂して大雷雨になる。夫婦間の夕立は、夏の夕立のやうにあとでスッキリした涼しい風がふかぬ。あとの生活が苦痛になる。こんなに苦しんでまで同様をつゞけなくても、獨立が出来るのだから、新しい道を開

けばいゝではないかといふ感じが、いま／＼しいくやしいのたけり狂ふ發作的感情に手傳つて、遂にこの「二人で食へる」といふ小さい強みを楯に、愛の破綻を來すのである。之は、現在職業をもつ主婦でもさうであり、現在はやめてゐても、元やつゝわたしといふ主婦に於ても然りである。職業婦人としての獨身時代、可也放逸自由な生活をした追憶も、家庭生活の單調に對する不平をたきつける事が往々ある。職業能力はかうして誤用される、一種の魔力をもつてゐるともいへると思ふ。

だが考へて見れば淺はかな事である。二大慾望の一つたる「食へる事」はなるほど職業生活によつて可能であるけれども、愛慾をはなれた寂しさは、其の時から再々とその全身を襲ふのである。寂しさは獨身の中なら職業によつてもかき消す事が或る程度迄は出來ようけれども、一度び家庭をもつた女性には中々困難な事である。そして、一度び他の人妻となつた履歴は、彼女の價値をとつてもひどく下げてしまふ。處女性を愛する者の多い世の中では、彼女は、愛の破産者である。富の破産、愛の破産、何れ一つとしてよいものはない。何人も幸福の源泉が結局この二大慾望の充足にある事を考へれば、決して己が能力の誤用は出來ないわけなのだ。

#### ハ、育兒の悩み



家庭をもつ職業婦人にとつて一番痛切な悩みは、恐らく育児の問題であらう。如何に夫妻の職業生活から来る弊害がないにしても、又如何に二人の間が圓滿で悩みがないとしても、育児の事だけではどうする事も出来ない。否夫妻の愛が濃厚であればあるほど、其の愛の結晶たる我子の養育の十分に出来ない事が痛切になるのである。前にのべた夫妻間の愛の間隙の出来る事は、多くは職業生活に對する理解同情のない我儘からで、やり方によつては、弊害が除却し得られるのだけれども、「まさされる實子にしかめやも」といはれる實を、等閑にせざるを得ない母たる職業婦人には、職業生活と母性愛との兩立せぬ悩みに泣くものが少くないのである。

乍併、之も職業の状態によつてさまざまであつて、家内の職業と、家庭外のものとは、育児上非常な差異がある。どうしても愛見の教育の爲には、常に母が之を手にしてゐるといふ事が理想であるから、家庭で出来る仕事ならばこの點に大いに長所をもつてゐる。けれども家庭内の仕事は、家庭外のそれに比して種類も多くないし、収入も概して少い。天才肌の人なら文筆・畫筆にしたしむ事も出来るが、之とて其創作に當つてゐる時には、子供を働におく事は出来ないものである。曲科醫・和洋裁縫・手藝の如きは皆家庭で出来る事なので、勞する時間の多い割に収入の少いのは、子供の世話のあ

ひま仕事だからやむを得ない。

家庭外の仕事でも、勤務の一定な仕事があり不定なのがある。教員や事務員などは一定であり、産婆の如きは極めて不定である。勤め場所についても、家の近い遠いが、育児の上に至大な關係をもつ。近い所ならば、勤務中の休み時間を計つて、子守をよび、授乳する事も出来るが、かういふ事は都會などでは住宅の問題から誰でも望めるといふわけにいかぬ。殊に郊外から一時間以上も電車に乗つて通ふ者の方が多いのだから、まづ家を出て歸宅する迄は、愛見からはなれねばならぬ事になる。

子供の數が多いと少いによつても苦痛の度は違ふ。元々職業をもつ母親は、家計潤澤なる事が少いから、子供の世話をみす／＼等閑に附しつゝ出て働くのであるが、手のかゝる子供が多いほど、働く事が苦痛であり、働かない事が苦痛である。即ち出て働けば子供の方がお留守になり、出て働かなければ、懐の方がお留守になるからである。同じく子供が多なくても、兄弟の間の年の差が近いと遠いによつてえらく違ふ。間が四五歳づつも隔たつてゐれば、三四人の子持なら、乳兒の世話は、少し位は總領がするものである。しかし何れにせよ無理のあるのは免れない。

そこで、子供を如何にして世話をさせてゐるかといふと、祖母の手に委せてゐるのがあり、夫妻何



れかの妹や姪に托してゐるのがある。之等は肉親だから何かと具合がよからう。けれども、だれでもかうした肉縁のものが得られるとはかぎらないから、乳母をおくとか、女中や子守にまかせる事になる。そして、與へるものは、生まれたては、朝夕の母乳に、晝は牛乳が普通である。しかも職業婦人には、過勞や職業から來る疾患の爲、母乳の不十分な、又は全く出ないやうな人があるから、牛乳一方で育てるものも少くない。

かうして、生みの親をはなれて、祖母や妹・姪・乳母・下女等に、大切な愛兒が托されるといふ事、乳兒の發育度によつて、自然に調節される所の、母乳をはなれて、腐敗し易い牛乳で育ぐまるといふ幼兒の生理的・心理的な缺陷は、どうしても起らざるを得ないのである。

兩親の健全に加へて、良い空氣の場所で、食衣住のすべてに注意を拂ひ、手をかけ心をかけてさへも、子供の病氣や死といふものから免れる保證の出來ない位であるのに、働かねばならぬ人々にとつては、食衣住の育兒上に必要な條件も充たし兼ね、人まかせで、食物などの注意も不足になるから、どうしても子供が病氣に罹り易い。

「坊やが二つになつた十二月のこと、少し胃が悪いのか、粘液便を出して、朝お乳をのましたら吐い

てしまひ、何となくむづかるやうでしたが、乳母によく注意して、學校へ出て來ました。教育に身を捧げてゐながら、心が散るやうではよくないのですが、坊やの病氣が氣になつて、授業は身につかず、案じてゐますと、お晝前、宅の近所から電話がかゝつて、子供の様子がへんだから直ぐ歸れといふ事でした。ハツと胸をつかれ、宙を飛ぶやうにして歸つて走りよつて見ますと、坊やはグンナリとなつてゐましたが、間もなく痙攣を起して大層苦しうなのです。

醫者の診察によりますと、長い事胃が悪くてお乳や食べたものが胃の中で腐敗し、その毒素の爲に痙攣を起した、輕くない病氣だから用心せねばならぬといふ事なのです。何でも乳母まかせですもの、泣けばお乳をやり、菓子でもたべさせてゐたものらしいのです……。」

人の生んだ子は我子程の愛がない事に無理はない。生んだ事のない下女や子守は、泣けばだます爲に食べさせる。過食・消化不良が、母の不在の爲に手遅れとなり、病氣になつても、之を報じて母が來る道に向手おくれになる。みすく生きるものをも殺してしまふやうな事になる。骨身を削られる程の苦しみが其所にある。私の知つてゐる範圍でも、共稼で子供をなくした人が可也澤山ある。中には九人の子供をもつて、皆消化不良などで死に、今二人きりになつてゐるといふ共稼の小學校長がある。



「共稼では子供は持てません。」と痛烈な涙をながしてさう云つてゐた。

こんな例ばかりではとてもたまらないが、よし體は丈夫に育つても、教育上に缺陷を生じ易いのが困る問題である。母親は、子供にとつては一番はじめの神であり、師であり、裁判長であるのに、不在の間は、その目下なる女中や子守まかせといふ事になると、子供は、從順になり得ない。兩親のいる間は從順そのもののやうでも、出勤すると、忽ち暴君に變化するといふのがよくある。之は兩親の眼には決して悪い所が見えない。で女中ばかりがその暴君振を知つてゐても、之を奥様にあからさまにも告げ難いので、耐へながら子供を二重人格者たらしめる。表裏のある子供が出来てしまふ。まして多くの下女や乳母などは、教育の低い、教育眼のないものが多いから、あふないものである。婆さんの手で育てるにしても、「婆育ちは三百文安い」と昔から相場がきまり、妹や姪にしても、産兒の經驗がなれば十分にはいかぬ。結局理想的には子供が育てられぬ事になる。人の子を教へて善良ならしめる教育家の、我子を不良兒にする事が世に少くないのも、かうした原因が大いに與つてゐると思ふ。實に此問題は、單に共稼の家庭だけに止まる事ではなく、婦人の職業と其の爲の教育熱が盛になりつつある當今に於て、一の社會問題として、何とか改善法を考へねばならぬ大きな問題なのである。

### 3 職業と病

はじめに、職業の性質として分擔性・繼續性について述べた通り、同一の分擔的工作を繼續的にやつてゐるといふ事は、其の熟練によつて能率を増進せしめる長所はあるけれども、其の分擔の部門は、日々、同一の物を扱ひ、同一の身體的狀態を持續する事になるから、どうしても職業的疾患を起し易いのである。

今日最も多數の婦人の従事してゐる職業は家庭外のものであるが、其身體的使用狀況から見ると、立つてやる仕事、腰を掛ける仕事、すわるもの、あるくものなどがある。婦人の足腰の冷えるといふ事が婦人病の誘因となる場合が少くないので、教師・百貨店の賣子の如きは婦人病患者が多い。女教師には可也多くの石女がある。之は立業から來る腰部の狭窄、充血による婦人病が原因である。又東京の某百貨店の女店員六百名の健康診断によると、その半數の三百名は脚氣、八割の四百八十名が婦人病にかゝつてゐたといふ。月經の不順が元で、色々の婦人病が醸され、不妊症に陥るやうになると、家庭生活はどうもうまいかない。夫婦間の「かすがひ」といはれる子を生む事が不可能なのは、人間



として、殊に女性として、不満の上もない事である。

坐業のものも婦人病が少くない。ミシン裁縫業者が早産をする。之はミシンのペダルが硬であるから足がひえる。腰掛で腰もひえる。煖房装置もない部屋で、一生懸命に仕事をする間に、かうした疾患が生ずるのである。

又タイプストは、タイプライターの活字を打つ細い手先の仕事で、可也頭もつかふのであるが、近視眼者が多い。くぐみ仕事な爲に、又過勞な爲に呼吸器病におかされ、神経衰弱にかゝるものも少くない。

以上は、婦人職業の一二についての調査にすぎないが、近頃の婦人職業は甚だ種類が多いので各職業性に應じた疾患もある事であらう。婦人労働者に對しては、勞働問題の勃興以來、夜業禁止とか、出産前後、待遇されつゝ休養の出来るやうになつてゐるけれども、より高級である所の職業婦人については、教員の外にはかゝる制度が出来てゐない。否むしろ一般の職業病すらも専門に研究する醫學者が殆どない状態だから、職業特有の病氣の有料治療さへも出来ないのである。

一體、職業といふものは、分擔部門が狭くなるほど熟練の効果のあがるものであるが、之が又短所

となつて、其の職を離れると、他に融通がきかなくなる。故に職業婦人が職業病にかゝつた場合、其れをつゞければ命があふない。さりとて之を轉業しようにも融通がきかぬ。つゞけんか、其の職に殉ぜねばならぬ。去らんか、其の糧に差支へねばならぬといふチレンマにかゝる事がある。この意味に於て、例へば學校の裁縫教師の如く、つゞしのきく仕事の方が、多くの便宜があるのである。

## 一一 職業生活と修養

折角職業界に出て大いに働かうとした女性諸君は、前章の職業生活の弊害を知つて、ためらひつゝあるかもしれぬ。殊に効果と弊害の両面を考へて、迷つて居られるものもあらうと思ふ。何事にも長短両面があり、効果のある所多少の弊害も亦免れぬものである。只、要する所は、効果を出來る限り大にすると共に、弊害を出來るだけ除去する事が必要である。従つて、其所に種々考察を要する事が少くない。本章では諸君と共に主として此方面を考へて、職業生活に喜んで入り込めるやうな方法を樹立しようではないか。

どんな事をするにしても、其の準備が要る。何等の用意なしに物事がスラ／＼と出來るものではない。



い。殊に職業生活は諸君の今までの生活に比して可也複雑なもの、刺激の強いもの、影響の大きいものであるから、之を選ぶに方つて周到な用意が肝要である。即ち第一に選擇原理の考察を要する。次には、職業生活の倫理とでもいふべきもので、實地職業に入込んでから、如何なる心をもつて之に當つたらよいかといふ事である。職業婦人としての成功も失敗も、結局この考の如何に存する事が多いのである。

最後に、職業生活の利害兩面に至つては、全然影響されぬといふわけにいかないのだから、如何にすれば効果を多くし、如何にせば弊害を少くする事が出来るかを、考へておくならば、職業生活はつまるところ、非常に有意義のものとなるであらう。

## 1 職業の選び方

婦人の職業は、現在の所まださう範圍が廣くないけれども、だんく種類のおえて行きつゝある時代だから、新しい職業につかうとするには、色々あての狂ふ事もあるから、餘程前途を見越さねばならない。で一般に考ふべきことは、自分の性格に適した仕事に従ふべしといふ事である。適材適所と

いふ事である。初めにも述べたやうに、職業には、各職業性といふものがある。そして、各個人にも、個性といふものがある。職業によつては、根氣を最も必要とする製圖手の如きがある。注意を八方にくばる必要のある小學教師の如きがある。獨創的な能力を最も大切とする藝術の方面がある。

各個の婦人の性格にも、一事に熱中するものがあり、根氣の悪いサワ／＼したものがあり、話の上手な人下手な人、文章のうまいものなど千人十色である。若し、何も考へずに、根氣のない人が、根氣の最も必要な職業に従事した所で決して成功するものでない。昔に成功しないのみか、苦しくてたまらぬわけである。所が、己の性に合つた仕事であると、やつてゐる事が愉快になる。それは他人の中で、色々な束縛の中で働くのだから、家でまゝな遊び事をするやうなわけにはいかないけれども、する仕事に己の個性の出て来る歡びは、適材適所でなくては十分に得られないのである。外の條件がどうであつても、適材が適所といふ事になれば、其職業生活は恵まれたものといはねばならぬ。

乍併、職業の中には、ある資格なしには出来ないものがある。一定の修學を必要とするとか、一定の試験をパスした免狀の所持者にのみ許される仕事がある。高等職業教育を受ける必要が、この點から生ずるものが可也多い。之は前に職業の種々相でもお話してあるから大體御承知と思ふ。



資格を得るといふ事には修學がつきものであり、従つて、資力がつきものである。今日上級の學校に入るものは、可也の學資を要する。其資力が家にあるか否かが、自己の方針決定に至大な關係のある事はいふ迄もない。男子ならば苦學も出來ぬ事はない。この事は次篇で述べるが、女子も絶対に不可能とはいへないけれども、女性は男性に比してより困難な所もあるので、資力の都合では、より低い資格で甘んぜねばならぬ事もある。そして又女子は、今日の狀態として、資格の高下が男子に比してさほど生涯の運命に關係しない。

自分に適した職業に向はんとし、且之に必要な學資があるにしても、境遇として之に向ふ事の出來ぬ場合がある。女優を志願しても、家が無人の爲に出られぬものもあり、高等な語學の學者として惠まれたものでも、家の境遇として、經濟的にも到底不可能といふ場合もある。どうしても境遇が許さぬといふ時に、無理な事をすれば、一時其無理が通つて道理が引込むやうでも、いつかその無理の爲に、學業や職業を中絶させねばならぬやうな事も出來て來る。

かゝる一身上の能力事情などの外に尙大切な事は、向ふべき職業事情の調査である。此の調査によつて、職業上の狀態・待遇・缺陷・長所・永續性の有無、其の職業が土地の異同によつて、存在するや否

や等がわかり、自分の一身上の條件とよく合致すれば、これはよき選擇をなしたものとといへるであらう。兎角、事の表面のみを見たり、又は經濟的必要に迫られて、考へなしに職業につくときには、個性と職業と反してゐたり、境遇や資力に缺陷を生じたりして、思ふやうにいかぬものであるから、まづ出發にあつて十分考究調査の必要があるのである。

ある職業にどんな能力を必要とするか、どんな仕事か、どんな待遇かといふやうな事は、前の「婦人職業の種々相」で大體説明してある。で個々の人の境遇や事情は、各個の能力と共に可也まち／＼なのだから、畢竟各人が自分の事を考へ、自分の向ふべき仕事を定めねばならぬ。しかし自分がたとひ一月でも従事しようといふ仕事は、自分の性格なり境遇なりに影響する事が極めて大きいものだから、出来るだけ慎重に選ばねばならぬ。殊にそれが永い修學を要する場合には尙更である。で慎重にするといふ事には、一方に、自己に關する方面の綿密な考察と、他方に、職業に就ての周到な調査とを要する。で、職業に關する徹底的調査をするには、現今に於てさう適切な材料が多くない。女性の仕事は範圍が廣くないといふものゝ、二職業でも優に一冊の書物になる程の記録を必要とするものが多いから、大抵のさういふ方面の書物には、斷片的な記事か、ごく大體の叙述に止まるのはやむを得



ない事である。そこで各自は自分の師とか両親とか先輩とか、或は又之に關係ある人の中から自分のしようとする職業の従事者を求めて、種々の事情を尋ねるのがよいと思ふ。

學問が職業界に足をふみ入れて、各職業を科學的に測定し、個性を科學の鏡にかけ、兩者をカードにでもして、對照が出来るやうにすれば極めて正確なのであるが、まだそこまで進んでゐない現在では、やはり、参考書や雜誌の参考記事などによつて、大體の概念を得た後、其道の人に尋ねるより外はないのである。

## 2 職業生活の倫理

人間が成功するのも失敗するのも、人間らしさを發揮するのもしないのも、齊しく職業生活に於てである。そして、職業生活で何人が成功するかといへば、其の職業に徹底した人である。其の職業を愛する人である。其の職業に於て信用ある人である。

所が實際の職業者は、あまり職業に熱中してゐない。いやなのだ。やめたいのだ。食へさへすればやめるのだが、食へないからかちりついてゐるのだ。かういふ人がずるぶん澤山ある。これでは只仕

事が苦しいばかりで、幾年仕事を勤めても、ちつとも成功しつこはない。

初めにのべたやうに、職業には、利己性と利他性がある。利己性の中でも精神的利己性と物質的利己性とがある。そして職業の中には、精神的利己性のつよいものと弱いものとがあり、物質的利己性の厚薄もある。で精神的利己性即ち職業そのものから、従事する事自身から得る満足の大い職業は高等な仕事であり、むづかしい仕事であり、従つて教養修練を多く要するものである。天才的な仕事や教育の事業の如きは、やつてゐる事自身に、とても愉快な事が多いのであるが、事務員の如き割合に單純な仕事は、機械的なものだから、精神的利己性が少いので、勢ひ物質的利己性を中心にしたくなる。即ち金の爲に働いてゐるといふあたまになり、仕事が苦しい事になつてしまふ。

しかし仕事の性質上から、かうした傾向は生ずるけれども、結局は従事者の心がけによつてどうにもなる。まづ最も大切な事は、職業を愛するといふ事である。職業を愛するには、喜びを發見せねばならぬ。喜びを發見するには、仕事そのもの、中に理想を認めて、之を實現する事に努力せねばならぬ。女醫となつて其仕事を愛する爲には患者に對して正確な診断と、適切な與藥とによつて全快の喜びを見ようといふ理想がなくてはならぬ。教師は自分の教へ見を立派なものにしあげようとの理想



を必要とする。機械的な仕事と見られる事務員などの勤務でも、文字一つ、カード一枚をかく中に、理想をたて、標準をたて、仕事そのものゝ完成を喜ぶといふ精神があれば、職業生活は決して不愉快でない。

だが、大勢の中で仕事をするとなると、どんなに仕事が愉快でも、周囲の人との関係から、面白くない事が起るものである。しかしそれは、仕事さへ愉快ならば、大した問題にならぬ。仕事が不快な時にこそ大した問題になるのである。

仕事が愉快か不愉快かは、結局當人の仕事に対する態度でさまるものである。仕事に對して何の興味も責任も感ぜず、我儘な態度をとるものがある。之はとても永續きの出来ないもので整理の鉈は第一に彼女の首をねらふであらう。又、仕事に興味は持たない、併しやる事はちやんとする、只氣をきかさぬ、機械的だ、否むしる機械だ、仕事が義務的で、熱もなければ愛もない、時間がくれば早く歸らう、なるべく樂をしよう、かういふ連中がある。だんくこんな人的機械がとて多くなつて來た。一番立派な態度は、些末な仕事をも個性化し、其所に熱情をもち、眞摯之に當るものである。かゝる態度ならば、仕事が生きて能率もあがる。仕事中心だからやつてゐる間も愉快である。精神的利己性

が満足されてゐる。さうした仕事はよく出來あがるから利他的にも立派なものとなる。

同じ利己性の満足でも、物的利己性を第一にすると、即ち金をほしがつて仕事をする、仕事が多くて、金の多い方がいゝ事になる。使ふ方では、仕事が多くて金の少い方がいゝのだから、そこに立場の對立がある。で仕事が苦しいと、勢ひ骨惜しみをしたり、機械的になつたりするので、仕事の成績があがらない。利他性が満足されない。利他性が十分でなければ昇給や地位の昇進は少い。

所が精神的利己性を満足せしめようすれば、金は第二である。仕事そのものゝ中から興味を見出さうとすると、仕事に熱があり、愛があるので能率があがる。利他的分子が多くなるから、使ふ方でも其價値を認めて、昇進や昇給の機會が出来る。物的利己性は自然に満足されるのである。即ち内的利己性を第一にすれば利他性がつよくなり、従つて物的にめぐまれるが、物的利己性を第一にすれば、内的利己性も薄らぎ、利他性も薄弱になるので、物的利己性が却つて稀薄になるのである。即ち、金をほしいと思つて之を追へば追ふほど、金は全速力で逃げを打つけれども、金を問題にせずひたぶるに仕事に熱中すれば、金があとを追ふ事になるのである。

すると、職業婦人になる人は、金のほしいものではだめかと思はれる。が金がほしい時は、金を第



一にせず、仕事を第一にする事が得策であり、捷徑なのである。現今の職業婦人は多くは経済的必要から仕事に携はるのであるが、仕事本位でなくては到底職業生活は成功するものでないし、愉快に行くものではないのである。

仕事本位であれば、それに熟練する事が早い。従つて、使ふ方も能率のあがる人を離しはしない。なくてはならぬ人として、ますます永続勤務を望むやうになる。所が、仕事がまづく、不熱心ならば、金本位になるので、月給が一圓でも多い所、少しでも楽な所があれば、すぐにも転職しようとする。植物でも、やたらに植換へばかりしては、とても繁茂するものではない。

要するに、職業に入込むには、特殊の分擔性をよく調査し、己の性格によくあつたものに従事し、従事した上は仕事本位、内的利己性本位、利他本位で永続せねばならないのである。

### 3 喜びと悩みを

職業生活が、己の性格に適した場所で行はれて、且つ之に對する態度が、利他本位であり、仕事そのものからの内的満足が第一とするものであるならば、只これだけで、職業生活は効果を甚しく大き

なものとなし、弊害を甚だしく小なるものとする事を私は確信する。

仕事の中に、自分の個性が表現されて行く愉快さ、其の仕事に熱心なるが爲の進歩、愉快なる職業生活の間に、實社會の事情や男性の性格や生活を認識し得る事は、仕事を本位とする時に於てのみ極めて穩當に得られるのである。

けれども、職業を只單なる金錢獲得の手段だと考へるやうなものには、この効果の方面が皆弊害の方面に偏して、折角の貴重な體驗も、只禍根の蓄積に外ならぬ結果を來すのである。

弊害の第一にあげた虚榮や濫費の問題は、勤勞の價値を知る効果の半面ではあるが、仕事に對する愛着をもつ以上、虚榮的な扮飾などは、生活の第一要件ではなくなるべきであるが、仕事は手段であり、金のみが目的である時は、仕事が面白くないので、快を外に求めて、虚榮となり、従つて濫費となるのである。

職業婦人になる人の境遇は、金錢的に潤澤とはいかぬものが多い。で、外に出て働かないとすれば、あまり多くの小遣も要求出来ない家のものが、一旦外で金を得るとなれば、自分で得たといふ自由さと強さから、之を我物とし、父兄も之に目をくれようとせぬ事が多いから、どうしても、金錢的に



寛大な氣持が出て来る。虚栄心が之をいゝ事にして、浪費にまで馴致する。そこで金銭は、彼女に對して *bad master* となり、結婚して後までも浪費癖がとれぬ事になる。「割合に贅澤で買喰がすきだ」といふ事は、本當かもしれない。

男性の中の生活が一面には男性をよく理解する機會を與へるけれども、他面戀愛事件を起しやういふのも事實である。乍併、之も自己の心の態度如何による事である。人間の精神は、瞬間的に意識の中心となつてゐるものがあると同時に、之が永續的中心となるものもある。始終念頭をはなれぬものがある。意識の永續的中心が、合理的な道德的なものであれば、生活に故障は起らないけれども、之が不合理である場合、又は其中心觀念が永續性を缺き、瞬間的浮動性をもつてゐる場合には、大抵慾望の奴隸になり了せてしまふ。仕事が己の意識の世界を充たしてゐる時には、戀愛の如き根強い力でも應ずる隙を見せぬ。凍とした威容は、一切の悪魔を撃退する。

職業婦人には女らしさが少いといふ事もよくいはれる事であるが、之も程度の問題であり、其の人の考にもよる問題である。舊來の男子への寄生的生活時代に於ける理想たる、室咲きの花の如き纖弱な従順性は、職業婦人にはないかもしれないが、將來の婦人に果して之が唯一の理想であらうか。

たとひ職業生活をやらぬ女性でも、生來男まさりの性格のものもある。かゝる個性をもつた人を、職業婦人になつた後に視て、之のすべてが職業生活から得たものと判定するのは、誤である事勿論である。只、周囲の影響から、女らしいやさしみが幾分なくなる事はある。が之も自己の注意によつて、陥らぬ事は不可能ではないと信ずる。

女らしさがなくなり、男性の能力を見くびるやうな人は、兎角選擇條件がむづかしくなり、又相手の方でも決して歓迎しないので結婚難になるわけけれども、女としての生涯の道をよく自覺し、職業生活の體験をつかんで、弊害に囚はれぬやうにするならば、結婚難は必然消え失せるであらう。

一旦結婚しても、職業能力をもつといふ事は、極めて好都合である。夫婦協力して一家をもちたてる事も出来、まさかの場合の貞操や生計の保障も出来るのである。然るに、職業婦人の家庭に、兎角風波のたえぬといふのは、畢竟夫妻共に、職業生活の理解の不足に起因する。之は始めにも述べた事だが、主婦である職業婦人は外の仕事と内の仕事で、二重の責務を負うてゐるのだから、夫は之を認めて寛大な處置をとるべきである。妻に勞働をさせ、金をとらせる一方に於て、どこへも勤めぬ場合と同じやうな待遇を妻に對して要求するならば、到底平和には行き難い。でも、妻にとつては夫に



慰安休息を十分せしめるといふ事が、本務なのだから、職業生活によつて之が閑却されぬやうに、たえず努力せねばならぬ。かくて夫は妻に同情し、妻は夫に同情して、互に他の満足を得ようとするならば、決して風も起らず波立たず、鏡の如き海上に船を浮べた愉快さがあるであらう。

育児の問題は、夫妻の心の態度だけでは解決の出来ぬ事である。子供大事と思ふならば、仕事は到底出来ない。が、子供をもつても尙他へ働きに出ねばならぬのは、一面からいふと、子供のない時の生活膨脹が手傳つてゐる。結婚したては、家に用も少いから主婦も職業をつとける。二人の収入では一人の時より樂だから、餘裕の部分をも費ひ果し、こゝに生活が贅澤になる。殊に結婚前のしきたりを踏襲する。その中に子供が生まれると、費用が嵩む。生活を緊縮しようとしても、元が元だから、思ふやうにならぬ。そこで、多く得て多く費す主義になつて、「贅澤な貧乏」をつとける爲に外に働く。

で子供が閑却される事になるのである。故に、子供のない時に、出来る限り經濟的基礎を作つておいて、子供に最も手のかゝる時は、母自身が之に専ら當るのを理想とする。

やりきれないから出るとしても、打算的に考へなくては、却つて出ても何にもならぬ場合が少くない。主婦の収入五十圓として、外に働く事によつて女中を雇ふと給料食費を要し、自分も外出の被服、

化粧費・乗車賃・交際費などを差引けば、甚だ残が少くなる。大切な子供の教育を第一に考へると、之は頗る問題である。

勤めの場所を近くに求めるとか、家庭で出来る仕事に轉ずるとかいふ事も一方法であらう。しかし子供の數と、間隔とによつて差もある事だし、産兒期間の終了が早いと晚いによつても違ひはあるが、大體に於て、子供の教育に大なる支障のない範圍で職業につくといふ事にせねばならぬ。



### 第三編 修學と修養

#### 一一一 婦人問題から見て

##### 1 婦人問題の變遷

細君が何かきいた風な事を話してもすると、御主人はそばから「生意氣いふない。」とけなしつける。何か口出しをする、内助のつもりで意見を吐くと「貴様の出る幕ぢやない。引込んでゐろ。」

婦人の地位の向上が叫ばれてゐる當今に於ても、まだくかうした場面が知識階級の家庭の間にも往々見出される。だが、學者の説では、太古蒙昧の時代には、女性中心の社會があつて男子はさつぱり勢力がなかつたといふ。果して之が眞理だとすれば、今日の婦人の「生意氣いふない」式の、低い地位になつたのは、大きい謬だといはねばならぬ。

學者はいふ。一般生物の發現して、繁殖する過程を見ると、雄性は雌性よりあとに出て來たもので

ある。はじめは個體の分裂生殖だつたものが、後には雌雄兩體による方が有利である事になつて、ここに雄性が生じたのだ。人間の社會でも初めは女性が優勝の地位をしめ、子供も女親のものであつた。が經濟的原因が主となつて、男子が經濟力を把握する事になると、女子はお勝手の仕事、衣服・育児に専念し、遂には男性の所有する一財産の如く見られるやうになつた。之を歴史に徴しても、女性の勢力のあつた事は我國の太古史・上古史に明かであり、女性が財産的に視られ、贈與の目的物となり、政權爭奪の手段に使はれた事は、戰國時代の史上に明かである。つまり女性の地位は天から地に落ちたのである。乍併、近代の歐洲に於ては、齊しく地に墮ちた婦人の位置を自覺し、之が向上の爲に婦人運動が起り、参政權運動も生じ、文藝方面にも之を助長するさまざまの戯曲や小説が歡迎されて、漸次婦人の地位が上向きになつて來た。この婦人地位の向上の主潮をなしてゐるものは、時代によつて多少の差がある。まづ第一期は女權擴張論の時代である。即ち女子の法律・經濟・教育等に於ける地位を皆男子と同等に要求しようとした時代である。何となく、男女同權を叫んで喧嘩腰になり、男に喰つてかゝるやうな色合があつた。けれども、同等を叫んだ所で、男子に同等を許して貰はねばならぬ弱味があつた。自分から其男性への隷屬生活を拒否しようとするには、自ら生活を全うする必要があ



る。獨立する必要がある。食へなくては、獨立が出来ない。食はせてくれる人に隷屬しては、地位はあがらぬ。自分で食ふ爲には働かねばならぬ。こゝに職業活動を以て婦人が經濟的獨立をはかり、以て男性への隷屬から解放されようとしたのであつて、これは婦人運動の第二期の現はれである。かくして妻となつても、獨立能力があり、又獨立し得る収入を得てゐれば、夫に盲従を餘儀なくさせられる事もない。そこで外に働く。かうなると、育兒や家庭の問題に支障が出来る。支障が起つたら、子供などは共同の托兒所へ預ければいゝなどといふ今日からいへば、突飛な議論までする人があるやうになつた。しかしさういふ生活の下では、本來の女性の職能が、全然閉却されてゐる。そこで女性は女性としての本務の爲に、舊來の極端な壓迫から解放され、母性保護の爲に婦人の地位を向上せしめねばならぬといふ事になつた。之が第三期の時代である。即ち男女同權から、經濟的獨立をへて、母性保護論にまで進んで來たのである。

之は婦人の地位向上發展のごく概略であるが、男女の同權や經濟的獨立、母性保護、何れの問題にしても、女子尊重・男尊女尊の問題となる。前にも云つたやうに、一生の中本當に貢獻の出来る正味の時間といふものは、生涯の七分の一に過ぎないのに、我國の各國に對する地位を考へる時、どうして

も國民の一致的努力が必要となり、その爲には、男女協同が必要となり、従つて、男性への伴侶としての女性が現在よりも自覺し、もつと偉くならねばならぬ。舊來通り女性が隷屬して、男子のみが社會的活動をするのでは、一家として男子がやりきれないのみか、女子自身も不幸であり、従つて國家社會も能率をあげる所ではないのである。此意味から、女子が尊重されねばならず、又一方に偏して女尊男卑とならず、男尊女尊の相互主義が必要となるのである。で尊重されるが爲には、個々の婦人が智力に於ても、徳性に於ても、體力に於ても、それだけの實質を備へねばならぬ。で婦人全般の尊重される爲には、一面男性が女性を奴隷視する考を去らねばならぬと共に、之を去らしめるだけの實質が女性全般に備はらねばならぬ。併し其の先達となるものは、中等教育以上の教養ある婦人である事勿論である。とりわけ、現在其の學窓にあるものが、さうした改善の種を培養するに一番よい位置に居るものといはねばならぬ。つまり貴女方には、かゝる大任務があるのである。貴女方の母から祖母・曾祖母とだん／＼に溯つて幾千幾百代の祖先以來の男性への隷屬といふ傳統が、貴女方の時になつて、男女協力、男尊女尊といふ、女性史上に於ける、女性地位の一大變革に向はうとしてゐるのである。丁度貴女方を既往の女性と將來の女性とを結びつける、特に太い鎖として、貴女方のあとに幾千



年もつゞいて生れる女性の幸福への轉向が、今から企てられねばならないのである。そこで貴女方の責任はとても大きい事になる。重い責任を遂行するにはそれだけの實力がなくてはならぬ事いふまでもない。果して實力はあるであらうか、果して此の重責は遂げ得られるだらうか。私はこゝで其の實力のつけ場所としての高女教育を觀察しなければならぬ。

## 2 高女教育の改善

今日でこそ高等女學校を大抵五年課程にしうといふ大勢となり、各校に高等科や専攻科が設けられ出したけれども、制度そのものが、女には大した能力がないもの、男ほどに及ばないものとして出来て居り、又高等女學校を出れば、中流以上の家庭の主婦となるには結構だとして作られたものである。所が、制度の性質としてさう毎年變更する事は出来ないのに、社會の大勢は、日進月歩の快速力で進むから、制度がどうしても、しろの方へ取残される事になる。そこで、よほど取残されてから気がついて、何とかしようといふ時に、第一に出現するのが、學習時間の分量的増加である。すなはち、四年制度のものが五年になり、又高等科や専攻科を二年とか三年とかきめて設置する。今日の状態は

まあこんな所に止つてゐるのである。

で、制度そのものが、何といつても、舊來の婦人觀に立脚して、家庭の人となるやうに全體を構成し、職業的能力や資格も十分つけなければかりでなく、各學科に於ても、實生活を目標としながら、之にピッタリついたやうなものを本當に授けようとはしない。私の考では、非實用的な學科、即ち頭をねる學科と實用學科との何れもが、徹底しないと思ふ。思考陶冶として必要な數學の如きも、中學校のそれに及ばず、實用學科としての裁縫科の如きものも、女學校だけでは一人前になれず。料理はお勝手でノートと首引きしなくてはやれず、かうした生まはんかな知識が、學校を出てから二三年の中に可也怪しいものに薄れて行くのだから困つたものである。關西のある女學校では、英語・數學其他中學校と共通な學科は皆中學校用教科書を使つてゐるが、上級學校への入學率は甚だ優秀だといふ事である。勿論今日の中學校は上級學校の豫備校的であつて、之にはするぶん問題もあるであらうから、中學にのみ追隨するわけにいかぬ。女性としての歩むべき道に順應するやうな實用方面にもつと實用味を徹底せしめると共に、思考力養成方面の學科をもつと高める必要があると思ふ。今日の状態では、細くて短い制度を、やむを得ず引きのばして、四年を五年にし、高等科・専攻科をおくので、細いなが



らに之を長くするだけなのだけれども、細いものをのばしても知識の面積は割に増大しない。あまり引延しばかりすると、婚姻時期がおくれて支障を生ずるので、なるべく太く短くといふ主義をとらねばならぬと思ふ。内容をたつぷりで、頭も出来、腕もみがけるといふ教育を、年数を要せずに行ふ事が大切なのである。

けれども、今の所之も理想であり、理屈であつて、さうした目的に合致したものはないのだから、前に述べたやうな、劃時代的な今日の女性の重責を果す爲には、女學校を卒業する貴女にとつては、やはりもう一步ふみ出して高等教育に進むか、自分で勉強するか、兎に角一層の研鑽を積み重ねなければならぬのである。

### 一三 女子の高等教育

#### 1 傾向

女學校を出ただけでは足りないといふ聲は、識者の間から起ると同時に、卒業生自身の間からも盛

んに起るやうになつたのは、まことに結構な事である。つひ近頃までは、女子の高等教育といへば、女高師兩校の外では女子大學とか、私立の英語や裁縫の學校位のものであつたが、最近には其數に於ても多くなり、其の範圍に於ても廣くなつて來た。で帝國大學に於てすらも最初は聴講生として専門學校出のものを入れたのが、東北や九州などでは本科の學生として男子と同様な取扱をする迄になつたのだから、進歩したものといはねばならぬ。

女子の高等教育は、従来主として職業的教育であつた。が近來の傾向としては、一般的教養を高めるといふ目的のものがだん／＼増加しつゝある。高等女學校に於ける高等科や、福岡・大阪・宮城等に出來た公立女子専門學校の如きは、大體に於て職業婦人よりも高等な淑女の養成機關と見てよからう。文部省では、官立の女子高等學校を設立する考があるといふ事だが、近頃男子の高等教育機關がこれほど擴張されたのに、女子の方は至つて寂寥なのだから、この企は機宜を得たものであらう。官立の専門學校は少いけれども、時代の要求に従つて、私立のそれは随分出來た。其の全體の傾向では、何といつても女子に職業能力乃至資格を賦與するものが大部分である。之は婦人の職業熱が高まつた爲でもあり、經濟的獨立の必要が、女性の頭に痛切にひゞいた結果でもあると思ふ。